

平安京左京五条二坊十一町跡・
烏丸綾小路遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一六―八

平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京五条二坊十一町跡・
烏丸綾小路遺跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、整備工事に伴う平安京跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

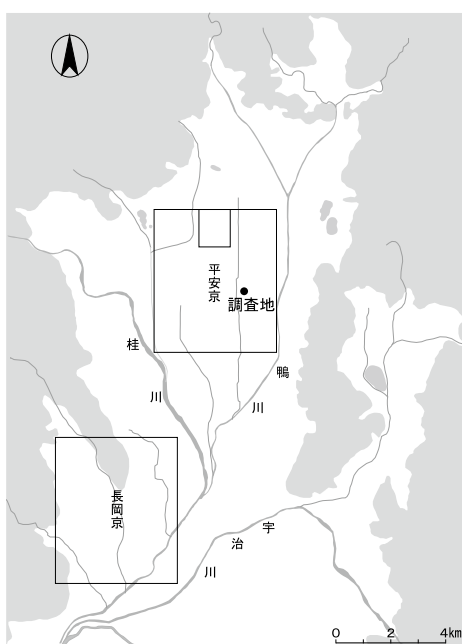
平成29年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・烏丸綾小路遺跡（文化財保護課番号 15 H 052）
- 2 調査所在地 京都市下京区高辻通堀川東入西高辻町602番地
元京都市立格致小学校内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2016年5月17日～2016年9月8日
- 5 調査面積 423㎡
- 6 調査担当者 近藤章子・辻 裕司・山下大輝
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 調査区ごとに1区は1001、2区は2001から通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。柱列は別に1区は11、2区は21から通し番号を付した。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 近藤章子
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
3. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 1区の遺構	5
1) 第1期(弥生時代)の遺構	5
2) 第2期(平安時代)の遺構	6
3) 第3期(平安時代後期から鎌倉時代前半)の遺構	6
4) 第4期(鎌倉時代後半から室町時代)の遺構	6
5) 第5期(江戸時代)の遺構	7
(3) 2区の遺構	9
1) 第1期(弥生時代)の遺構	9
2) 第2期(平安時代)の遺構	9
3) 第3期(平安時代後期から鎌倉時代前半)の遺構	9
4) 第4期(鎌倉時代後半から室町時代)の遺構	15
5) 第5期(江戸時代)の遺構	17
4. 遺 物	19
(1) 土器・土製品	19
1) 弥生時代の土器	19
2) 平安時代の土器	19
3) 鎌倉時代から室町時代の土器	21
4) 江戸時代の土器	29
(2) 金属製品	36
(3) 石製品	36
5. ま と め	37

図 版 目 次

- 図版 1 遺構 1 区第 1 期平面図 (1 : 100)
- 図版 2 遺構 1 区第 2 期平面図 (1 : 100)
- 図版 3 遺構 1 区第 3 期平面図 (1 : 100)
- 図版 4 遺構 1 区第 4 期平面図 (1 : 100)
- 図版 5 遺構 1 区第 5 期平面図 (1 : 100)
- 図版 6 遺構 1 区北壁・西壁断面図 (1 : 100)
- 図版 7 遺構 2 区第 1 期平面図 (1 : 100)
- 図版 8 遺構 2 区第 2 期平面図 (1 : 100)
- 図版 9 遺構 2 区第 3 期平面図 (1 : 100)
- 図版 10 遺構 2 区第 4 期平面図 (1 : 100)
- 図版 11 遺構 2 区第 5 期平面図 (1 : 100)
- 図版 12 遺構 2 区北壁・東壁断面図 (1 : 100)
- 図版 13 遺構 2 区南壁断面図 (1 : 100)
- 図版 14 遺構 1 1 区第 1 期全景 [弥生時代] (東から)
2 1 区第 2・3 期全景 [平安時代から鎌倉時代前半] (東から)
- 図版 15 遺構 1 1 区第 4・5 期全景 [鎌倉時代後半から江戸時代] (東から)
2 溝 1030 (北から)
3 土坑 1001 (南西から)
- 図版 16 遺構 1 2 区第 1 期全景 [弥生時代] (東から)
2 2 区第 2・3 期全景 [平安時代から鎌倉時代前半] (東から)
- 図版 17 遺構 1 埋納遺構 2428 (北から)
2 埋甕 2061 (西から)
3 土坑墓 2216 (北から)
- 図版 18 遺構 1 地下室 2123 (北東から)
2 地下室 2123 集石検出状況 (南東から)
3 地下室 2123 土器出土状況 (南から)
- 図版 19 遺構 1 2 区第 4・5 期全景 [鎌倉時代後半から江戸時代] (東から)
2 土坑 2209 (北から)
3 柱列 21 (北から)
- 図版 20 遺物 地下室 2123 出土土器 1
- 図版 21 遺物 地下室 2123 出土土器 2
- 図版 22 遺物 土坑 1001・1002 出土土製品

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	調査前全景（北から）	2
図4	1区作業風景（西から）	2
図5	2区作業風景（北東から）	2
図6	地元説明会風景（南西から）	2
図7	流路1145セクション断面図（1：40）	6
図8	埋納遺構1073実測図（1：10）	6
図9	柱列11実測図（1：40）	7
図10	溝1030実測図（1：20）	7
図11	1区東西セクション断面図（1：50）	8
図12	埋納遺構2428実測図（1：20）	9
図13	埋甕2061・2108実測図（1：20）	10
図14	地下室2123内土器出土状況実測図（1：30）	10
図15	地下室2123実測図（1：50）	11
図16	土坑墓2216実測図（1：20）	12
図17	集石2187実測図（1：20）	12
図18	柱列22実測図（1：50）	13
図19	柱列23実測図（1：50）	13
図20	柱列24実測図（1：50）	14
図21	土坑2209実測図（1：40）	15
図22	土坑2036実測図（1：40）	15
図23	土坑2250～2253実測図（1：40）	16
図24	集石2065・2129実測図（1：20）	16
図25	石室2190実測図（1：30）	17
図26	柱列21実測図（1：50）	18
図27	流路1145出土土器実測図（1：4）	19
図28	埋納遺構2428・1073、埋甕2061、柱列24：柱穴2293出土土器実測図 （1：4、36のみ1：8）	20
図29	地下室2123出土土器実測図1（1：4）	22
図30	地下室2123出土土器実測図2（1：4）	23
図31	地下室2123出土土器実測図3（1：4）	24

図32	土坑墓2216出土土器実測図（1：4）	25
図33	溝1030出土土器実測図（1：4）	26
図34	土坑2209出土土器実測図（1：4、1：8）	27
図35	土坑2036出土土器実測図（1：4）	27
図36	土坑2204・石室2190出土土器実測図（1：4）	28
図37	土坑1017出土土器実測図（1：4）	29
図38	土坑2084・2085出土土器実測図（1：4）	30
図39	土坑1001出土遺物実測図1（1：4）	31
図40	土坑1001出土遺物実測図2（1：4）	32
図41	土坑1001出土遺物実測図3（1：4）	33
図42	土坑1002出土遺物実測図（1：4）	34
図43	土坑2097出土土器実測図（1：4）	35
図44	金属製品実測図（1：2）	36
図45	石製品実測図（1：4）	36
図46	遺構変遷図 第1期（1：300）	37
図47	遺構変遷図 第2期（1：300）	38
図48	遺構変遷図 第3期（1：300）	38
図49	遺構変遷図 第4期（1：300）	39
図50	遺構変遷図 第5期（1：300）	39

表 目 次

表1	遺構概要表	5
表2	遺物概要表	19
表3	土器類一覧表	41
表4	土製品一覧表	50
表5	金属製品・石製品一覧表	51

平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡

1. 調査経過（図1～6）

この調査は、京都市下京区高辻通堀川東入西高辻町602番地、元京都市立格致小学校内で実施した体育館及び特別教室棟整備工事に伴う発掘調査である。調査地は平安京左京五条二坊十一町跡、弥生時代から古墳時代の集落遺跡である烏丸綾小路遺跡に該当する。工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施した結果、遺構が確認されたため発掘調査の指導が行われ、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け、調査を実施することとなった。

調査は2016年5月17日よりフェンスの張替などの付帯工事から始めた。調査区は文化財保護課の指導により校内地の西部に2箇所の調査区を設定し、北側を1区、南側を2区とした。両調査区の近代以降の盛土及び攪乱は重機により掘削し、その後、人力掘削による調査を開始した。調査は第1面から第3面まで計3面実施し、それぞれの遺構面において記録作業を行い、各遺構面の調査終了時には文化財保護課の臨検・指導を受けた。また、当事業における検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授、立命館大学の木立雅朗教授の視察を受けた。

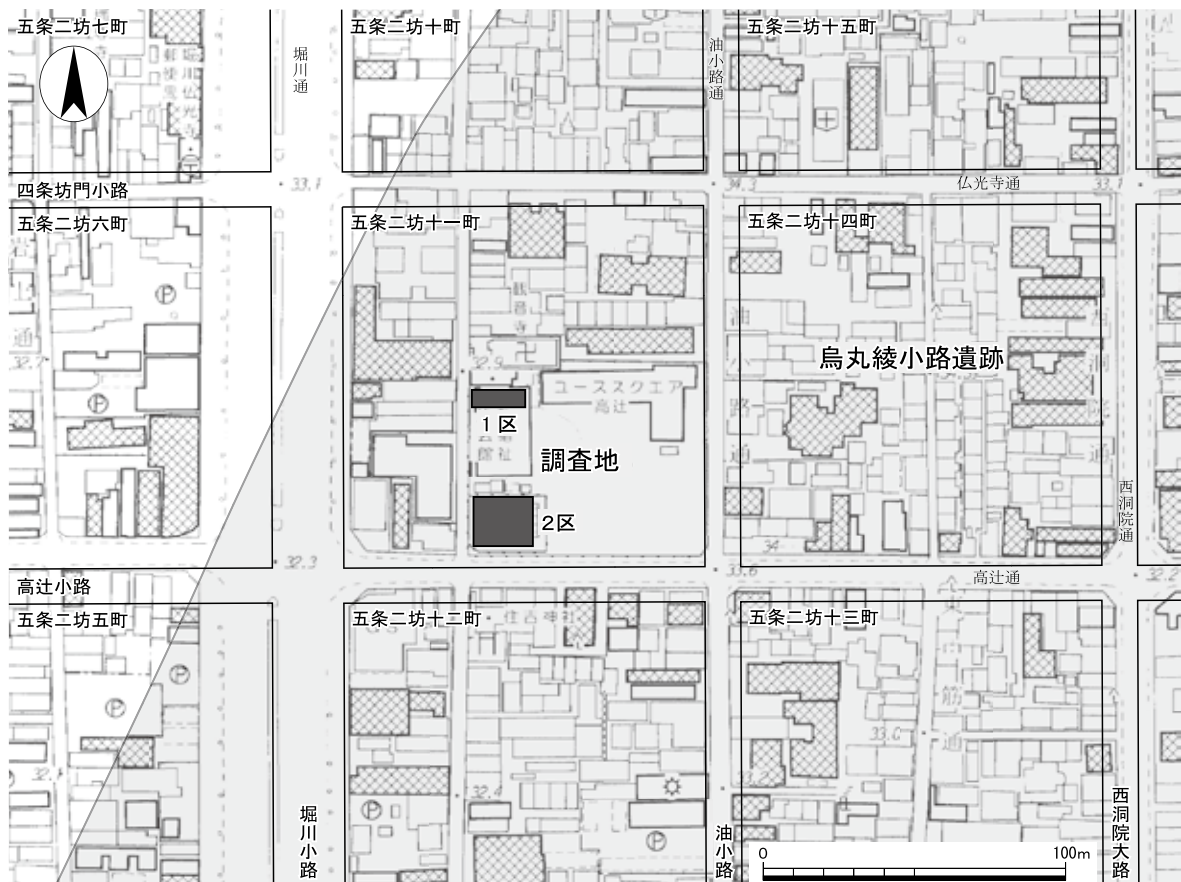


図1 調査位置図（1：2,500）

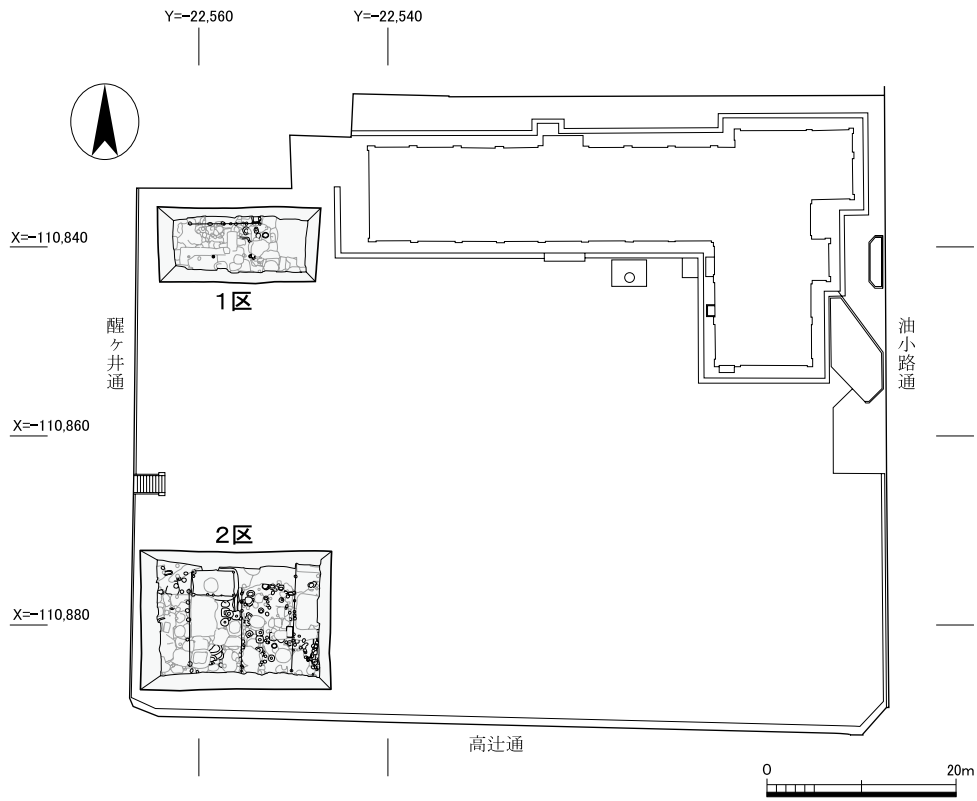


図2 調査区配置図 (1 : 800)



図3 調査前全景 (北から)



図4 1区作業風景 (西から)



図5 2区作業風景 (北東から)



図6 地元説明会風景 (南西から)

調査では、弥生時代の流路、平安時代の柱列や柱穴群、鎌倉時代から江戸時代の町屋に関連する遺構群などを検出した。調査は1区を優先して行い、7月1日より先行して埋め戻しを行った。2区は調査終了後の8月18日より埋め戻しを行った。その後、復旧工事などを行い、9月8日にすべての調査を終了した。

調査期間中の7月23日には地域住民向けに現地公開を行い、普及啓発に努めた。

調査及び報告書作成にあたり、鬼丸隆博氏（住吉神社宮司）、近藤義昭氏（京都市教育委員会学校統合推進室計画課 元格致小学校施設長）には、資料の提供などご協力を得た。記して謝意を表す。

2. 位置と環境

調査地は京都盆地を南流する鴨川右岸に堆積した鴨川扇状地の高まりにあり、北東から南西方向にわずかに下がる地形に立地し、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である烏丸綾小路遺跡が形成されている。烏丸綾小路遺跡は、現在の新町通高辻付近を中心として、東西約1.3km、南北約1.1kmの範囲に及ぶ京都市域では大規模な集落遺跡の一つである。集落の中心域は、弥生時代前期から後期には綾小路通以北に、古墳時代に入ると集落の中心域が綾小路通以南に移るとみられ、古墳時代初頭から古墳時代前期の竪穴建物や円形周溝状遺構が見つまっている。当調査地は集落の西端に位置し、弥生時代から古墳時代の流路が検出されることが予想された。

平安時代には平安京の条坊施工に伴って、調査地は北側を四条坊門小路、西側を堀川小路、南側を高辻小路、東側を油小路に画された平安京左京五条二坊十一町に位置するようになる。高辻小路に面した同町の中央部南半に当たり、四行八門制では西二行北五門と七・八門に該当する。同町には、平安時代には貴族の邸宅は存在していなかったようである¹⁾。

鎌倉時代以降は、平安京の解体と共に左京域に町の中心が移り、上京・下京に分かれる。室町時代には四条通や西洞院通付近には倉や酒屋などの存在が知られる。当地は下京西組に当たるが、時宗荘嚴寺（高辻道場）がこの付近にあったとされる²⁾。

桃山時代には、豊臣秀吉による京都改造で荘嚴寺は移転させられ、現在は下京区本塩竈町にある。この時期は秀吉による町割りの再編等が積極的に行われ、商工業地域の中心から外れた調査地周辺では、堀川と油小路の間に南北に通る醒ヶ井通が新しく開削される。続く江戸時代には友禅染が盛んとなり、また、西洞院紙や憲法染など地域独自の製紙業や染色業が盛んとなる。それは江戸時代を通して明治時代以降にも引き継がれ、現在でも染色や呉服関係の商店が残る。嘉永4年（1851）の太子山町文書には、太子山町の職種構成が書かれており、染色業が多いことがわかる³⁾。今回の2区南端で確認した漆喰で作られた方形の大規模な枡形も、こうした染洗い用の水槽と考えられる。

明治2年（1869）には、調査地は下京第八番組小学校となり、その後校名は第十区小学校、太子学校と名を改め、明治11年には格致小学校となる。当初、校地は油小路通に面した、北東部のみで

あったが、明治11年、17年には校地を南へ拡張、さらに大正、昭和17年（1942）にも拡張し、戦後昭和24年の改築により現在の広さの校地となる。その当時、校内北西部には稲荷社があったことが、「講堂横に稲荷大明神が祀ってあり、11月3日にはお火焚きで・・・」、「いまのきゅうしょくしつのところ、小さなおいなりさんがあって・・・」などと、格致校の思い出として語られている。⁴⁾稲荷社は学校改築の際に取り除かれるが、高辻通の南にある住吉神社に移され、現在も祀られている。⁵⁾今回の調査では、この稲荷社に関連する遺構を検出し、多数の土人形のキツネが出土した。

なお、格致小学校は周辺の小学校4校と統合され、京都市立洛央小学校となり、平成4年に閉校となった。

註

- 1) 「左京と右京」『平安京提要』 角川書店 1994年
- 2) 室町時代に書かれた康富記には、「莊嚴寺において南朝の貴紳の首がさらされる。・・・高辻堀川莊嚴寺油小路との間、北頬なり。」の記述がみられるが、詳細は不明である。
『京都市の地名』 平凡社 1979年
『京都坊目誌 新修京都叢書 第17巻』 臨川書店 1976年
康富記は応永15年（1408）～康正元年（1455）に書かれた外記官人中原康富の日記。
- 3) 『史料 京都の歴史 第12巻 下京』 平凡社 1981年
- 4) 『格致子ども百年史 創立記念100年誌』 京都市立格致小学校 1979年
『格致同窓会百周年記念誌』 格致同窓会創立百周年記念事業委員会 1991年
閉校記念誌『格致』 京都市教育委員会 1994年
- 5) 「昭和二十年 境内稲荷熊丸神社に（格致小学校稲荷神社）々殿に合遷祀す」 住吉神社年中行事

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図版6・12・13)

調査地は、旧建物解体後に埋め戻されたためほぼ平坦になっており、地表面の標高は33.8～34.0 mである。1区の層序は、現地表面から地表下1.5mまで近現代盛土、以下、江戸時代の整地層、-1.6mで平安時代の整地層、1.7m以下で地山となる。2区の層序は現地表面から地表下1.2mまで近現代盛土、以下、幕末から明治時代の整地層、-1.78mで江戸時代の整地層、-2.18mで平安時代の整地層、-2.4mで弥生時代以降の洪水層、-2.5m以下で地山となる。調査区内は多数の攪乱が分布し、また、各時期の遺構が重複した状態であったため、各時代の整地土が残存する箇所は極一部に限られる。そのため、基本層序は整地層が確認できた箇所を抜粋した。

このように、各時期の整地層と遺構の成立面との関係把握が困難であったため、遺構の重複関係、遺物の出土状況を観察して、江戸時代の包含層を除去した段階で第1面(鎌倉時代から江戸時代)、平安時代の整地層の上面を第2面(平安時代)、地山面で第3面(弥生時代)として調査を行った。しかしながら、遺構の重複関係が複雑で調査時には時期をとらえられなかった遺構が多数存在することとなった。そのため、整理作業で遺構の重複関係や出土遺物の時期を再検討し、第1期(弥生時代)、第2期(平安時代)、第3期(平安時代後期から鎌倉時代前半)、第4期(鎌倉時代後半から室町時代)、第5期(安土桃山時代から江戸時代)の5期に遺構を整理した。調査は1区・2区並行して行ったため、遺構番号は調査区ごとに割り当てた。

以下に、調査区ごとに各時期の主要な遺構について概説する。

(2) 1区の遺構

1) 第1期(弥生時代)の遺構(図版1・14)

地山上面で検出した遺構である。

流路1145(図7) 調査区西端で検出した、北東から南西方向の流路である。検出長は約6.8m

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 区	2 区
弥生時代	流路1145	流路2497
平安時代	埋納遺構1073	埋納遺構2428
平安時代後期 ～鎌倉時代前半	柱列11	埋甕2061・2108、地下室2123、土坑墓2216、 集石2187、柱列22～24
鎌倉時代後半 ～室町時代	溝1030、集石1007・1010	土坑2036・2204・2209・2250～2253、 集石2065・2129、石室2190、柱列21
安土桃山時代 ～江戸時代	土坑1001～1003・1017	土坑2084・2085・2097・2174、 井戸2013、トイレ遺構2029～2031

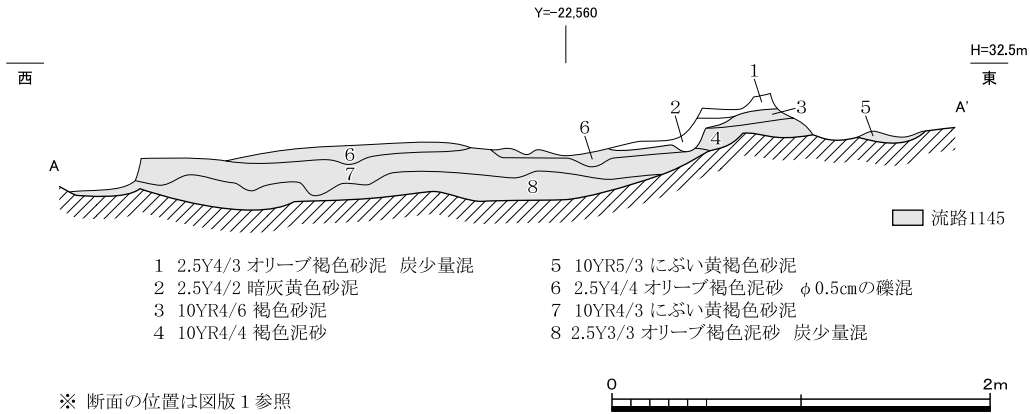


図7 流路1145セクション断面図 (1:40)

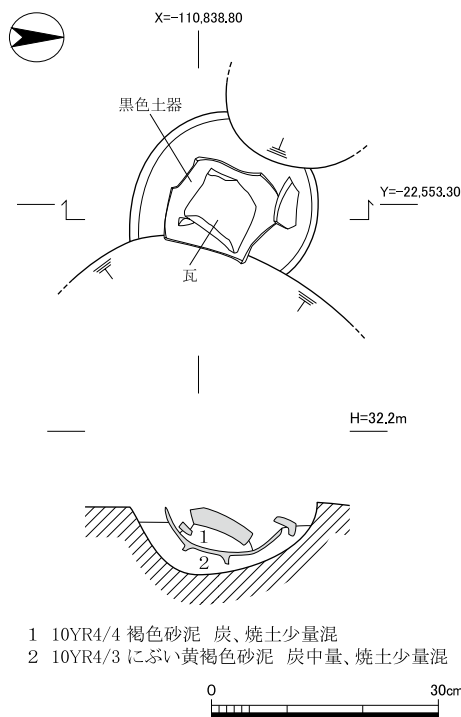


図8 埋納遺構1073実測図 (1:10)

で、幅は約3.8～4.6mある。検出面からの深さは約0.3mで、溝底の標高は北東端が31.77m、南西端が31.73mで、南西が北東よりやや低い。埋土はオリーブ褐色泥砂である。弥生時代後期の甕片が出土した。

2) 第2期 (平安時代) の遺構 (図版2・14)

地山及び弥生時代の遺構埋土上面または、平安時代の整地層の上面で検出した遺構群である。平安時代中期の柱穴を検出した。複数の柱穴を検出したが、遺物が出土しない時期不明のものも含み、建物としてのまとまりを捉えられるものは確認できなかった。

埋納遺構1073 (図8) 調査区東寄りで検出した。平面形は径約0.28mの円形、検出面からの深さは約0.1mある。柱抜き取り痕に10世紀後半の黒色土器碗を納めている。その他、平瓦、土師器皿、甕の口縁部が出土した。

3) 第3期 (平安時代後期から鎌倉時代前半) の遺構 (図版3・14)

柱列、小規模な柱穴を検出したが、建物としてのまとまりは確認できなかった。その他、土坑などを検出した。

柱列11 (図9) 調査区北端で検出した東西方向の柱列である。柱間は0.5～1.5mと不均等である。柱列を構成する柱穴は径0.2～0.5m、深さは0.1～0.2mある。

4) 第4期 (鎌倉時代後半から室町時代) の遺構 (図版4・15)

南北方向の溝、集石遺構、土坑などを検出した。

溝1030 (図10、図版15) 調査区南東端で検出した南北方向の溝である。検出長は約1.4mで、

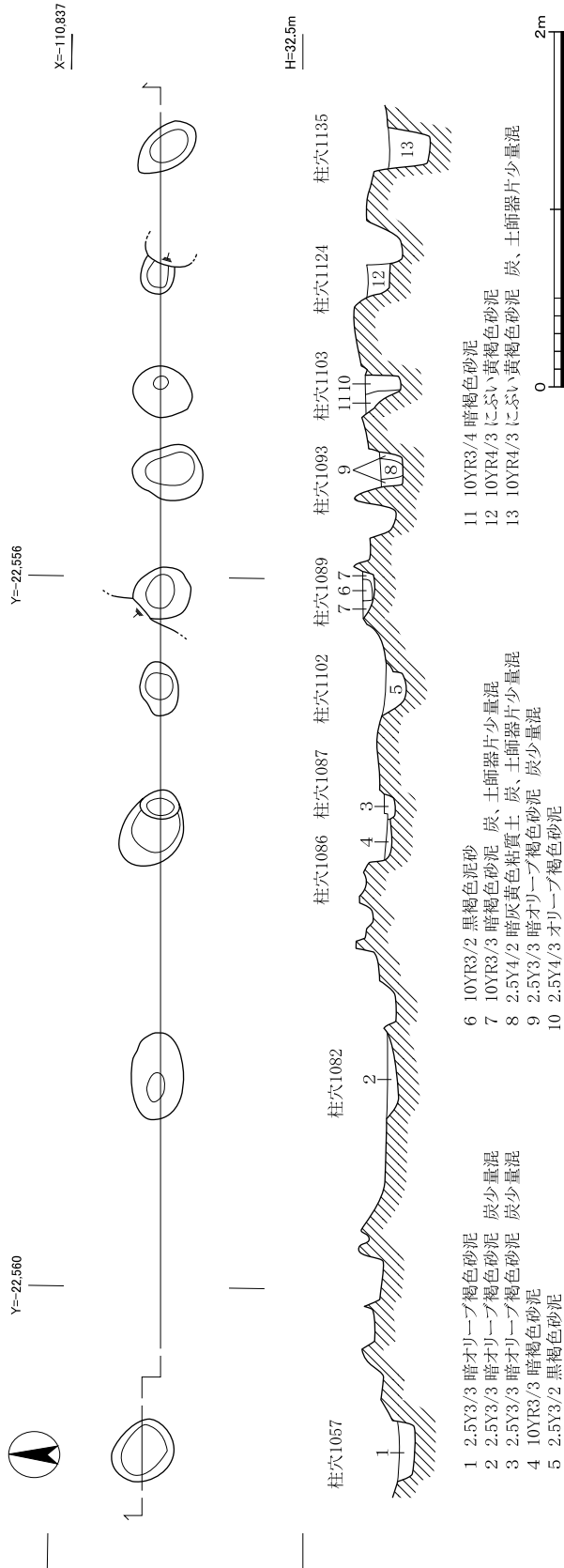


図9 柱列11実測図 (1:40)

幅は0.7mある。検出面からの深さは0.15mある。埋土は灰黄褐色砂泥である。底部はほぼ平坦である。一町内の中央、西二行と三行を区画する西側に位置しており、小径の西側溝として掘削された溝の可能性はある。埋土から14世紀前半代の土器がまとまって出土した。

集石1007・1010 (図11) 調査区中央西寄りで見出した。攪乱を受け、土坑の北半部が残存するのみである。集石1007の検出長は東西約0.8m、南北約0.3m、深さは検出面から約0.1mある。集石1010の検出長は東西約1.0m、南北約0.7m、深さは検出面から約0.28mある。埋土から13世紀末から14世紀前半

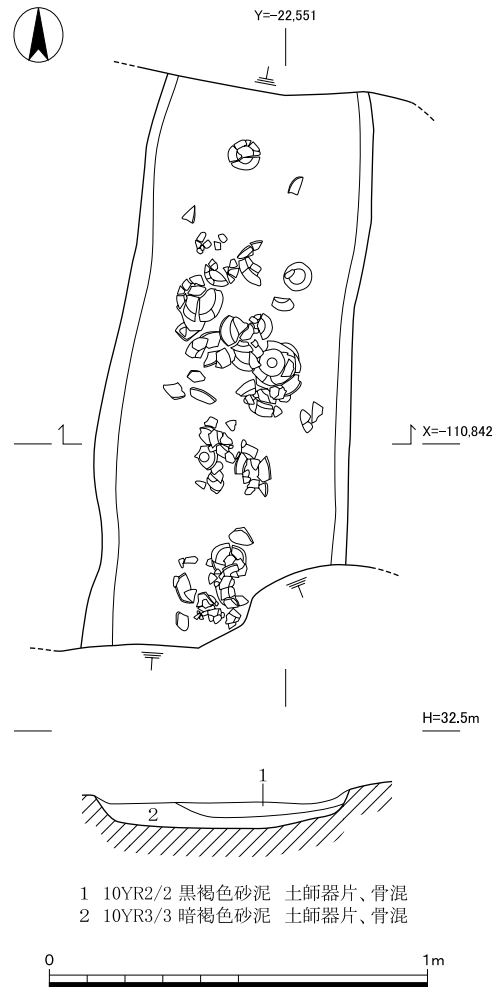


図10 溝1030実測図 (1:20)

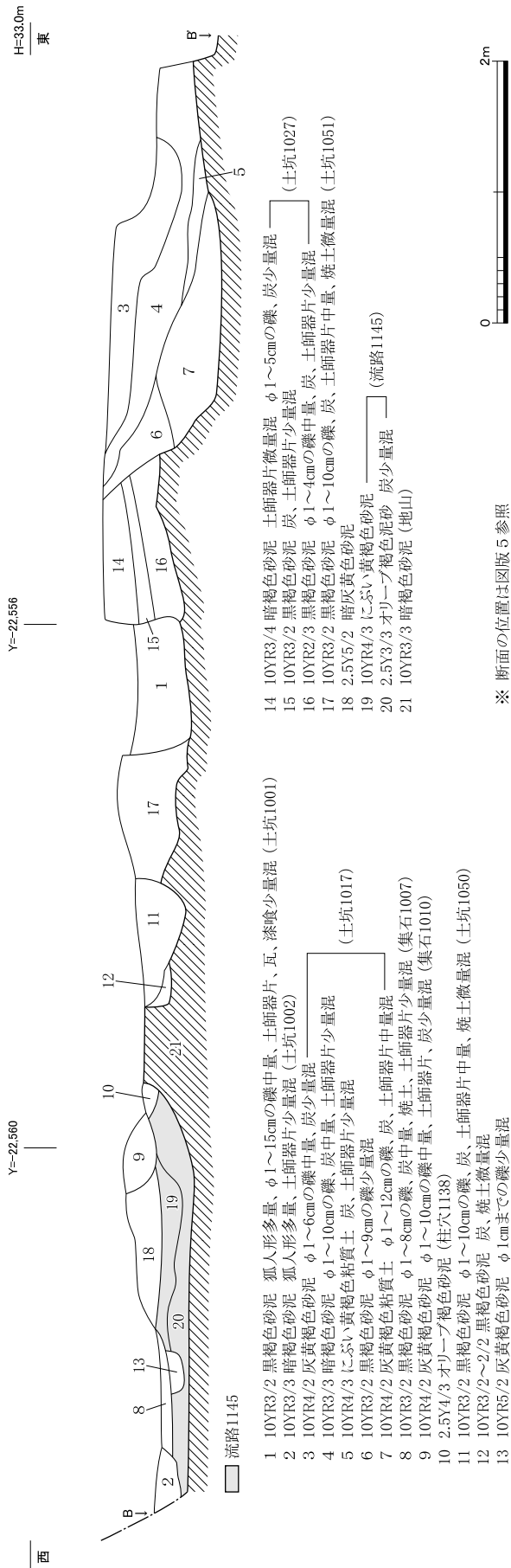


図11 1区東西セクション断面図(1:50)

代の遺物が出土した。集石1007からは骨片が出土したが、人骨とは判断できなかった。墓の可能性はある。

5) 第5期(江戸時代)の遺構(図版5・15)

江戸時代前期から後期の遺構を同一面で検出した。井戸、粘土採掘のための土坑、稲荷社に関連する土坑などを検出した。

土坑1017(図11) 調査区中央東寄りで検出した、不整形な土坑である。検出規模は東西約2.2m、南北約1.8mである。検出面からの深さは約0.48mで、壁が抉るように掘削され、底面は砂礫層上面で止まることから、粘土採掘のための土取り土坑と考えられる。埋土は図11の3~7層で、17世紀前半代の唐津、美濃系の土器がまとまって出土した。

土坑1001(図11、図版15) 調査区中央で検出した。平面形は東西約1m、南北約2mの隅丸長方形で、南側は攪乱を受ける。検出面からの深さは最大約0.4mで、底面は平坦である。埋土から19世紀初頭の土師器灯明皿とともに土人形が大量に出土した。土人形はキツネが大多数である。稲荷社に奉納された土人形の廃棄土坑と考えられる。

土坑1002(図11) 土坑1001と同様の土人形の廃棄土坑である。土坑1002は調査区西端で検出したが、西側は調査区外となる。検出規模は東西約0.5m、南北約1.35mの隅丸長方形と思われる。検出面からの深さは約0.15mで、底面は平坦である。

土坑1003 調査区南端で検出し、南側は調査区外となり、西側は攪乱を受ける。検出規模は東西約0.5m、南北約0.24m、検出面からの深さは約0.13mである。

(3) 2区の遺構

1) 第1期(弥生時代)の遺構(図版7・16)

調査区東部の地山上面で、流路を検出した。南東部で検出した流路以外は、浅い流れである。

流路2497(図版12・13) 調査区南東部で検出した、北東から南西方向の流路の西肩部である。検出長は約7.5mで、幅は約4mある。検出面からの深さは約0.5~1mで、さらに南東方向へ下がる。埋土は図版13の60~72層である。弥生土器片が少量出土した。

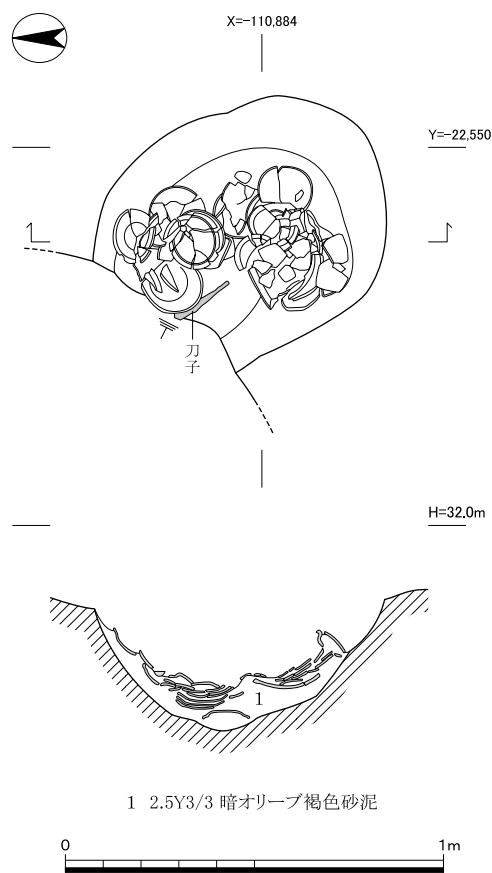


図12 埋納遺構2428実測図(1:20)

2) 第2期(平安時代)の遺構(図版8・16)

地山及び弥生時代の流路上面で検出した遺構群である。埋納遺構と考えられる土坑や複数の柱穴を検出したが、遺物が出土しない時期不明のものも含み、建物としてのまとまりを捉えられるものは確認できなかった。

埋納遺構2428(図12、図版17) 調査区南東部で検出した。北西側は攪乱を受ける。平面形は楕円形と思われ、検出規模は長径約0.7m以上、短径は約0.66mある。検出面からの深さは約0.35mある。埋土から10世紀初頭の土師器皿が重なった状態で出土し、その他、ほぼ完形に近い甕、刀子が出土した。遺構の検出地点は、高辻小路の北築地心から北へ約10m、西二行と三行境界から西へ約1mの位置である。土師器には、灯明皿として使用した痕跡がある。地鎮などの祭祀に伴うものと考えられる。

埋土から10世紀初頭の土師器皿が重なった状態で出土し、その他、ほぼ完形に近い甕、刀子が出土した。遺構の検出地点は、高辻小路の北築地心から北へ約10m、西二行と三行境界から西へ約1mの位置である。土師器には、灯明皿として使用した痕跡がある。地鎮などの祭祀に伴うものと考えられる。

3) 第3期(平安時代後期から鎌倉時代前半)の遺構(図版9・16)

南北方向の柱列、埋甕、地下室、墓と考えられる土坑や土取り穴などを検出した。小規模な柱穴を検出したが、建物としてのまとまりは確認できなかった。

埋甕2061(図13、図版17) 調査区中央北寄りで検出した。上部は削平され、据えられた常滑産大甕の下半部と口縁部の一部のみが残る。掘形の残存径は約0.75m、残存深は約0.3mある。埋土から12世紀中葉の土器が出土した。

埋甕2108(図13) 調査区北寄りで検出した。上部、北側は削平され、据えられた常滑産大甕の底部の一部のみが残る。掘形の残存径は約0.65m、残存深は約0.1mある。

地下室2123(図14・15、図版18) 調査区中央北端で検出した。中央部は後世の井戸によって

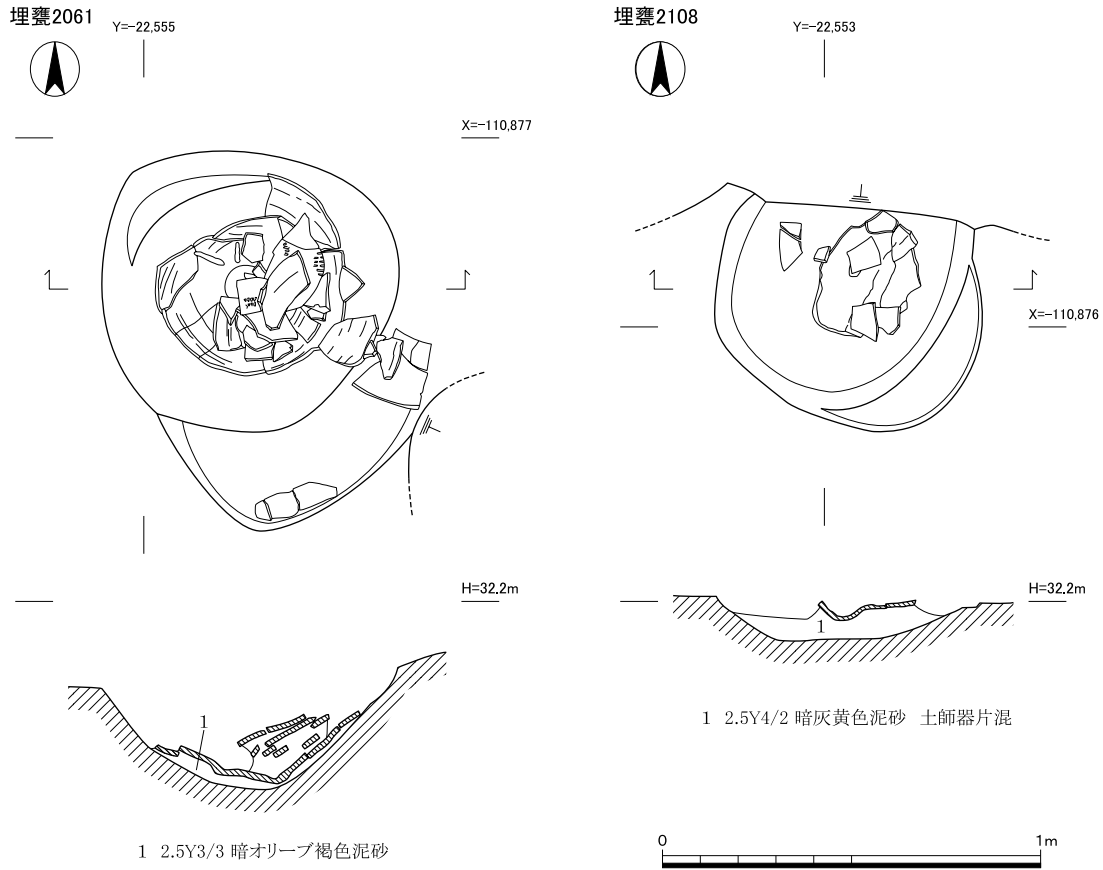


図13 埋甕2061・2108実測図（1：20）

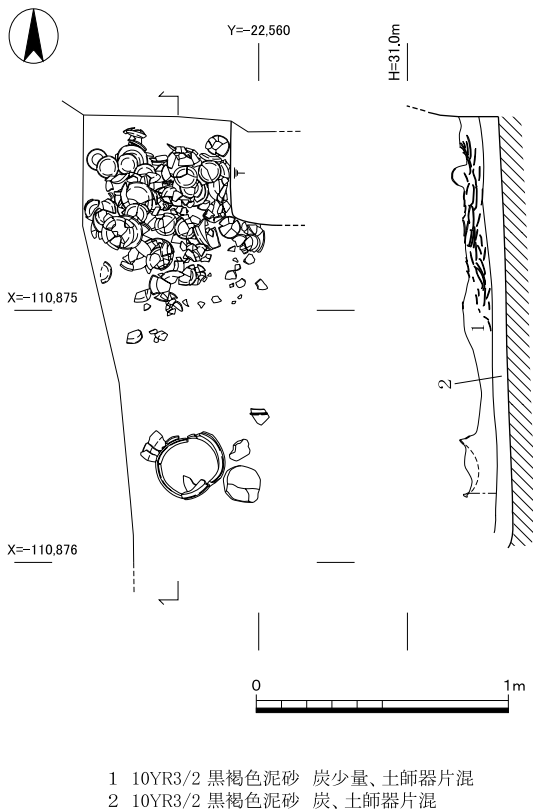
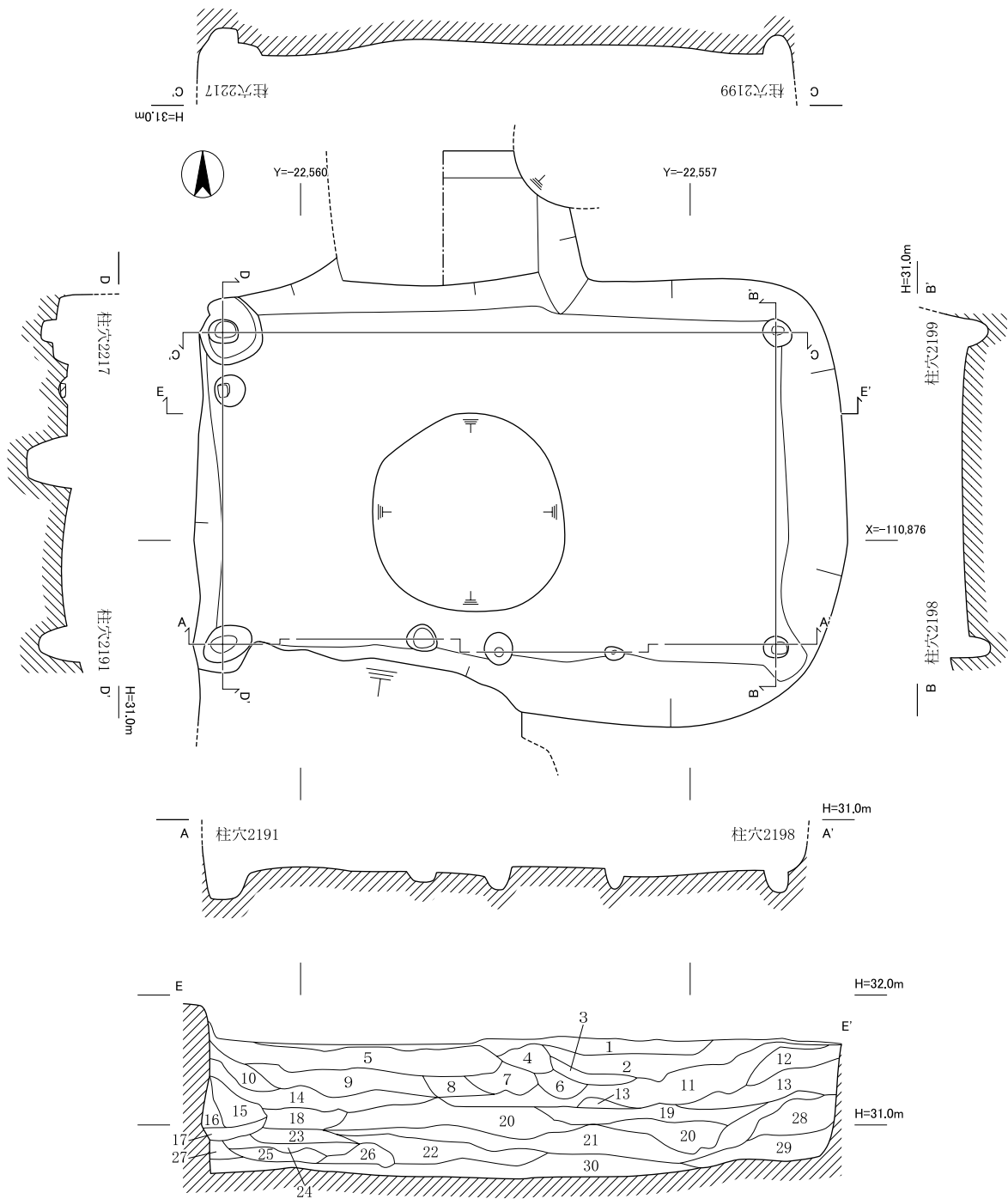


図14 地下室2123内土器出土状況実測図（1：30）

失われている。平面形は長方形で、掘形の規模は東西約5m、南北約3.6m、検出面からの深さは約1.2mある。掘形の断面形は箱形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、底部は中央がやや窪む。底部の四隅に柱穴を検出し、南壁際では杭列を検出した。埋土は大きく2層に分かれる。上層は図15の1～18層、下層は19～30層である。上層は炭や大量の遺物を含む。下層は底部から厚さ約0.5mあり、粗砂などの砂質の多い土層を主体とする。上層と比較すると出土遺物の時期がやや先行することから、何らかの理由により、後に床を0.5mほど埋め戻し、嵩上げされたと考えられる。

底面北西角では、土師器皿が大量に検出され、また、北壁から1.4m南の位置には瓦器鍋が正位に置かれた状態で出土した。瓦器鍋内の土を洗浄し分析したが、特別なものは出土しなかった。



- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 2 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 3 10YR3/1 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1~3cmの礫、炭、土師器片混
- 5 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭、土師器片混
- 6 10YR3/3 暗褐色砂泥 土師器片混
- 7 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭少量、土師器片混
- 8 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 9 10YR2/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 11 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭、土師器片混
- 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 13 10YR2/3 黒褐色砂泥 炭、土師器片混、須恵器混
- 14 10YR2/2 黒褐色砂泥 土師器片混
- 15 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~17cmの礫混、炭、土師器片混
- 16 10YR3/4 暗褐色細砂 炭、土師器片混
- 17 10YR2/3 黒褐色砂泥 炭、土師器片混
- 18 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 φ1~4cmの礫混、炭、土師器片混



(上層)

- 19 10YR3/3 暗褐色泥砂 炭微量混
- 20 7.5YR3/2 黒褐色泥砂 炭、土師器片混
- 21 10YR3/3 暗褐色泥砂 φ1~5cmの礫、炭少量混
- 22 7.5YR3/3 暗褐色砂泥 炭、土師器片混
- 23 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 炭微量、土師器片混
- 24 10YR3/3 暗褐色泥砂 炭微量混
- 25 10YR3/2 黒褐色泥砂 炭少量、土師器片混
- 26 10YR3/2 黒褐色泥砂 炭、土師器片混
- 27 10YR2/2 黒褐色砂泥 炭多量混
- 28 7.5YR2/3 極暗褐色泥砂 φ1~5cmの礫少量、炭微量混
- 29 10YR3/2 黒褐色泥砂 炭微量混
- 30 10YR3/2 黒褐色泥砂 炭、土師器片混

(下層)

図15 地下室2123実測図 (1 : 50)

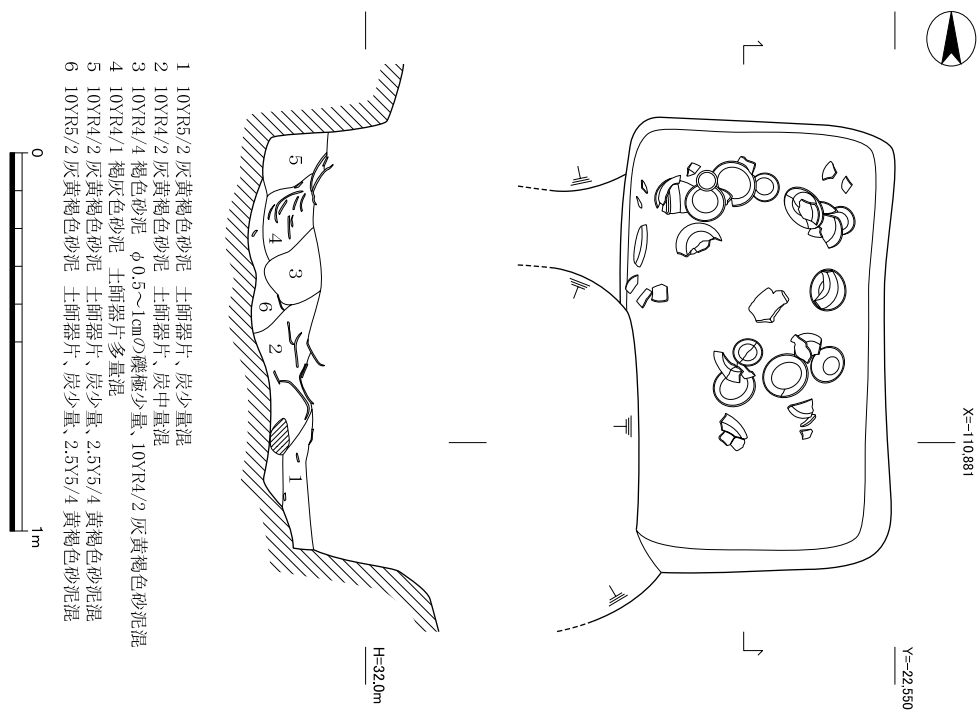


图16 土坑墓2216実測図（1：20）



图17 集石2187実測図（1：20）

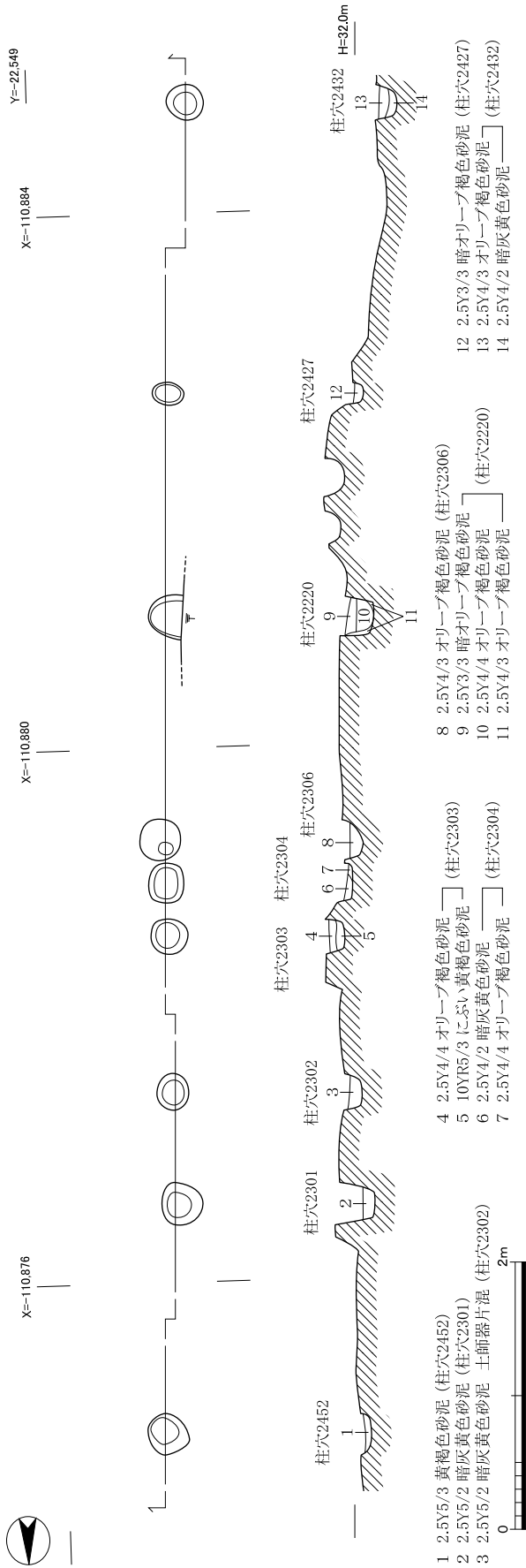


図18 柱列22実測図 (1 : 50)

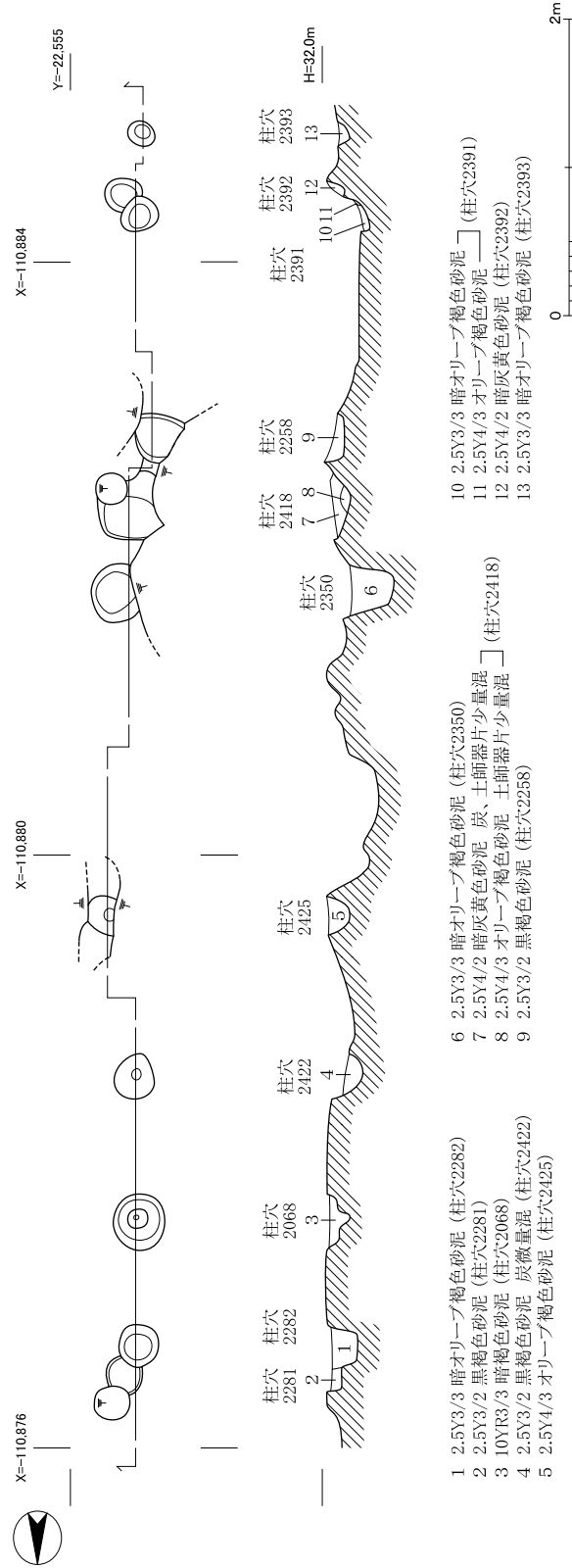


図19 柱列23実測図 (1 : 50)

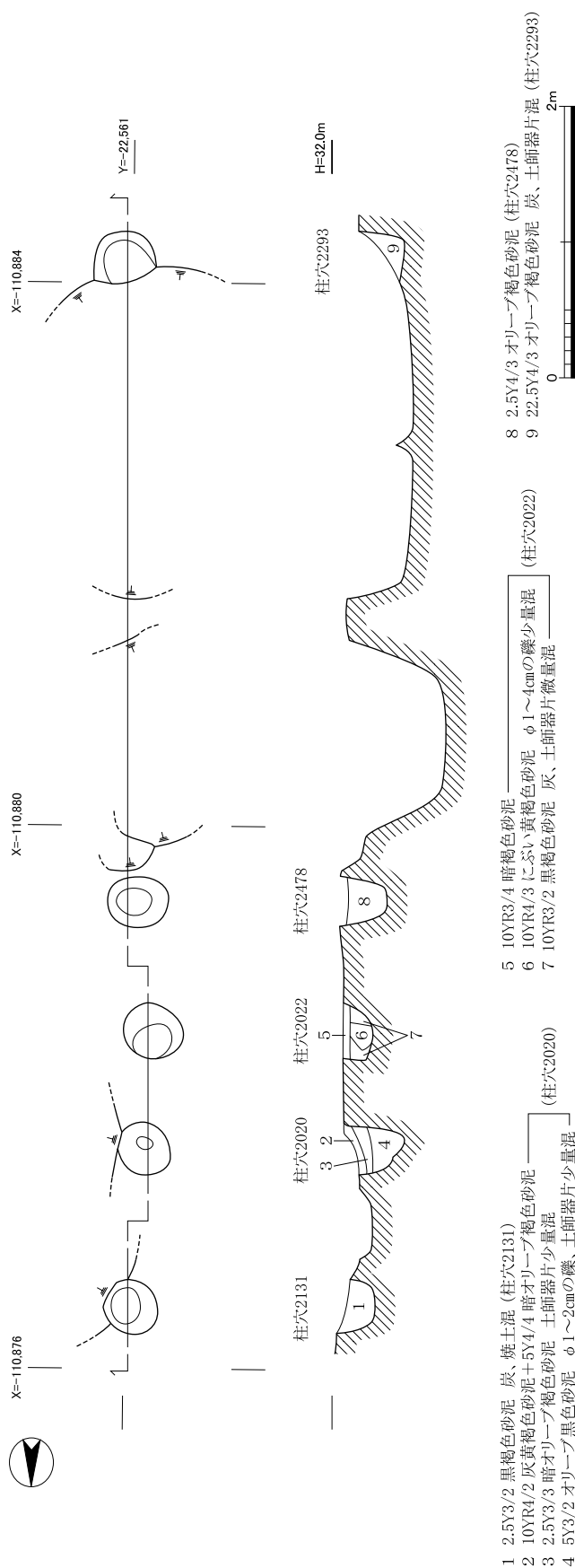


図20 柱列24実測図 (1 : 50)

瓦器鍋の上部には、東西0.8m、南北0.9mの範囲に5~10cm大の石が集中する。

出土した輸入陶磁器には、高麗青磁象嵌瓶や青白磁などが含まれている。出土遺物の年代観から、上層は13世紀中葉、下層はそれよりやや古相と考えられる。

なお、上層からは46本、下層からは26本の鉄釘が出土しており、明確な木質は確認できなかったが、床あるいは壁面は板材で覆われていた可能性が考えられる。

土坑墓2216 (図16、図版17) 調査区東半中央で検出した。西側の一部は攪乱を受けるが、平面長方形の土坑である。南北長は約1.2m、東西幅は約0.66m、深さは検出面から約0.36mある。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。埋土からは13世紀中葉の完形、または完形に近い多数の土師器皿、瓦器鍋などがまとまって出土した。墓と考えられる。

集石2187 (図17) 調査区北西で検出した。北側と南側の一部は攪乱を受ける。不整形な土坑で検出長は東西約1.3m、南北1.4m、深さは約0.25mある。径5~10cmの礫が密に詰まる。窪地を埋めた地業の一種と考えられる。13世紀代の土器が出土した。

柱列22~24 (図18~20) 調査区内に南北方向の柱列を3条検出した。柱列22は四行八門の西二行と三行の推定境界ラインから西へ約0.5mの位置で、柱列3条の間隔はそれぞれ約5.5mである。柱間是不均等である。柱列24の柱穴2293から12世紀代の山茶碗が出土した。それぞれ町屋の土地境界に設けられた塀と考えられる。

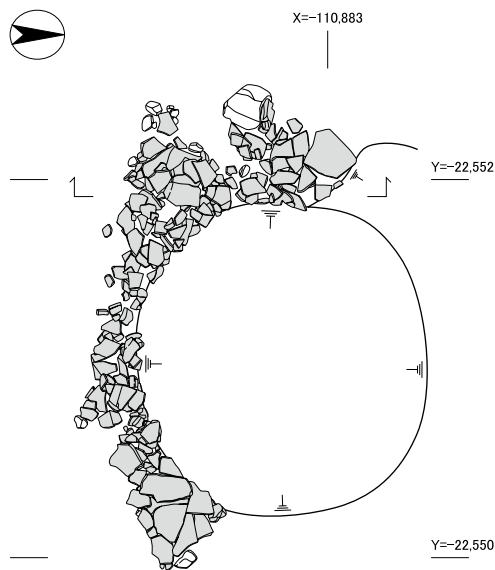
4) 第4期（鎌倉時代後半から室町時代）の遺構（図版10・19）

粘土採掘のための土坑や石室、集石遺構を検出した。

土坑2209（図21、図版19） 調査区東半南寄りで検出した。近代以降の井戸に大きく攪乱を受ける。大量の備前産・常滑産の焼締陶器甕の破片が出土した。大半が甕の体部で、口縁部は備前産が4個体分、常滑産が3個体分、備前産底部が2個体分であった。その他、13世紀末から14世紀前半の土器が出土した。

土坑2036（図22） 調査区西端で検出した。西側は調査区外に延長し、北側は攪乱を受ける。形状は不整形で、底面は砂礫層上面で止まることから、粘土採掘のための土取り土坑と考えられる。検出規模は、東西約1.7m、南北約2.6mで、深さは検出面から約0.52mある。埋土から15世紀中葉の土師器皿が大量に出土した。

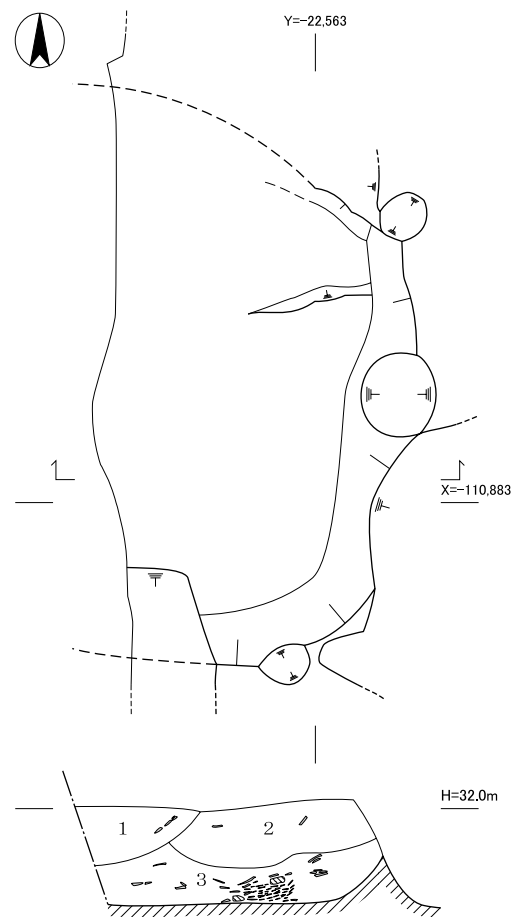
土坑2250～2253（図23） 調査区東半中央で検出した土坑群である。いずれも掘形が重複し、形状は不整形である。壁面は抉るように掘削し、底面は砂礫層上面で止まることから、粘土採掘のための土取り土坑と考えられる。土坑2250の検出規模は、東西約0.62m、南北約0.96mで、深さは検出面から約0.64mある。土坑2251の検出規模は、東西約0.8m、南北約0.9mで、深さは検出面から約0.74mある。土坑2252の検出規模は、東



- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5～10cmの礫、土師器片、炭混
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 φ0.5～5cmの礫、炭少量混、土師器片混



図21 土坑2209実測図（1：40）



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 土師器片混、炭微量混
- 2 10YR3/4 暗褐色砂泥 土師器片少量混
- 3 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ3～5cmの礫中量、土師器片多量混



図22 土坑2036実測図（1：40）

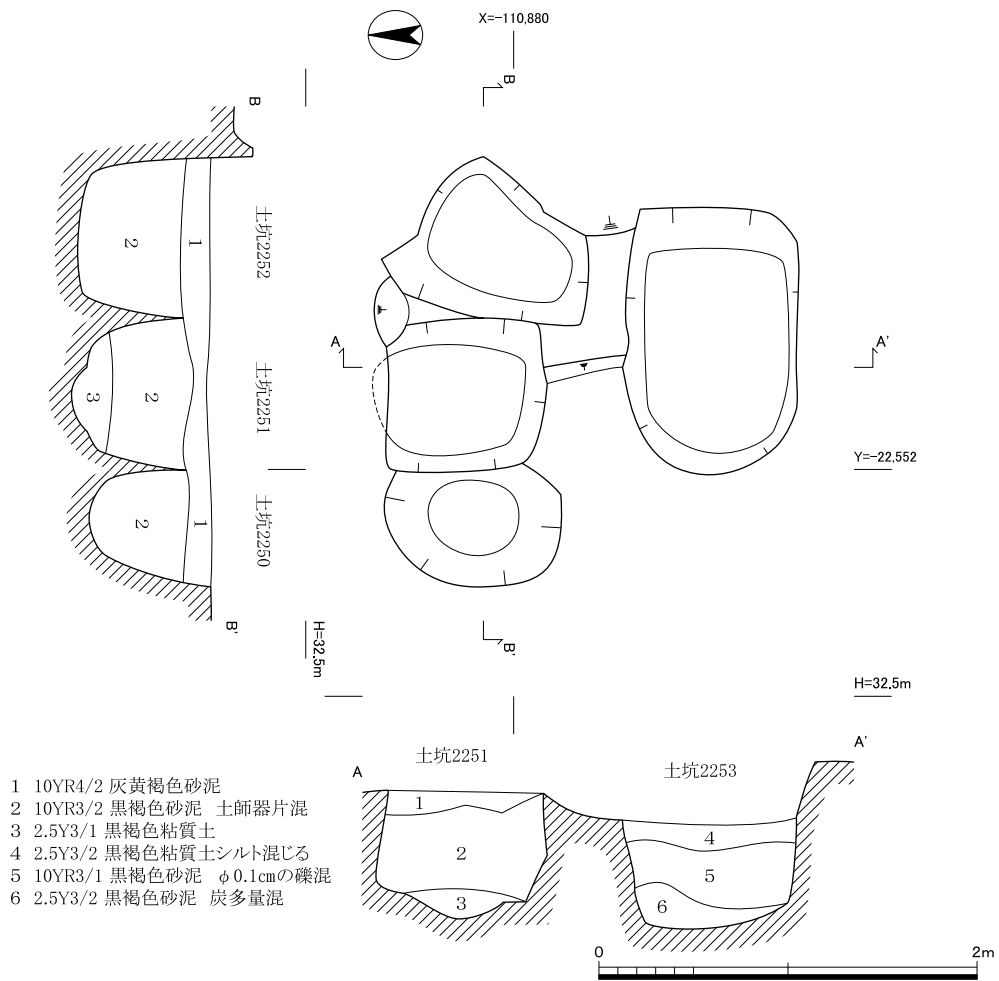


図23 土坑2250～2253実測図（1：40）

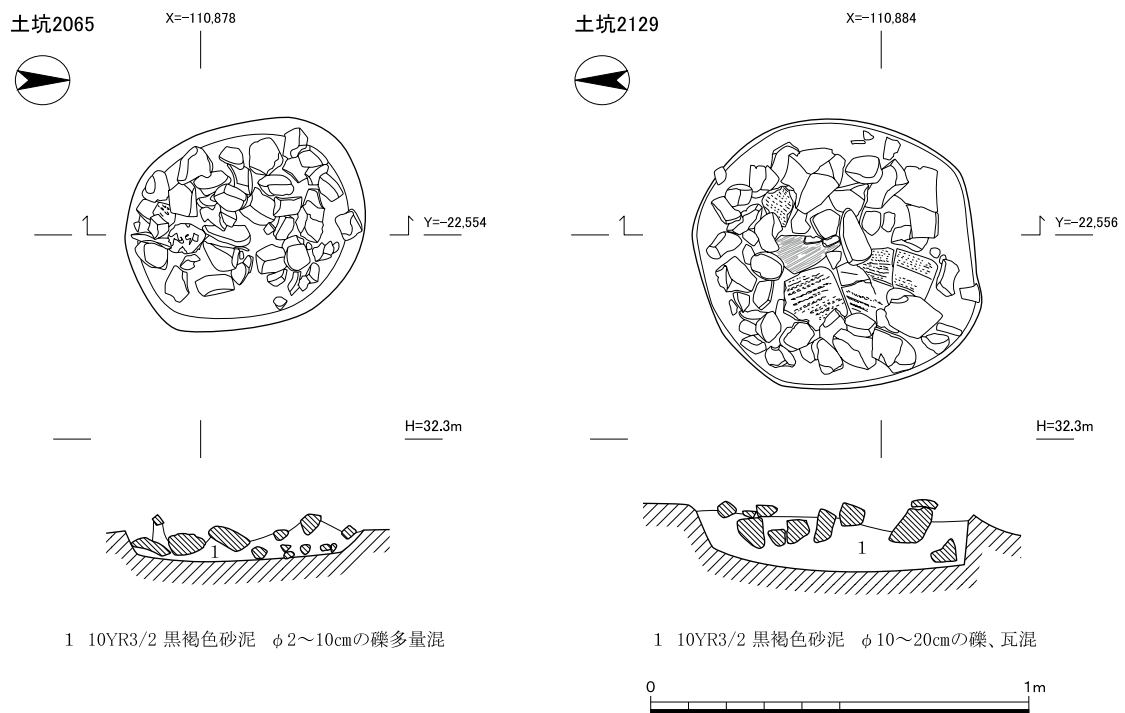


図24 集石2065・2129実測図（1：20）

西約0.8m、南北約1.0mで、深さは検出面から約0.82mある。土坑2253の検出長は、東西約0.6m、南北約0.9m、深さは検出面から約0.97mある。15世紀代の土器が出土した。

集石2065・2129（図24） 集石2065は調査区中央北寄り、集石2129は調査区中央南寄りで検出した。排水施設の可能性が考えられる。集石2065は平面楕円形で、長径約0.65m、短径約0.55m、深さは約0.1mある。径5～15cmの礫が詰まる。集石2129は平面円形で、径約0.75m、深さは約0.16mある。上層に径5～15cmの礫と瓦片が詰まる。15世紀末の土器が出土した。

石室2190（図25） 調査区南西で検出した。平面方形の石室である。掘形の残存長は東西約1.5m、南北約1.35m、深さは検出面から約0.65mある。石組は北側の一部が残存し、大半が崩落している。底部に杭跡がみられる。石材は花崗岩系、砂岩系、チャートが混在する。埋土から16世紀中葉の土器が出土した。

柱列21（図26、図版19） 調査区西で検出した南北方向の柱列である。柱間は柱穴2038以外は1.0～1.2m、柱穴2038は1.8mと不均等である。柱列を構成する柱穴は径0.3～0.45m、深さは0.3～0.52mある。いずれも底部に礎石を据える。

5) 第5期（江戸時代）の遺構（図版11・19）

井戸、トイレ遺構と考えられる埋甕、ゴミ捨て土坑など、近世町屋に関連する遺構を検出した。

土坑2174 調査区東半中央で検出した。平面円形で径約0.9m、深さは約0.7mある。17世紀前半の唐津産向付が出土した。

土坑2084 調査区中央南端で検出した。平面不整形の土坑である。検出規模は東西約1.55m、南北約1.4m、深さは検出面から0.42mある。壁面は抉るように掘削され、底面は砂礫層上面で止まることから、粘土採掘のための土取り土坑と考えられる。17世紀中葉の土器が出土した。

井戸2013 調査区北寄りで検出した。円形石組井戸である。掘形は径約1.5mのいびつな円形を呈する。石組の内径は約0.8mある。人力掘削で検出面から約1.8mまで掘り下げたが底は確認でき

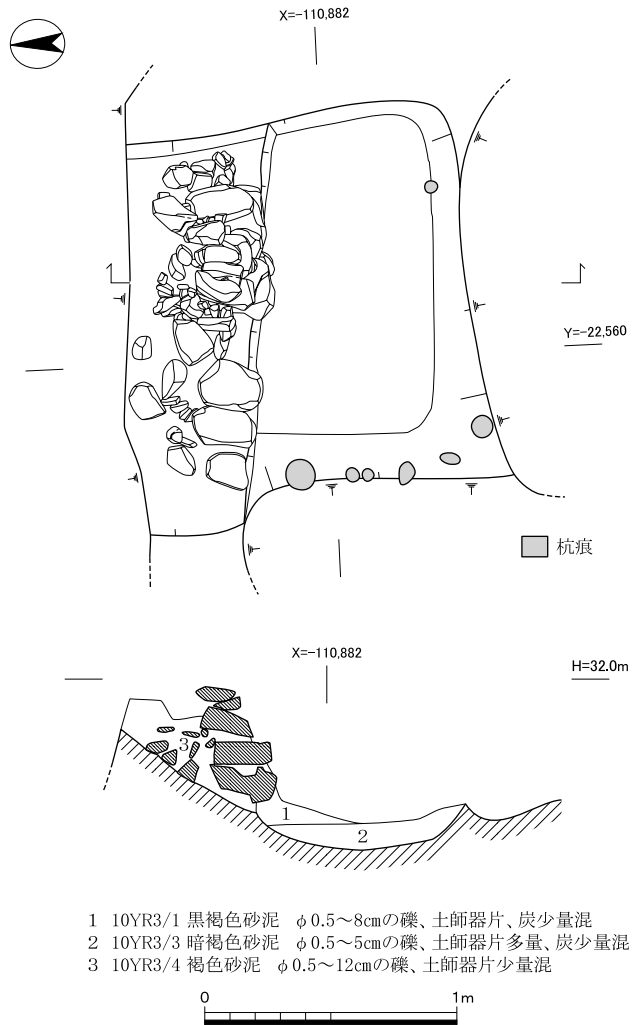


図25 石室2190実測図（1：30）

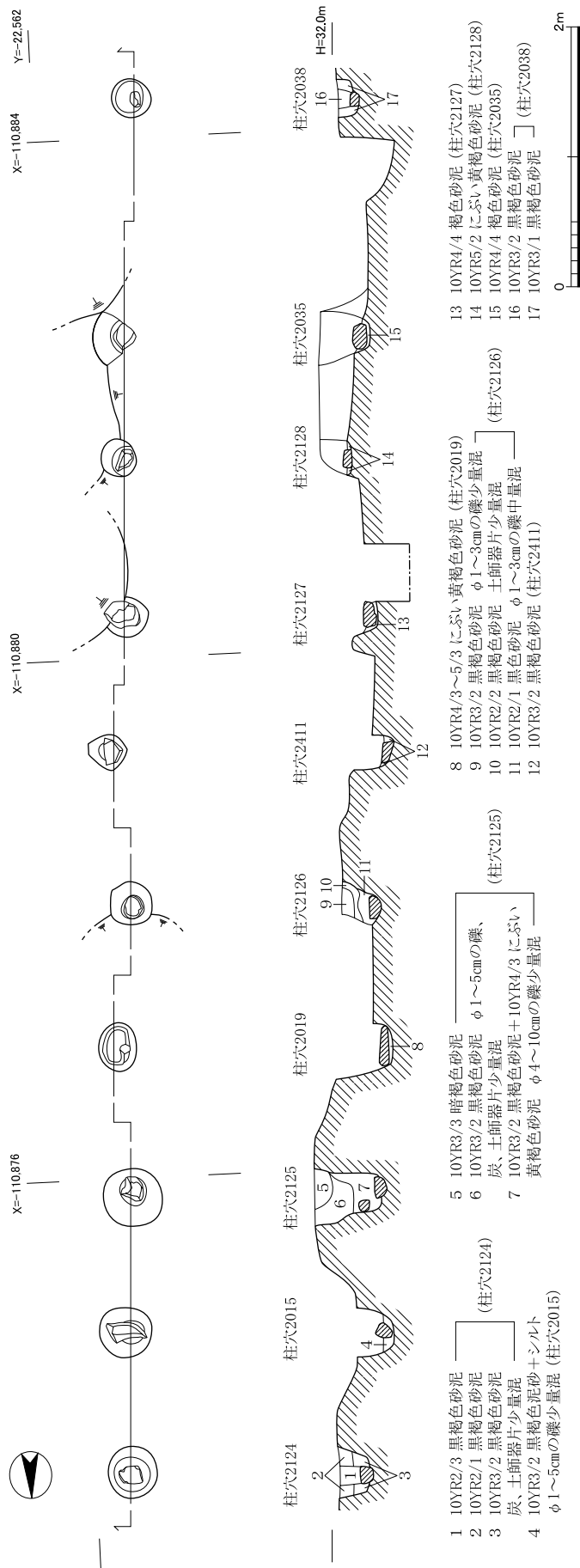


図26 柱列21実測図 (1:50)

なかった。埋土にはレンガやコンクリートが混入する。これ以外に3基の井戸を検出したが、いずれも19世紀末以降の井戸である。

土坑2085 調査区中央南寄りで検出した。楕円形の土坑で、西側は攪乱を受ける。掘形の検出規模は東西約1.8m、南北約2.1m、深さは約0.7mある。内側には厚さ約0.1mの粘土層が底部・壁面全体を覆う。水溜め遺構の可能性が考えられる。17世紀末から18世紀前半の土器が出土した。

トイレ遺構2029~2031 調査区西寄りで検出した。いずれも上部は近代以降の攪乱により削平され、甕の底部が残存していたのみである。トイレ遺構2029は平面楕円形で、検出規模は東西約0.4m、南北約0.55m、トイレ遺構2030の検出規模は径約0.4m、トイレ遺構2031の検出規模は径約0.5mで、平面円形である。甕の内面には、いずれも尿石が付着していた。18世紀末から19世紀代の土器が出土した。

土坑2097 調査区南東で検出した。南側は調査区外へ延長する。検出規模は東西約0.65m、南北約0.5m、深さは検出面から0.42mある。19世紀代の土器が出土した。二次焼成を受けるものがあることから、火災処理土坑と考えられる。

4. 遺 物

調査では、整理コンテナにして139箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、土製品、瓦類、金属製品、銭貨、石製品がある。全体の約9割を土器・陶磁器類が占める。遺物の帰属時期は、弥生時代から江戸時代までの各時期のものがある（表2）。

以下では、主要な遺構から出土した遺物について種別に概要を述べる。土器の型式・年代については、平安京・京都Ⅰ～Ⅳ期編年案に準拠する¹⁾。なお、出土遺物についての個別の詳細については巻末の表3～5にまとめた。

(1) 土器・土製品

1) 弥生時代の土器

1区、2区ともに流路から少量の弥生土器が出土したが、小片で磨滅が著しいため、実測可能な土器1点を掲載した。

流路1145出土土器（図27） 1は弥生土器の甕の体部。櫛描で直線文、波状文を施す。

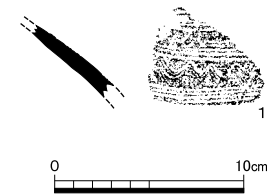


図27 流路1145出土土器
実測図（1：4）

2) 平安時代の土器

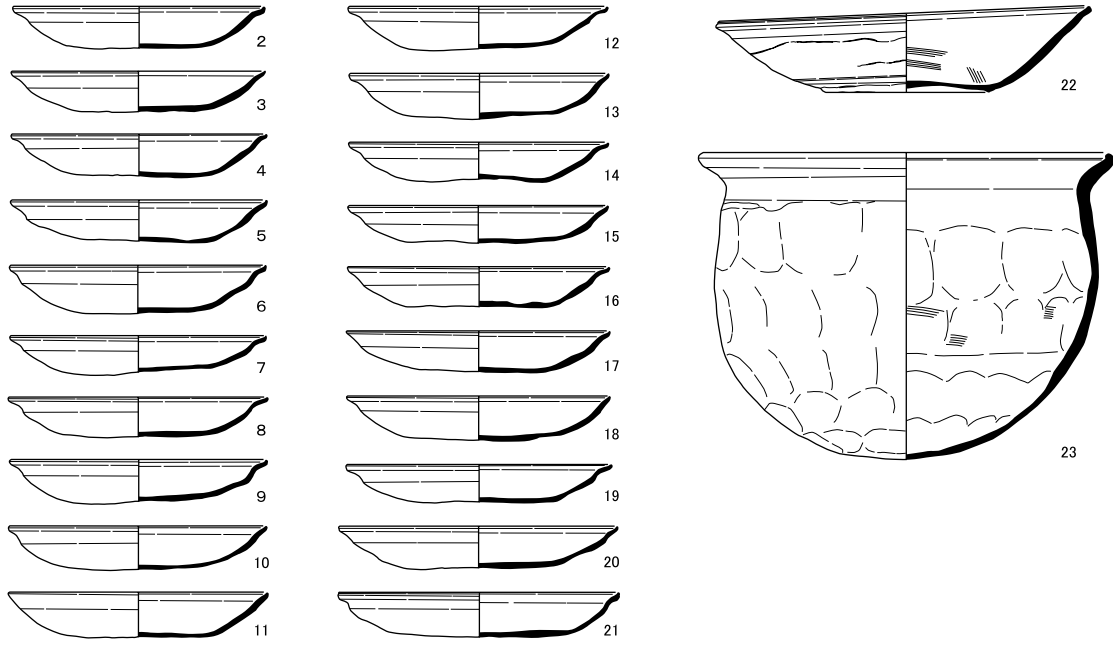
埋納遺構2428出土土器（図28） 土師器杯・椀・甕などが出土した。2～19は椀A、口径13.4～14.1cmである。20・21は杯A、20は口径14.8cm、21は口径14.9cmである。22は大型の杯Bで口径19.8cm、器高4.5cmである。底部に低い高台が付く。23は土師器甕、口径22.0cm、器高16.2cmで

表2 遺物概要表

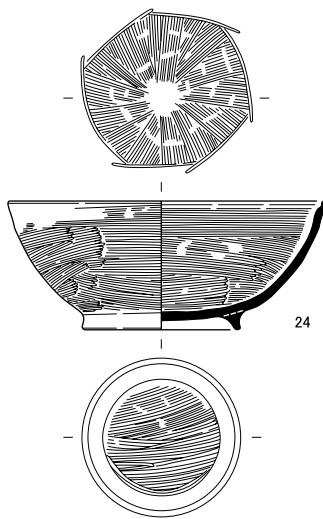
時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
弥生時代	弥生土器		弥生土器1点		
平安時代	土師器、黒色土器、白色土器、焼締陶器、山茶椀、輸入陶磁器、金属製品		土師器32点、黒色土器1点、白色土器1点、焼締陶器1点、山茶椀1点、輸入陶磁器5点、金属製品1点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、瓦器、山茶椀、輸入陶磁器、金属製品		土師器142点、須恵器2点、瓦器22点、山茶椀1点、輸入陶磁器35点、金属製品1点		
室町時代	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器		土師器94点、瓦器4点、焼締陶器9点、施釉陶器1点、輸入陶磁器1点		
江戸時代	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、土製品、金属製品、石製品		土師器42点、焼締陶器4点、施釉陶器21点、染付4点、土製品48点、石製品2点		
合 計		167箱	476点（23箱）	16箱	128箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より28箱多くなっている。

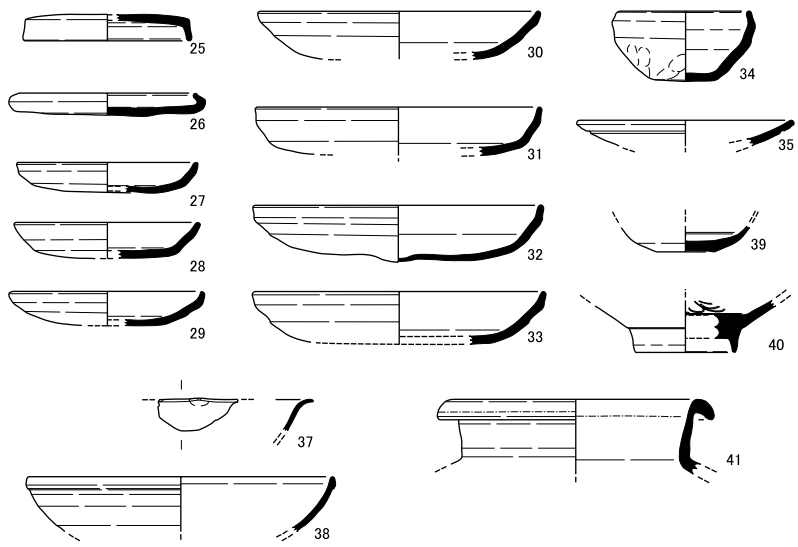
埋納遺構2428



埋納遺構1073



埋甕2061



柱列24: 柱穴2293

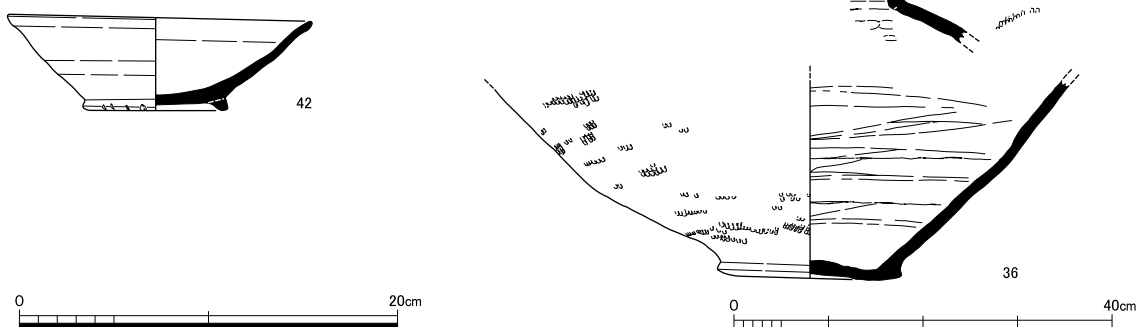


図28 埋納遺構2428・1073、埋甕2061、柱列24: 柱穴2293出土土器実測図(1:4、36のみ1:8)

ある。17・18以外の口縁端部には煤が付着しており、灯明皿として使用したとみられる。京都Ⅱ期新段階に属する資料である。これらの土器とともに刀子（金1）が出土した。

埋納遺構1073出土土器（図28） 土師器甕、黒色土器椀などが出土した。24は黒色土器椀のB類である。口径16.2cm、器高6.8cm、内外面ともに密なミガキを施す。京都Ⅲ期中～新段階に属する。

埋甕2061出土土器（図28） 土師器皿・蓋・鉢、白色土器皿、須恵器甕、瓦器鍋、焼締陶器甕、輸入陶磁器椀・皿・壺などが出土した。25は土師器蓋、口径8.7cm、器高1.4cm、外面に白色の塗料が付着する。26～33は土師器皿、26はコースター形のSc、27～29は口径9.5～10.1cmの皿N小、31～33は口径14.7～15.3cmの皿Nである。34は白色系土師器の小型鉢、口縁端部はやや内傾し、口縁部はナデを二段に施す。35は白色土器皿、底部は欠損する。36は焼締陶器甕の底部と口縁部で、直接接合しないが同一個体である。初期段階の常滑産である。37～41は輸入陶磁器、37・38は白磁椀、37は口縁端部を輪花状にし、38は口縁部が玉縁状に肥厚する。39・40は青白磁、39は平底の皿、40は椀で内面に文様が陰刻される。41は褐釉壺の口縁部、輸入陶磁器は大半が二次焼成を受けている。京都Ⅴ期中～新段階に属する。

柱列24：柱穴2293出土土器（図28） 土師器小片と山茶椀が出土した。山茶椀（42）は口径16.0cm、器高5.1cm、糸切りの底部に粗雑な高台を貼り付ける。京都Ⅴ期に属する。

3) 鎌倉時代から室町時代の土器

地下室2123出土土器（図29～31、図版20・21） 地下室2123からは、大量の土師器と共に多種多様な土器類が出土した。埋土の状況から上層、下層、土器が集中する箇所との3区分して掲載する。遺物は、土師器皿・鉢、須恵器鉢・甕、山茶椀、焼締陶器甕、瓦器椀・皿・鍋・羽釜・鉢、輸入陶磁器では白磁椀・皿、青白磁椀・皿・合子、青磁椀・皿、鉄釉皿、褐釉壺、黄釉鉢、高麗青磁象嵌などが出土した。京都Ⅵ期中段階に属するが、上層の土師器皿は下層に比べ法量が小さい新しい様相を示すため、京都Ⅵ期新段階に近い。土器集中箇所は、下層として採取した土器と接合するものがあり、また、土師器皿の法量が下層と同様の傾向を示すため、遺物の年代は下層と同一と考えられる。

上層（図29・30、図版20） 43～104は土師器である。土師器には皿Ac（43・44）、皿N小（45～57）、皿N大（58～65）、皿Sc（66～78）、皿S（79～99）、鉢（100～104）がある。皿N小は口径8.2～10.2cm、皿N大は口径12.0～12.9cm、皿Scは口径5.3cm前後の小型、口径5.9～6.5cmの中型、口径7.0～7.5cmの大型がある。皿Sは口径7.7～8.6cm、口径10.1cm前後、口径10.6～11.1cm、口径12.6～13.2cmである。形態が皿Nに類似する口径8.2～9.1cmの皿がある（79～82）。100～104は鉢、100・101は深鉢の口縁部と底部である。粘土紐接合痕が明瞭に残る。102～104は口縁部が大きく開き、口縁端部に面をもつ。内外面にハケ目調整を施す。

105は須恵器皿、底部に糸切り痕が残る。106は山茶椀、底部に粗雑な高台を貼り付ける。107～122は瓦器である。瓦器には皿（107～111）、椀（112・113）、鉢（114）、三足羽釜（115・～117）、

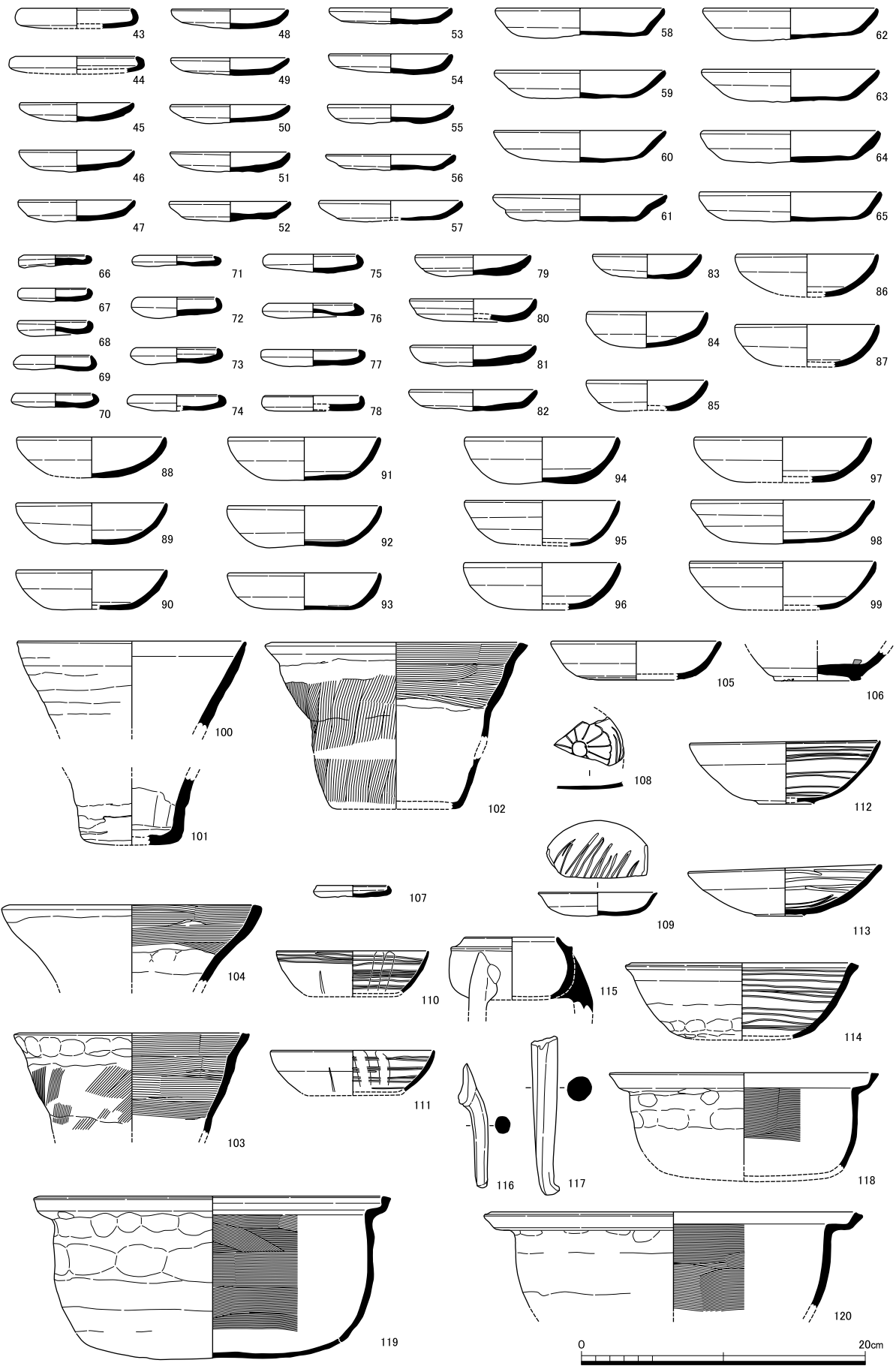


图29 地下室2123出土土器实测图1 (1:4)

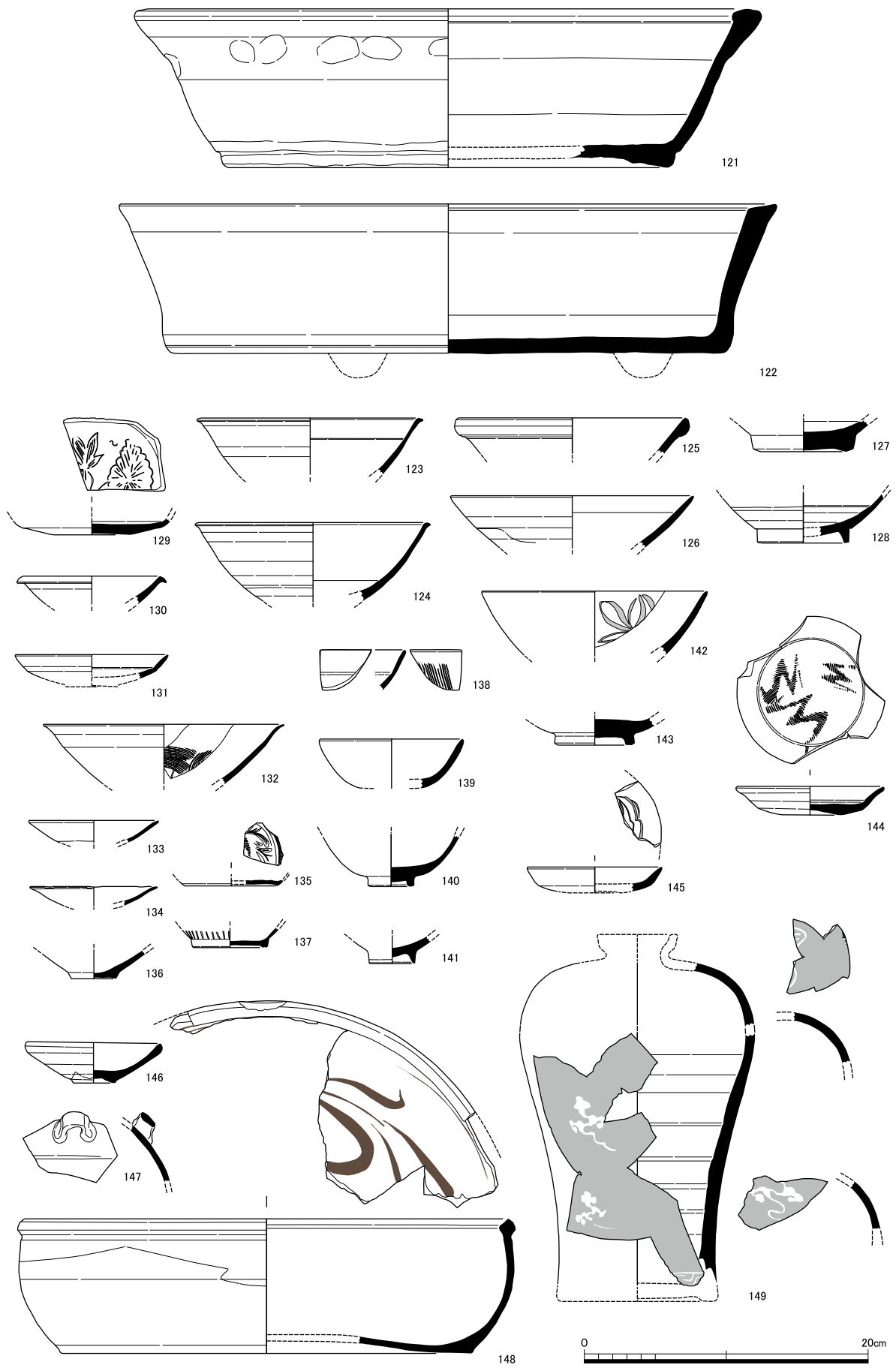


图30 地下室2123出土土器实测图2 (1:4)

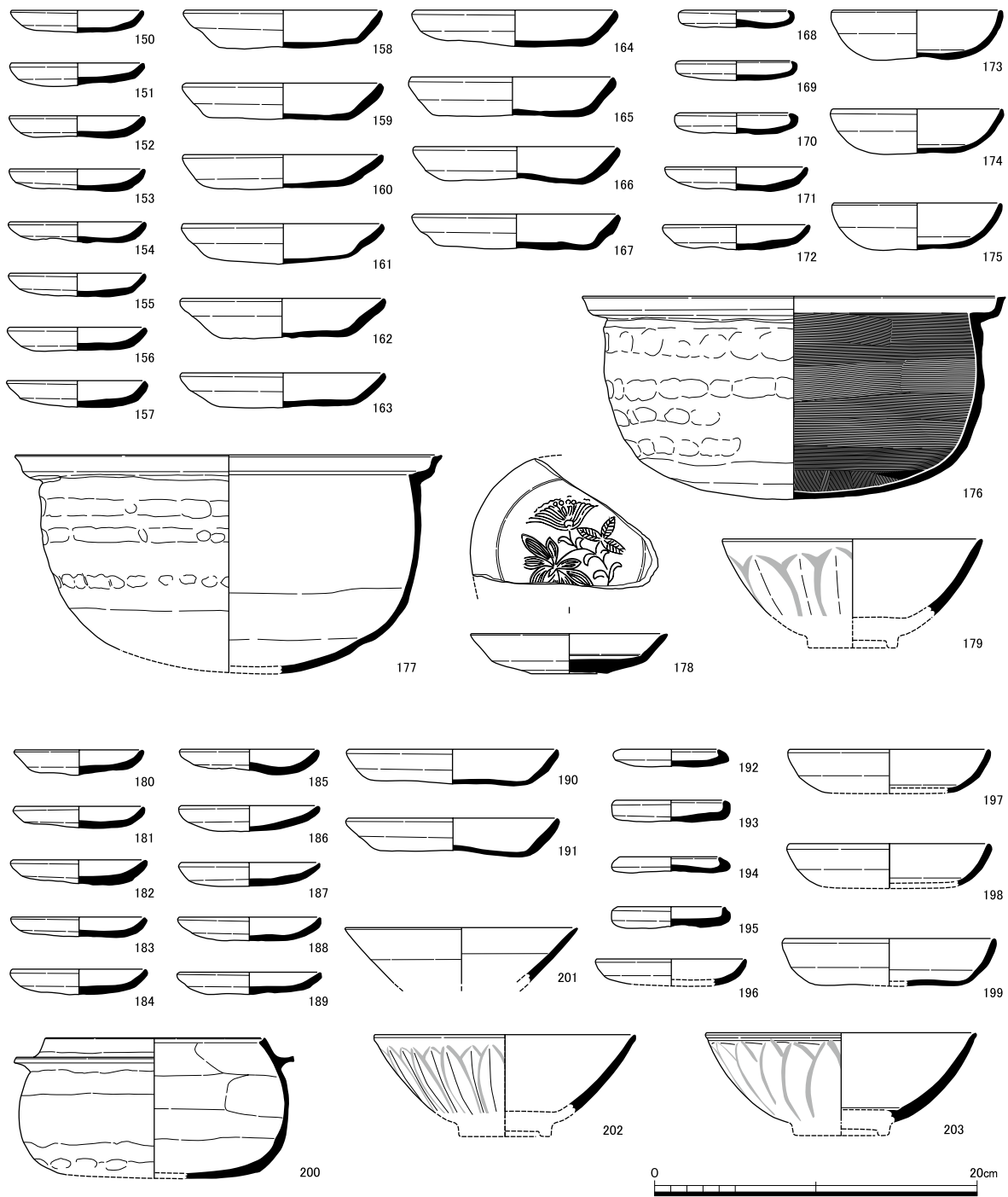


図31 地下室2123出土土器実測図3 (1 : 4)

鍋 (118~120)、火鉢 (121・122) がある。107はコースター形、108は内面に花形の暗文を施す。110・111は体部外面に縦方向の凹みをいれ、輪花状にする。112は完形の椀、小さな高台が付く。和泉産である。115はミニチュアの三足羽釜、116・117は脚部のみである。鍋は蓋の受けが付き、内面には細かなハケメ調整を施す。121・122は平底で、122には底部外面に円形の剥離痕がみられ、脚が付くものと考えられる。

123~149は輸入陶磁器である。123~128は白磁椀、口縁端部が外反する薄手のものと、玉縁状に肥厚するものがある。129~131は白磁皿、129は平底で底部外面は無釉、底部内面には花文が押

印される。132は青白磁椀、内面に櫛描文を施す。133～135は青白磁皿、135は内面に草花文が押し印される。136は青白磁小型椀の底部、底部外面は無釉である。137は青白磁合子の底部である。138～143は青磁椀、138は外面に櫛描文を施す。同安窯系。139～143は龍泉窯系、142は内面に花文が施される。144・145は青磁皿、144は無高台、底部外面の中央部のみ釉を掻き取る。底部内面に櫛描文を施す。同安窯系。145は体部が屈曲し、内面に文様が施される。龍泉窯系。146は完形の鉄釉皿、内外面全面に薄く施釉する。147は褐釉壺の体部片、双耳または四耳壺と考えられる。148は黄釉褐彩鉢、体部外面上部と内面に施釉され、底部内面に褐釉で文様が描かれる。149は高麗青磁象嵌瓶、いわゆる梅瓶である。肩部には蓮華文、体部には雲文、底部には雷文がいずれも器面に文様を彫り込み白色土で埋める象嵌が施される。肩部は直接は接合できなかったが、同一個体として復元した。同一個体と考えられるその他の破片からは、象嵌の黒色土が確認できるが、文様としては捉えられなかった。象嵌青磁の文様としては、白色土の雲と黒色土の鶴の組み合わせが多く、確認した黒色土は鶴の一部とも考えられる²⁾。

土器集中箇所（図31、図版21） 150～175は土師器皿である。土師器には皿N小（150～157）、皿N大（158～167）、皿Sc（168～170）、皿S（171～175）がある。皿N小は口径8.3～8.8cm、皿N大は口径12.4～13.0cm、皿Scは口径7.2～7.7cm、皿Sは口径9.0cm前後で浅型、口径10.7cm前後の深型、形態が皿Nに類似するものがある。176・177は瓦器鍋、鍋は蓋の受けが付き、176は内面に

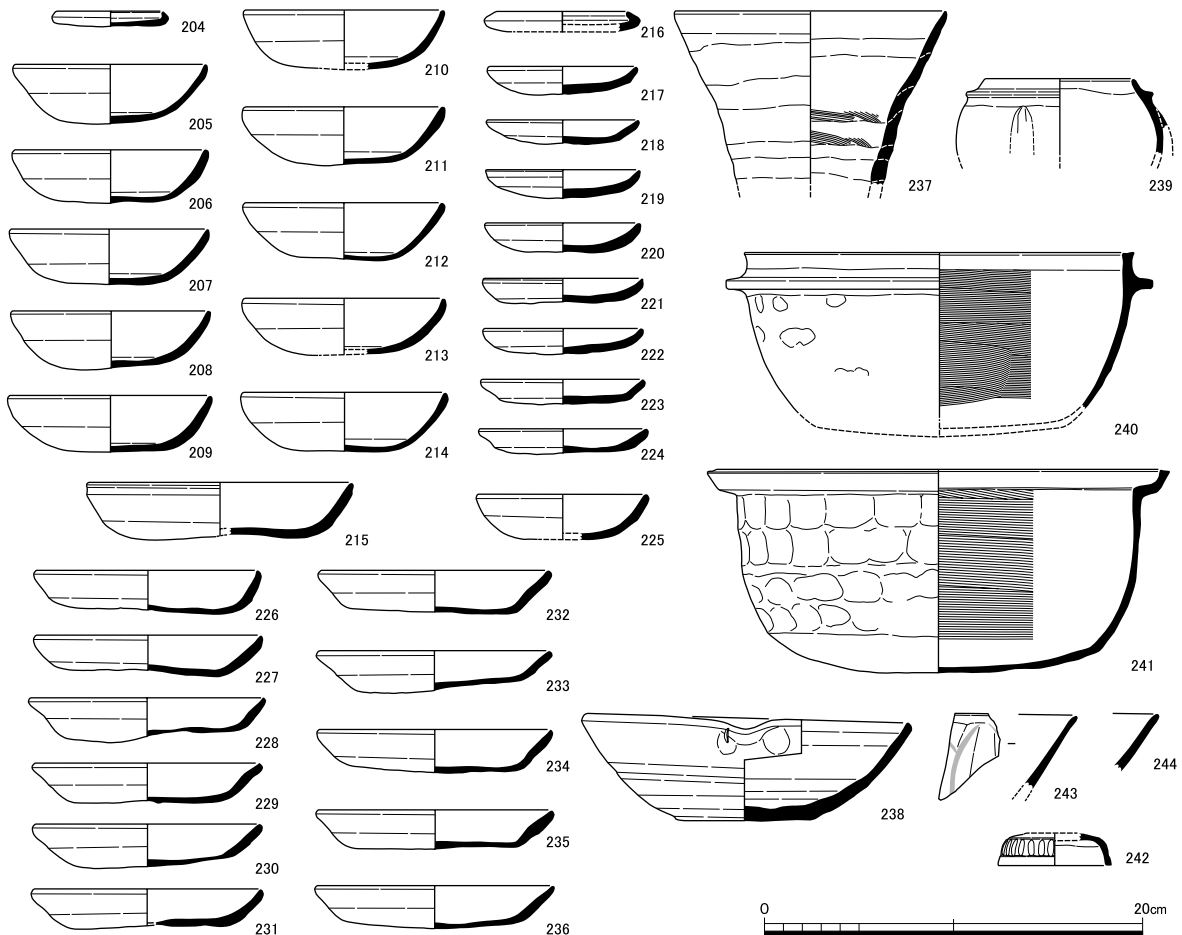


図32 土坑墓2216出土土器実測図（1：4）

は細かなハケメ調整を施す。178・179は輸入陶磁器、178は白磁皿、平底で、底部外面は無釉、底部内面に花文が描かれる。179は青磁椀、外面に片切彫りで蓮弁文が施される。龍泉窯系。

下層(図31、図版21) 180~199は土師器である。土師器には皿N小(180~189)、皿N大(190・191)、皿Sc(192~195)、皿S(196~199)がある。皿N小は口径8.1~9.0cm、皿N大は口径13.2cm、皿Scは口径7.3cm前後、皿Sは口径12.6~13.3cm、196は形態が皿Nに類似する。200は瓦器羽釜、口径13.6cmとやや小型である。201~203は輸入陶磁器、201は白磁椀、口縁部は外反する。202・203は青磁椀、外面に片切彫りで蓮弁文が施される。龍泉窯系。

土坑墓2216出土土器(図32) 土師器皿・鉢、須恵器鉢、瓦器鍋・羽釜、青白磁合子、青磁椀などが出土した。京都VI期新段階に属する資料である。

204~237は土師器である。土師器には皿N小(217~225)、皿N大(226~236)、皿Sc(204)、皿S(205~215)、皿Ac(216)、鉢(237)がある。皿N小は口径8.0~9.0cm、皿N大は口径12.0~12.7cm、皿Sは口径10.3~11.0cmである。小片であるが皿Acが1点出土している。鉢237は粘土紐接合痕が明瞭に残る。238は東播系の須恵器片口鉢、239~241は瓦器、239は小型の三足羽釜、240は羽釜、蓋の受けが付き、内面には細かなハケメ調整を施す。241は鍋、内面に細かなハケメ調整を施す。242~244は輸入陶磁器、242は青白磁合子の蓋、243・244は青磁椀、243は外面に蓮弁が描かれる。龍泉窯系。

溝1030出土土器(図33) 溝の底部から土師器皿がまとめて出土した。京都VII期新段階に属する資料である。

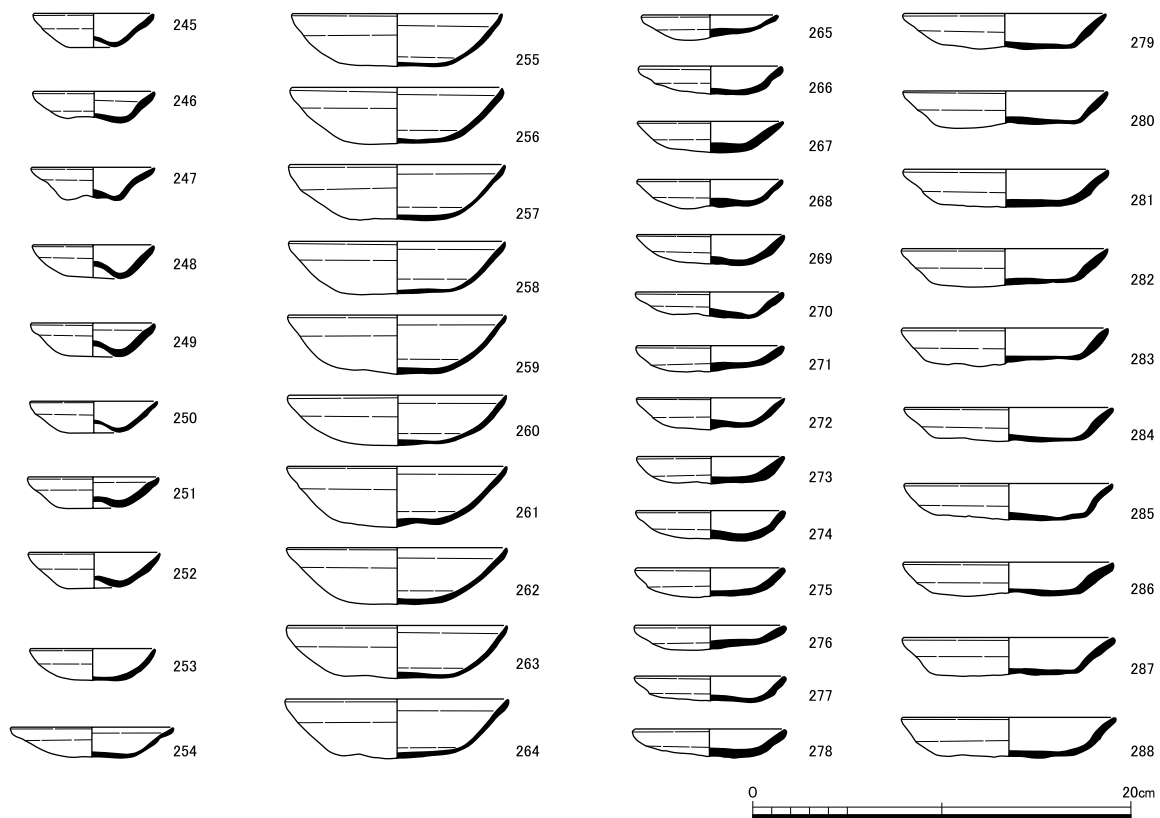


図33 溝1030出土土器実測図(1:4)

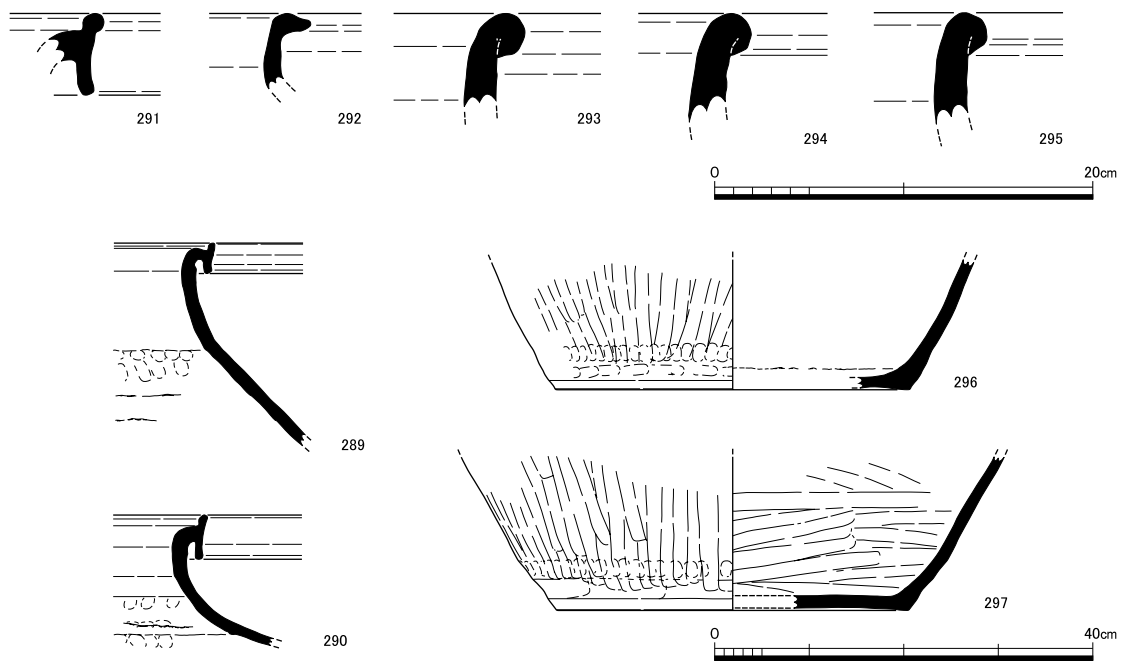


图34 土坑2209出土土器实测图（1：4、1：8）

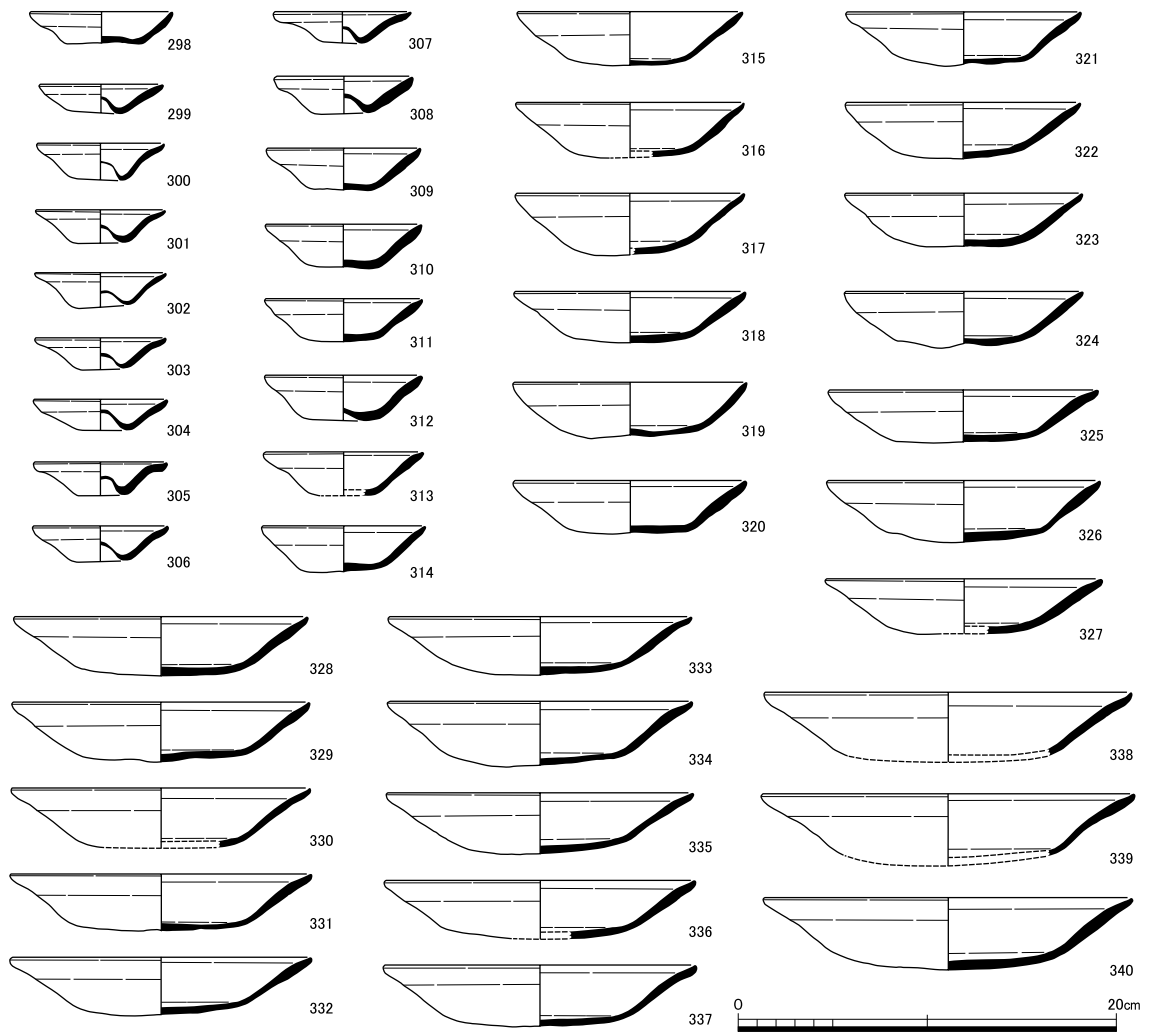


图35 土坑2036出土土器实测图（1：4）

すべて土師器で、皿Sh (245～252) は、いわゆる白色系のへそ皿である。口径6.4～7.0cmである。皿S (253～264) は253が口径6.7cmと小型、254は形状が皿Nに類似する、灯明皿である。それ以外は口径11.2～11.9cmである。皿N小 (265～278) は口径7.3～8.2cm、皿N大 (279～288) は口径10.8～11.4cmである。

土坑2209出土土器 (図34) 焼締陶器の甕が大量に出土した。大半が体部で全体を復元できるものはなかった。その他に土師器皿が数点出土しているが、磨滅が著しく、また、小片のため図化していない。土師器皿は京都Ⅶ期中～新段階頃と考えられる。

289～291は常滑産甕の口縁部、いずれも口縁端部を拡張し縁帯がめぐるものである。292～295は備前産甕口縁部、292は口縁端部が外反し、293～295は玉縁状になる。296・297は備前産甕の底部である。外面は縦方向のケズリを施す。

土坑2036出土土器 (図35) 大量の土師器が廃棄された状態で出土した。京都Ⅸ期古～中段階に属する資料である。

土師器は皿N (298)、皿Sh (299～308)、皿S (309～340) がある。大半が白色系の皿で、図化できた赤色系の皿Nは298のみである。皿Sh (299～308) は、口径6.6～7.4cm、器高1.8cm前後である。皿Sには、口径8.2～8.7cm、器高2.4cm前後と皿Shより一回り大きいもの (309～314)、口

土坑2204

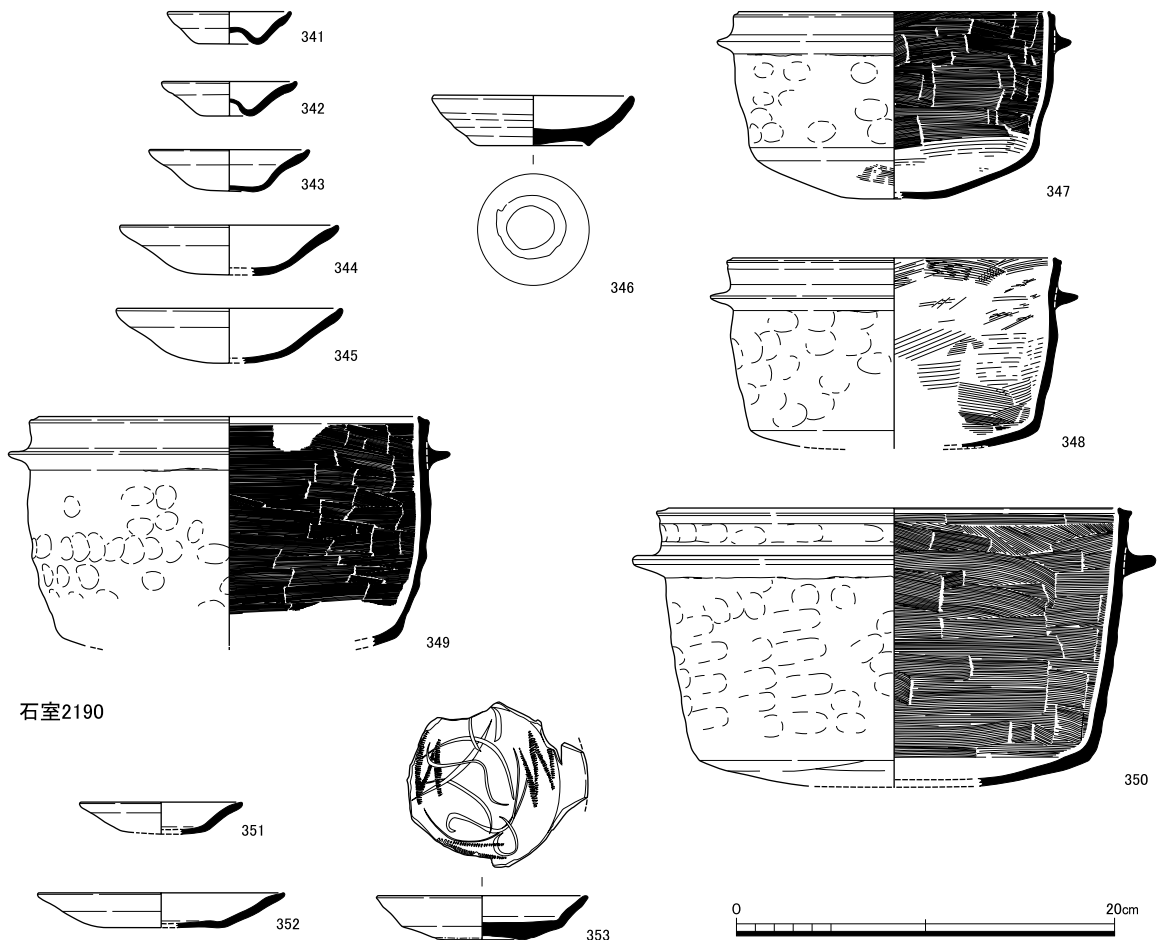


図36 土坑2204・石室2190出土土器実測図 (1:4)

径が12cm代 (315～324)、口径が14cm代 (325～327)、口径が15.6～16.6cm (328～337)、口径が19cm代 (338～340) の5群がある。

土坑2204出土土器 (図36) 土師器皿、瓦器鍋、焼締陶器甕、施釉陶器などが出土した。京都IX期中段階に属する資料である。

341～345は土師器皿、346は瀬戸の施釉陶器皿、底部外面に重ね焼き痕がみられる。347～350は瓦器羽釜で、小型・中型・やや大型の3種が出土している。いずれも内面はハケメ調整を施す。

石室2190出土土器 (図36) 大半が削平されていたため、遺物は少量であるが、土師器皿、輸入陶磁器白磁・青磁、焼締陶器甕などが出土した。土師器皿は京都X期中段階頃と考えられる。

351・352は白色系の土師器皿、353は輸入陶磁器青磁皿である。底部内面に櫛描文を施す。同安窯系。

4) 江戸時代の土器

土坑1017出土土器 (図37) 土師器皿・小壺・塩壺、瓦器鍋・火鉢、施釉陶器皿・椀・壺、焼締陶器甕・播鉢などが出土した。京都XI期中～新段階に属する資料である。

354～361は土師器、354は皿N、355は皿Sb、356～359は皿Sである。355・356は口縁端部に油煙が付着し、灯明皿として使用されたものである。358・359は口径16.6cm、18.0cmと非常に大型で、器壁も厚い作りである。360は片口皿、内面に播目を施す。361は小壺である。362～370は施

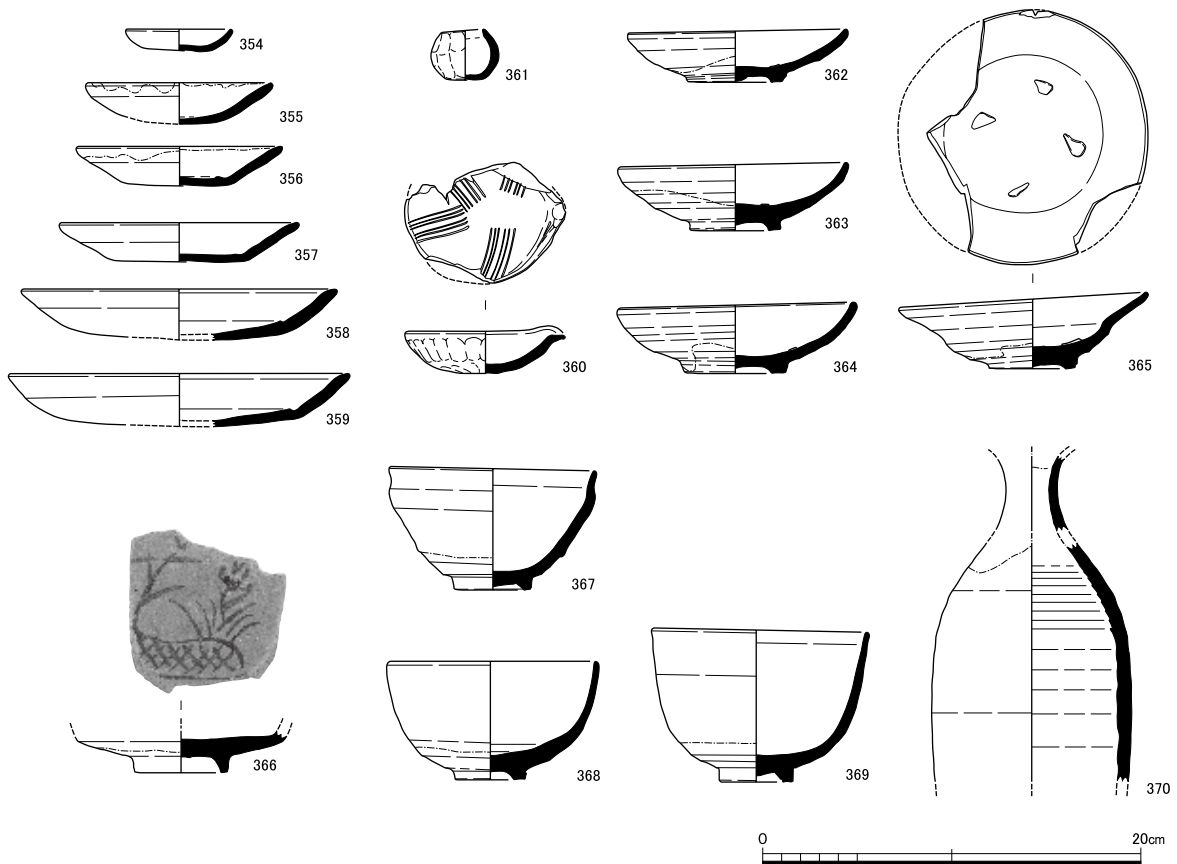
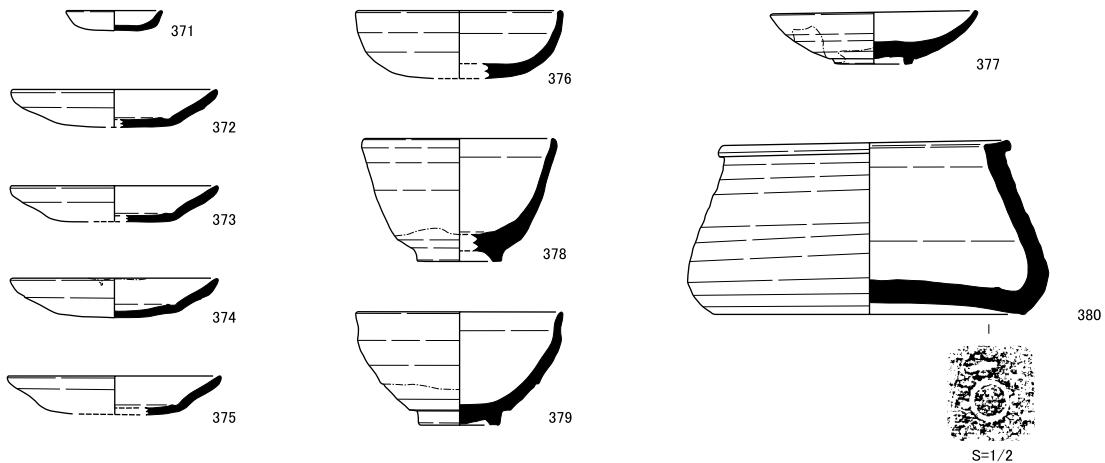


図37 土坑1017出土土器実測図 (1:4)

土坑2084



土坑2085

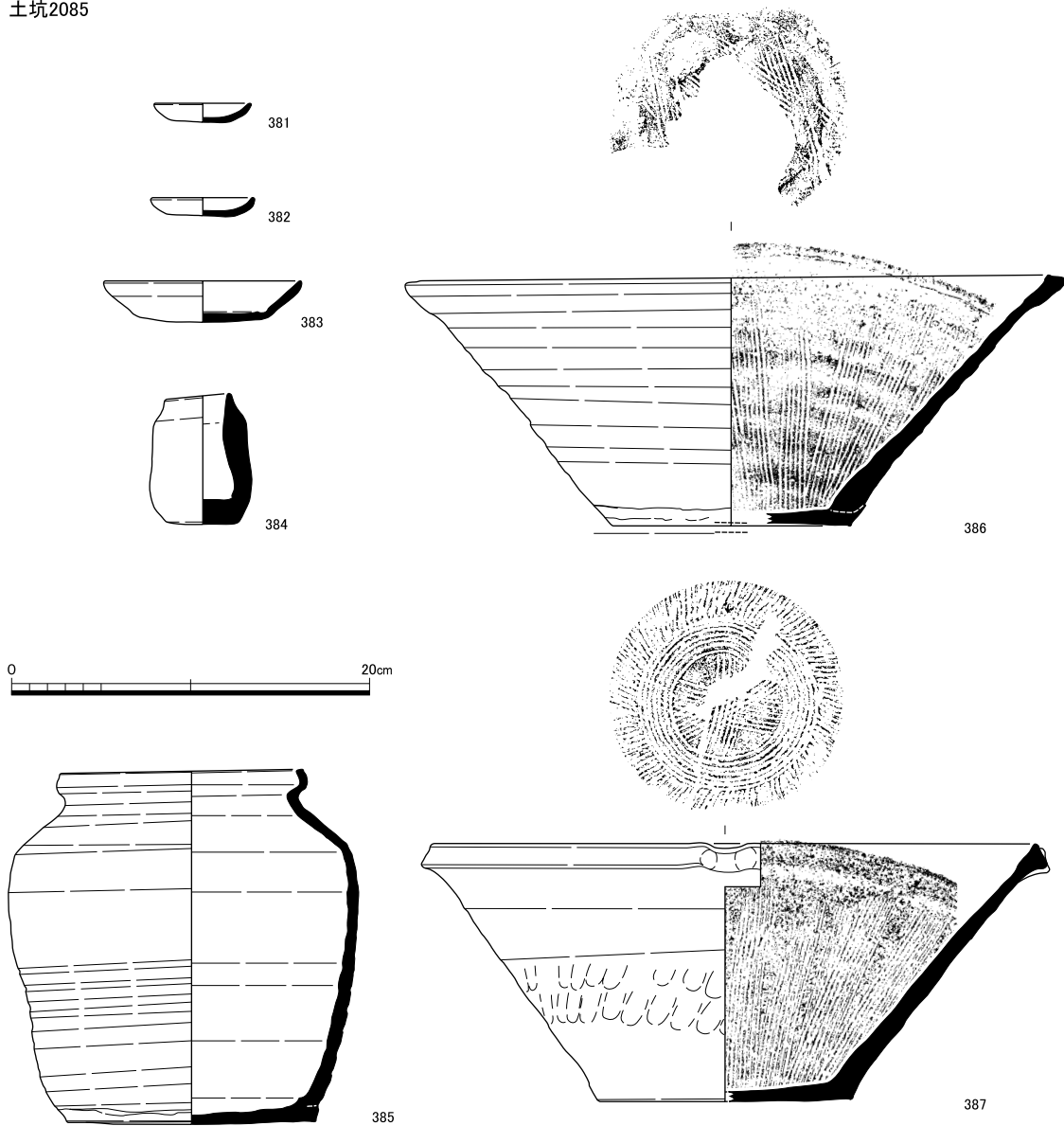


图38 土坑2084·2085出土土器实测图(1:4)

釉陶器、362～365は唐津の皿、内面に目跡が残る。366は絵唐津、見込みに鉄絵で草花を描く。367～370は美濃系、367は天目茶椀である。370は織部壺、頸部から肩部に緑釉を掛け、体部は鉄絵で横線を描く。

土坑2084出土土器(図38) 土師器皿・鉢、染付椀、施釉陶器皿・椀、焼締陶器甕・播鉢・鉢、硯、金属製品などが出土した。京都XI期新段階に属する資料である。

371～375は土師器皿、374は口縁端部3箇所油煙が付着し、灯明皿として使用されたものである。376は土師器の丸底鉢、377～379は施釉陶器、377は唐津の皿、378は唐津の椀、379は美濃系の天目茶椀である。380は備前の建水、口縁端部の一部に刻み目が施される。底部外面に「〇」の窯印がみられる。

土坑2085出土土器(図38) 土師器皿・炮烙・塩壺、瓦器火鉢、染付椀、施釉陶器椀・皿・鉢・甕、焼締陶器甕・播鉢、瓦などが出土した。京都XII期段階に属する資料である。

381～383は土師器皿、384は塩壺である。385は施釉陶器甕、内外面すべてに鉄釉がかかる。386・387は焼締陶器、386は丹波播鉢、櫛目の単位は6本、底部内面に重ね焼き痕がみられる。387は備前播鉢片口、櫛目の単位は6本である。播鉢はこれ以外に複数出土しているが、信楽播鉢は1点のみである。

土坑1001出土土器・土製品(図39～41) 稻荷社に関連する廃棄土坑から、多量の土人形のキ

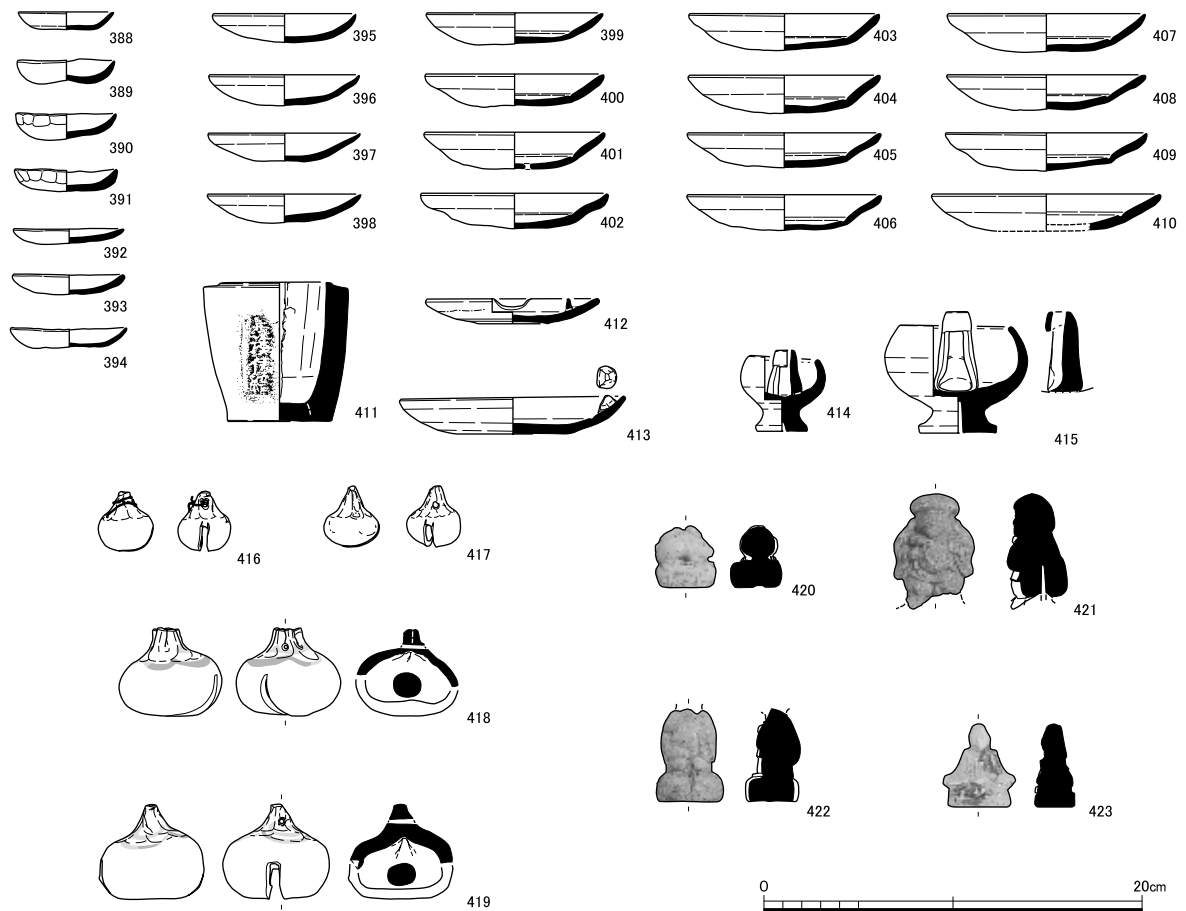


図39 土坑1001出土遺物実測図1 (1:4)



图40 土坑1001出土遗物实测图2 (1 : 4)

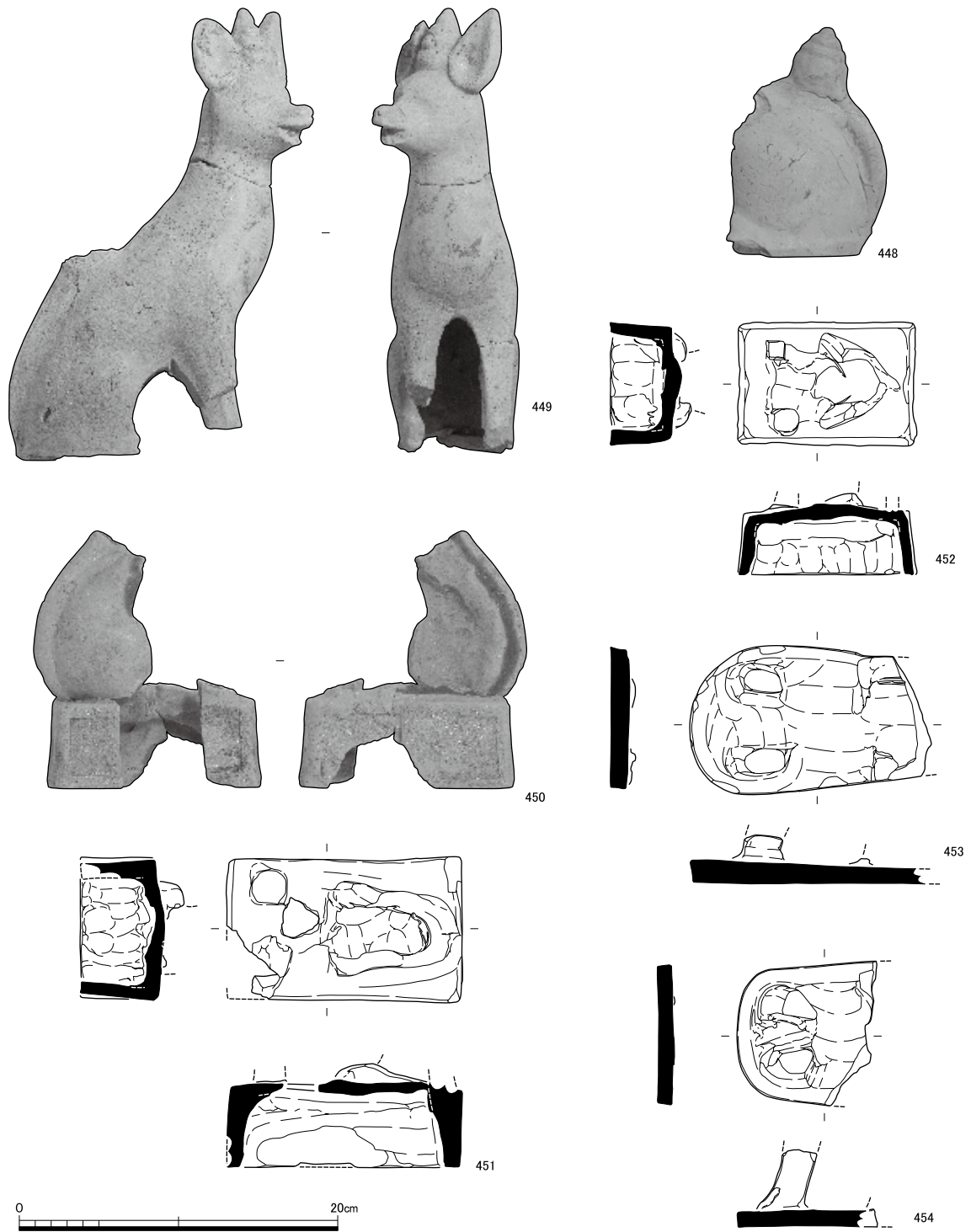


図41 土坑1001出土遺物実測図3 (1:4)

ツネが出土した。その他に灯明皿に使用した土師器皿、施釉陶器の灯火具、キツネ以外の土人形、土鈴などが出土した。土師器皿は京都XIII期新～XIV期古段階に属する資料である。

388～410は土師器皿、388～394は口径5.1～6.2cmの小型、395～398は口径7.6～8.2cmの中型、399～409は口径9.4～10.7cm、内面立ち上がり部の圏線が明瞭な大型で、410はさらに口径12.2cmと大型になる。皿には底部に小孔を穿つもの(401)、灯明皿として使用したもの(388・390・391・396～400・405・408・409)などがある。411は塩壺、体部外面に「□湊伊織」の刻印がある。412・

413は施釉陶器の灯明皿受け、414・415は軟質施釉陶器の灯火具である。

416～419は土鈴、416には銅線が残存する。418・419は彩色が施される。420～423は土人形、423は黄色・緑色で彩色される。

424～454は土人形のキツネである。キツネは欠損したものも多いが、頭部が残存するものを計測した結果288点ある。キツネは形態から分類すると、首が右に振れるもの、左に振れるもの、ほとんど首の振れないもの（436・443）がある。頭部には宝珠をのせるもの（444・445・449）がある。また、口には宝珠、宝珠が簡略化された玉（431・432・439・446・447）、巻物（427・430・436）、鍵（442・443）、なにも咥えないものがある。鍵は本来、先が鉤形に曲がった鉄棒に木の柄が付いたもので、土蔵の落とし鍵などを開けるのに使われる。鉄棒の部分は銅線が使用される。巻物と思われるものには穴が貫通するものがあり（430）、それらは鍵文の柄の部分の可能性が考えられる。尾の形も様々で、尾先がすぼまるもの（427～429など）、尾先が宝珠になるもの（434・440・444・445・448）、1点であるが、尾先が宝珠で尾全体に毛の流れを彫り込み表現するものがある（441）。宝珠の尾先にも多種多様な形態がある。

キツネ本体の外面は、朱と胡粉で彩色されるものがあり、その他は、胎土が赤色系と白色系で、赤と白を表現しているものがある。449は朱で彩色した後、胸の部分に朱で宝珠が描かれる。

台座は残存するものが232点ある。台座が付かないものとしては、キツネ本体に小判型あるいは隅丸方形の底面が付くものがある（449・451・452）。台座の器形は箱型であるが、四方を挟り取って脚にするもの（441）が1点ある。台座の大きさは、最小で短径2.2cm、長径3.3cm、最大で短径

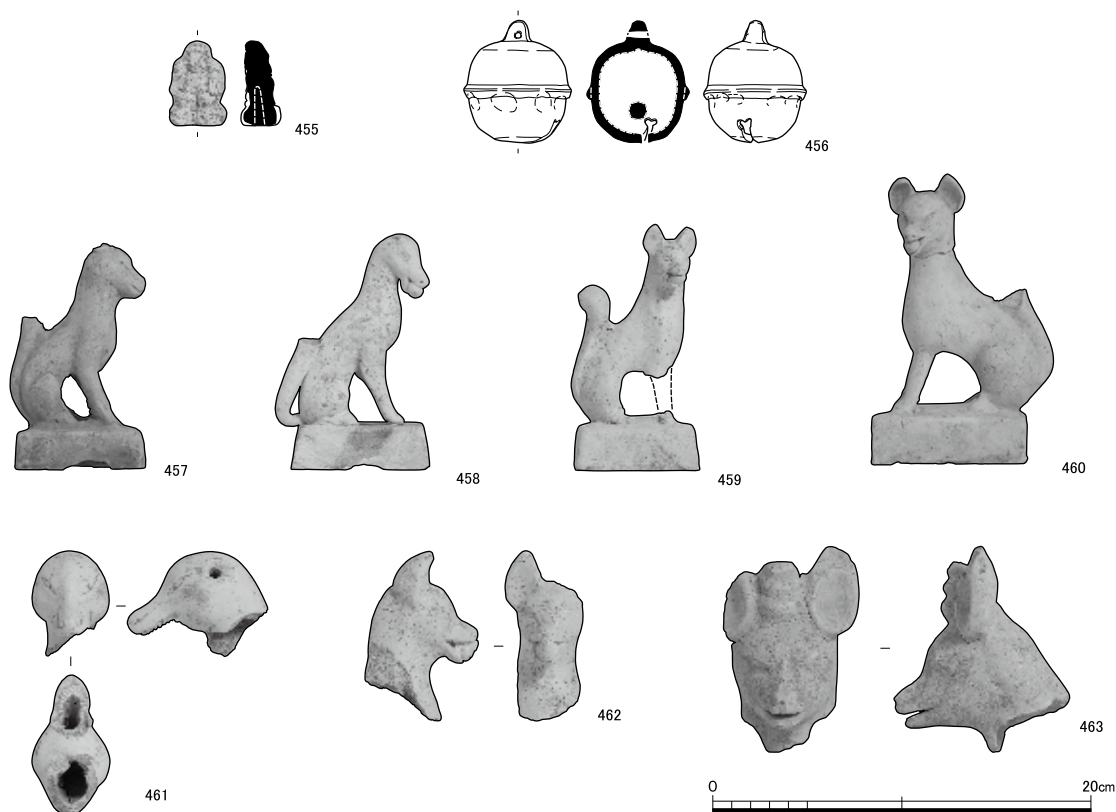


図42 土坑1002出土遺物実測図（1：4）

9.4cm以上、長径14.6cm、器高は最小0.9cm、最大5.2cmである。台座の平面形は正方形、長方形、台形などである。台座の側面には、墨で彩色されたものや山形の文様が描かれたもの（425・429・432・437・446）、朱と白色で縞模様が描かれたもの（445）、桜・菊・梅などの文様があるもの（450）がある。

成形技法は型作り、胴体部左右合わせが大半であるが、背と腹部の上下合わせが2点ある（439・440）。頭部は差し込み、尾は貼り付けるものがある（424・437・440）。

土坑1002出土土製品（図42） 土坑の大半は西に延長し、上部は攪乱を受けていたため、遺物の量は土坑1001と比較すると少量であるが、土坑1001と同じく土人形のキツネが出土した。土師器皿、土人形に差異はなく、土坑1001と同時期と考えられる。頭部が残存するものは60点、台座は93点ある。キツネは特徴的なもののみを掲載する。455は土人形の大黒、456は土鈴である。457～463はキツネ、457は首の振れがなく、朱で彩色、何も咬まない。458はやや右に首を振り、白色系の胎土、玉を咬める。459は右に首を振り、白色、玉を咬め、尾先は宝珠。台座側面に墨で山形を描く。460は左に首を振り、朱で彩色、玉を咬める。461は朱で彩色、上顎には白で彩色した歯、頭部には耳を差し込む穴がある。歯のあるキツネはこれ1点である。462は宝珠を咬める。463は朱で彩色、頭部に宝珠をのせる。

土坑2097出土土器（図43） 火災処理土坑と考えられる土坑から染付碗・皿、施釉陶器碗・皿・灯明皿・土瓶・鍋などがまとまって出土した。二次焼成を受ける。京都XIV期段階に属する資料である。

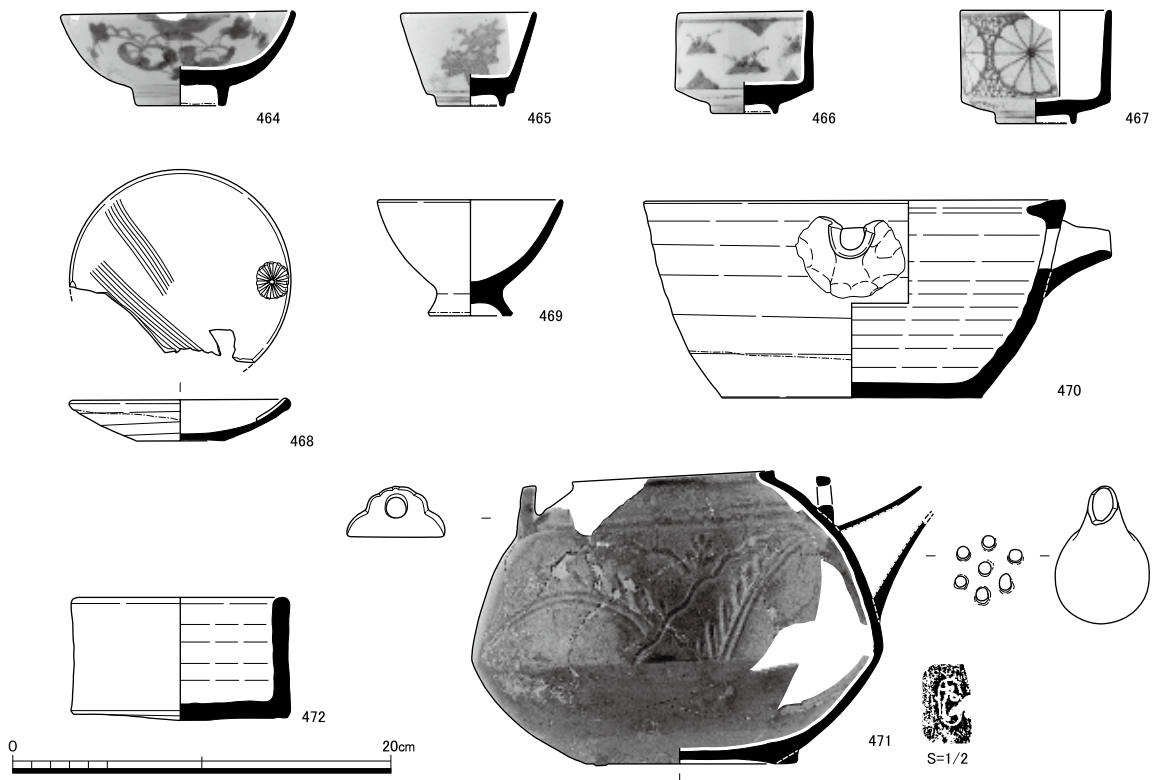


図43 土坑2097出土土器実測図（1：4）

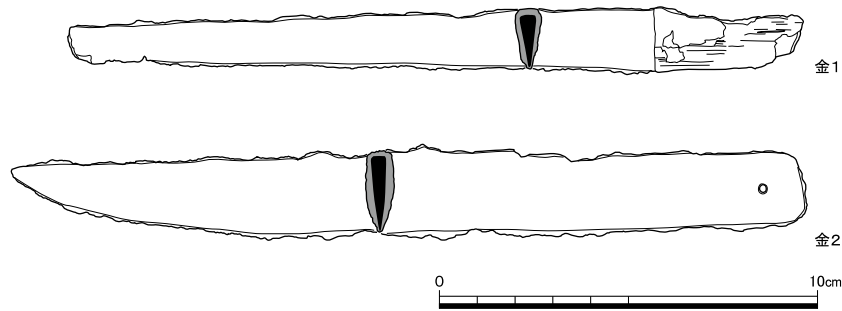


図44 金属製品実測図（1：2）

464～467は肥前系の染付、464は浅い椀で見込に粗雑な五花弁を描き、蛇の目釉剥ぎ、465は小杯、466・467は筒形椀、467は見込に五花弁を丁寧に描く。468～471は施釉陶器、468は灯明皿、469は高い高台の付く椀、470は片口鉢で底部内面に砂目が付く。471は土瓶、体部外面に文様を彫りこんだ後、鉄釉を施す。底部外面に刻印がみられる。472は焼締陶器、備前の匣鉢形鉢である。

(2) 金属製品（図44、表5）

調査では刀子、釘、金具、銭などが出土した。地下室2123からは72点の釘が出土している。

金1は刀子、先端部が欠損するが、中茎から15.5cm、茎長3.9cm、刃幅1.6cmである。埋納遺構2428から出土した。京都Ⅱ期新段階に属する土師器と共伴する。

金2は全長20.8cm、刃幅2.1cm、茎末尾から0.8cmの位置に孔を穿つ。地下室2123下層から出土した。京都Ⅵ期中段階に属する土師器と共伴する。

(3) 石製品（図45、表5）

調査では硯、滑石製の石鍋片などが出土した。

石1・2は硯である。石1は周縁に青海波の彫文を施す。2区第5期遺構検出中に出土した。石2は陸部が広く、外形に平行して周縁を残す。土坑2084から出土した。京都Ⅺ期新段階に属する土師器と共伴する。

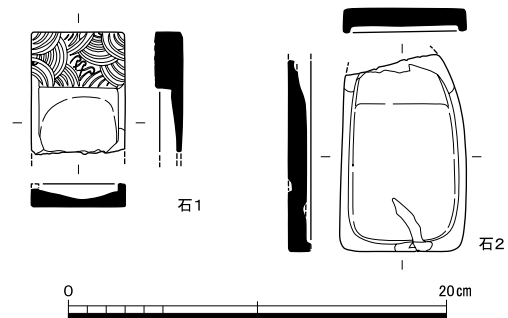


図45 石製品実測図（1：4）

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

750頃	840頃	930頃	1010頃	1080～90頃	1180頃	1270頃	1360頃	1440頃	1500頃	1580～90頃	1660頃	1740年代頃	1820年代頃							
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV							
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

- 2) 『世界陶磁全集 18 高麗』 株式会社小学館 1978年

5. ま と め

今回の調査では、弥生時代から江戸時代までの各時期の遺構を検出した。下京周辺は江戸時代以降の攪乱が激しく、遺構面の残存状況が良好でないことが多いため、時代ごとに面として調査することが困難であった。しかし、一部の中世以前の遺構が良好な状態で残り、土地利用の実態と変遷を復元する資料を得ることができたことは大きな成果である。以下ではその成果を含めた各時期の遺構の変遷をまとめる。

遺構の変遷

第1期 (図46) 弥生時代から古墳時代の烏丸綾小路遺跡に関連する遺構が形成される時期である。今調査では弥生時代後期の遺物を含む流路を1区の北西部と2区の南東部で検出したが、遺物の量はごく少量で、周囲からも遺物の混入がないことから、集落の中心部からははずれた位置になると考えられる。

第2期 (図47) 平安京遷都から11世紀前半に大規模な整地が行われるまでの時期である。今調査では2区の高辻小路の北築地心から北へ約10m、西二行と三行境界から西へ約1mの位置で、10世紀初頭の埋納遺構を検出した。また、1区でも埋納遺構を検出したが、それ以外は小規模な柱穴などの検出にとどまった。活発な土地利用は次の第3期、平安時代後期に入ってからのものである。

第3期 (図48) 11世紀前半から12世紀代の遺物を含む、いわゆる「うぐいす土」で大規模な整地が行われて以降、鎌倉時代前半の14世紀までの時期である。また、高辻小路に面して小規模な柱穴が密集しており、町屋が形成され、宅地としての利用が活発化した時

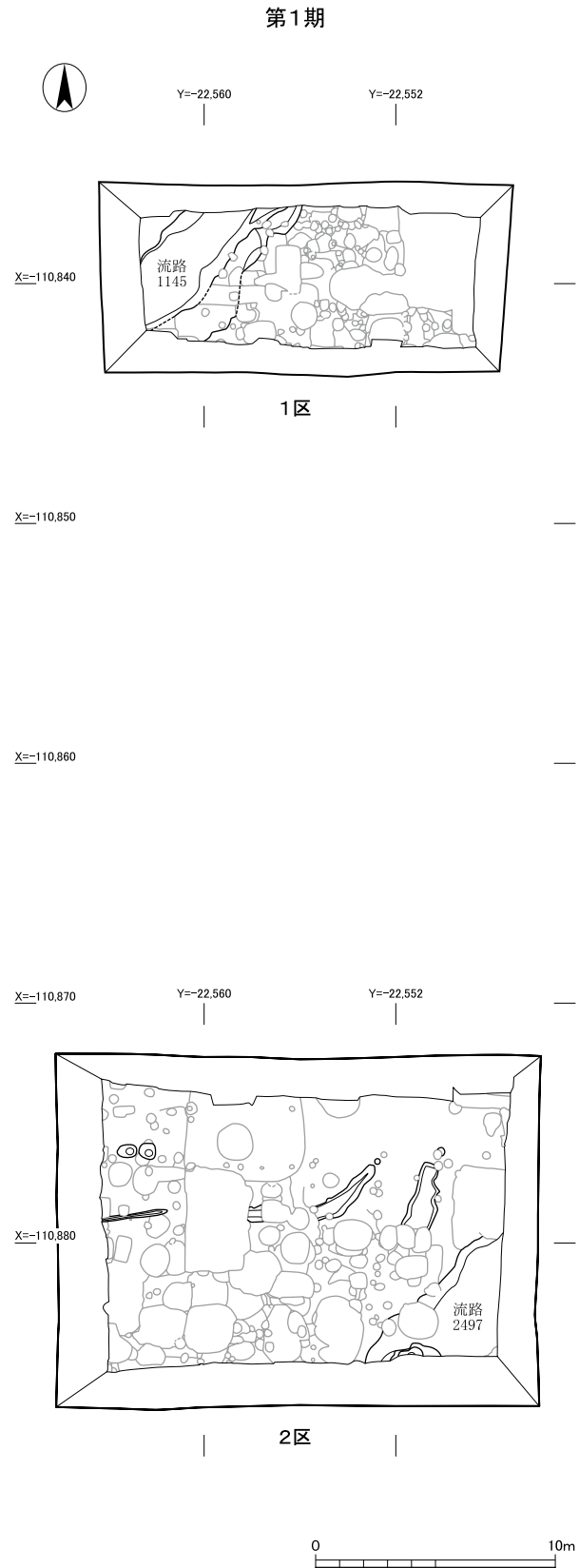


図46 遺構変遷図 第1期 (1:300)

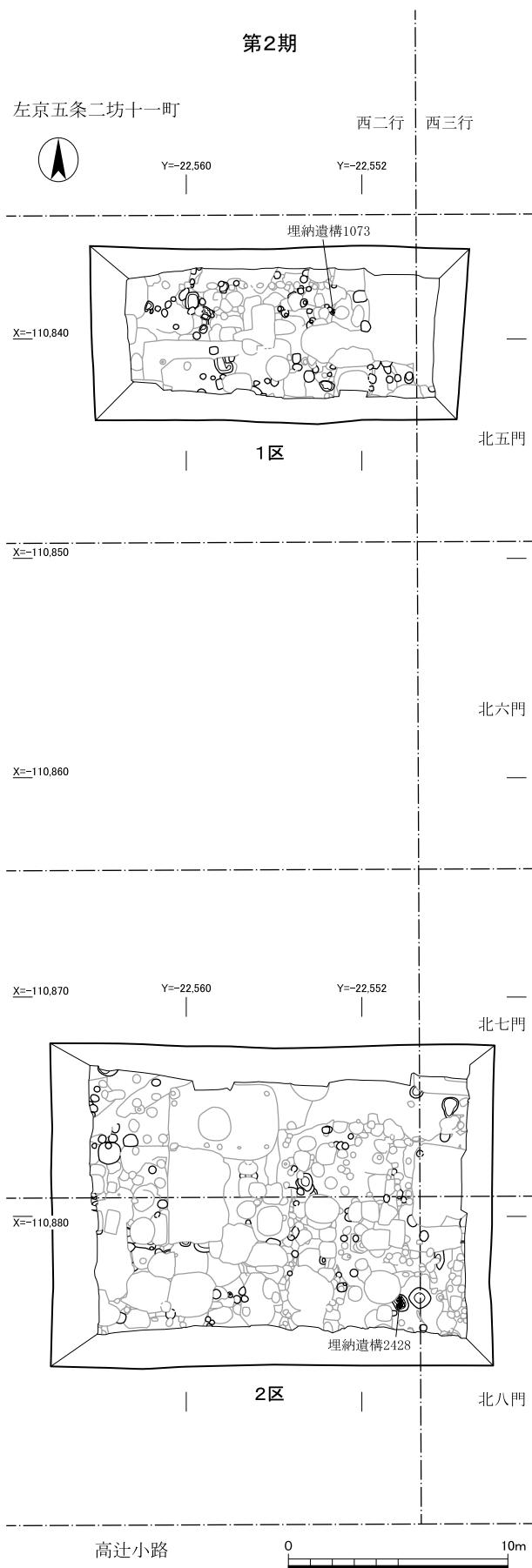


図47 遺構変遷図 第2期 (1:300)

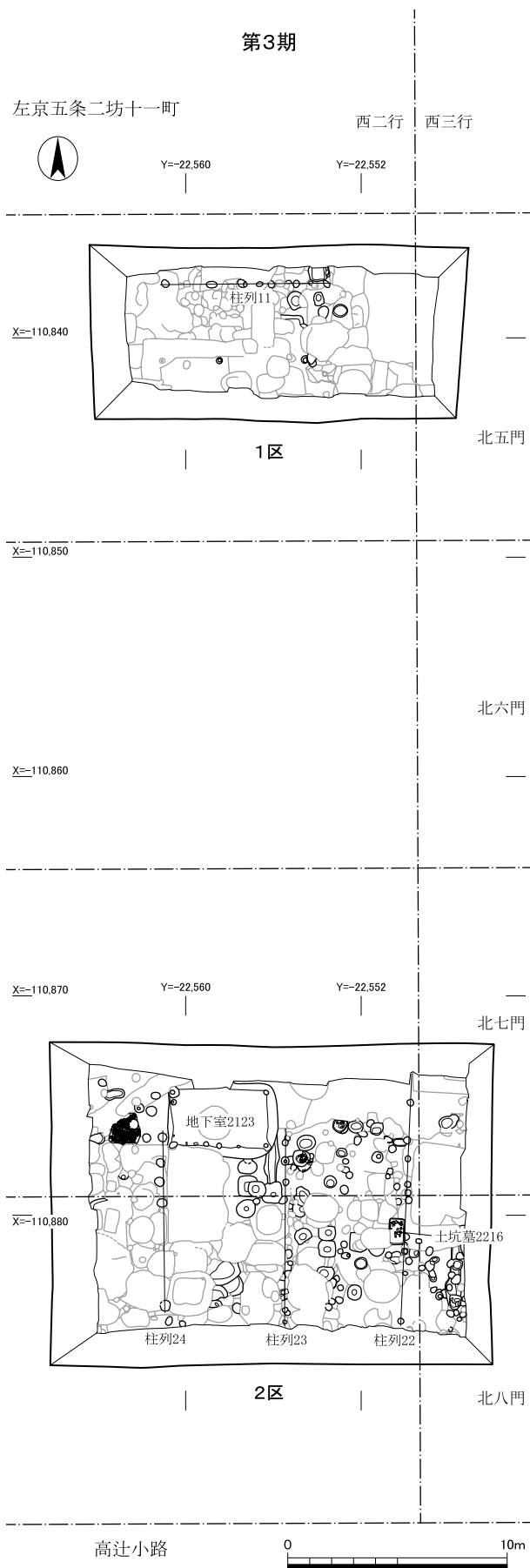


図48 遺構変遷図 第3期 (1:300)

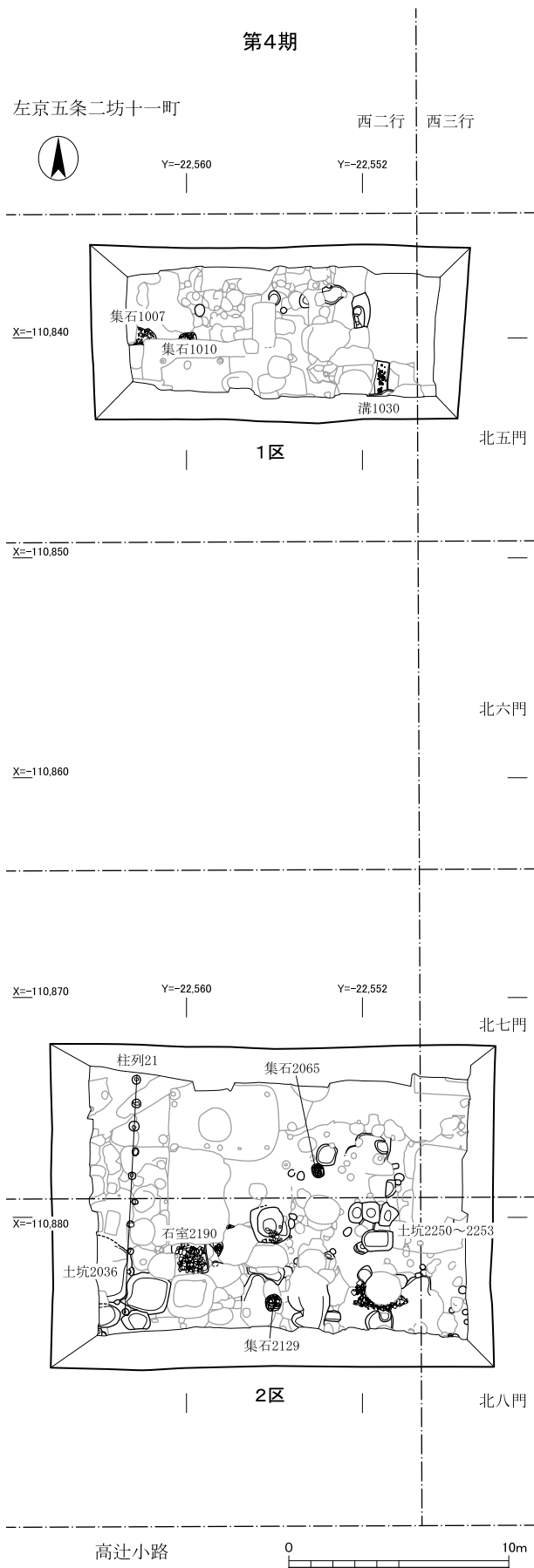


図49 遺構変遷図 第4期 (1:300)

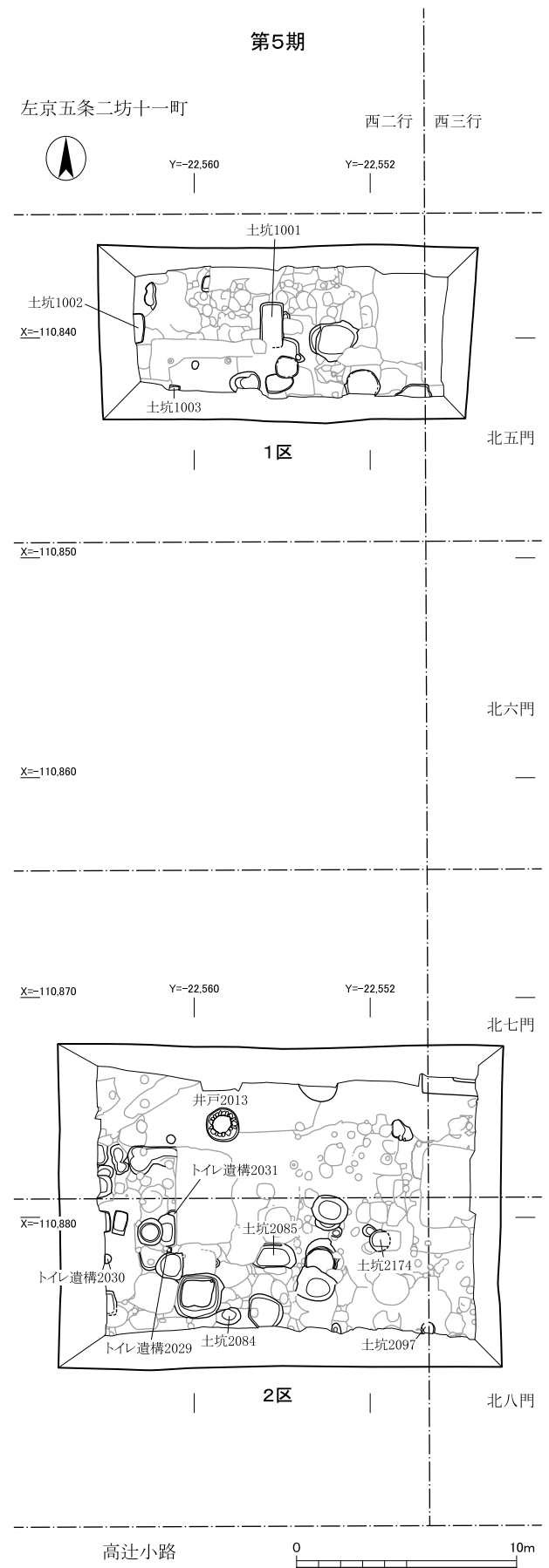


図50 遺構変遷図 第5期 (1:300)

期である。2区で検出した地下室2123は、13世紀前半の遺物を大量に包含し、出土例の少ない高麗青磁象嵌を含む輸入陶磁器や多種多様な土器類があることから、庶民の住居ではなく、商家などの宅地とみられる。中世下京の中心地の調査では、同様の地下室が検出されている。左京四条三坊四町で3基¹⁾、七町で2基²⁾、八町で6基³⁾、五条三坊九町で2基⁴⁾の報告例がある。遺構の時期は13世紀中頃から16世紀で、今調査で検出した地下室は、古い事例となる。

第4期(図49) 鎌倉時代後半から室町時代である。下京の中世町屋が再整備され、宅地としての利用が活発化した時期である。調査では小規模な柱穴が密集し、また、町屋の裏手空間であったと考えられ、粘土採掘のための土坑や石室、集石遺構などを検出した。2区土坑2036からは15世紀中頃の大量の土師器皿が出土している。しかし、15世紀後半以降の遺構や遺物は少なく、宅地に伴うべき井戸が検出されていない。

第5期(図50) 豊臣秀吉の京都改造により、調査地西側に新道として醒ヶ井通が作られた以後の17世紀から19世紀の半ばまでの時期である。遺構は、重複した状態で、後世に削平されたものが多い。また、小規模な柱穴が多い。粘土採掘のための土坑の範囲は、第4期よりもさらに拡張する。19世紀以降のトイレ遺構、井戸などを検出していることから、町屋が建て替えを繰り返しながら踏襲され続けていくものとみられる。

今回検出した土人形のキツネ廃棄土坑は、共伴する土師器皿から19世紀初頭と年代が明らかになっており、江戸時代後期には稲荷社が校内地の北西にあったと考える。土坑から出土したキツネはこの稲荷社に奉納され、その後廃棄されたものであろう。前述したように、「お火焚き」などの行事が行われ、饅頭などが振舞われるほどの稲荷社であれば、祠のみとは考えられないが、江戸時代の絵図などには社は描かれておらず、江戸時代以前の文献などにもみられないことから、詳細は不明である。

註

- 1) 『平安京左京四条三坊四町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-15 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016年
『平安京左京四条三坊四町跡・烏丸綾小路遺跡』株式会社日開調査設計コンサルタント 2007年
- 2) 『左京四条三坊七町・姥柳町遺跡(南蛮寺跡)』関西文化財調査会 2014年
- 3) 『平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-2 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 4) 『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-10 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008年

表3 土器類一覽表

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
1	弥生土器	甕	流路1145	—	(4.3)	—	10YR8/3浅黄橙	櫛描直線文 波状文
2	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.4	2.2	—	7.5YR7/6橙	口縁端部煤付着
3	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.5	2.2	—	7.6YR7/6橙	口縁端部煤付着
4	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.6	2.3	—	10YR8/3浅黄橙	口縁端部煤付着
5	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.6	2.3	—	7.5YR7/6橙	口縁端部煤付着
6	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.6	2.6	—	5YR6/6橙	口縁端部煤付着
7	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.6	2.1	—	10YR8/3浅黄橙	口縁端部煤付着
8	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.7	2.1	—	7.5YR7/6橙	口縁端部煤付着
9	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.7	2.3	—	5YR7/6橙	口縁端部煤付着
10	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.7	2.3	—	7.5YR6/6橙	口縁端部煤付着
11	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.8	2.4	—	10YR8/1灰白	口縁端部煤付着
12	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.8	2.3	—	7.5YR6/6橙	口縁端部煤付着
13	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.8	2.5	—	7.6YR7/6橙	口縁端部煤付着
14	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.8	2.1	—	7.6YR7/6橙	口縁端部煤付着
15	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.8	2.0	—	7.5YR7/6橙	口縁端部煤付着
16	土師器	椀A	埋納遺構2428	13.9	2.2	—	7.5YR7/4にぶい橙	口縁端部煤付着
17	土師器	椀A	埋納遺構2428	14.0	2.2	—	7.6YR7/6橙	
18	土師器	椀A	埋納遺構2428	14.0	2.4	—	10YR8/4浅黄橙	
19	土師器	椀A	埋納遺構2428	14.1	2.1	—	7.5YR7/4にぶい橙	口縁端部煤付着
20	土師器	杯A	埋納遺構2428	14.8	2.3	—	10YR8/3浅黄橙	口縁端部煤付着
21	土師器	杯A	埋納遺構2428	14.9	2.4	—	5YR6/6橙	口縁端部煤付着
22	土師器	杯B	埋納遺構2428	19.8	4.5	—	5YR7/6橙	
23	土師器	甕	埋納遺構2428	22.0	16.2	—	7.5YR6/6橙	
24	黑色土器	椀B	埋納遺構1073	16.2	6.8	8.0	N2/0黒	内外面に密なミガキ
25	土師器	蓋	埋甕2061	8.7	1.4	—	7.5YR7/3にぶい橙	外面に胡粉付着
26	土師器	皿Sc	埋甕2061	9.3	1.2	—	7.5YR6/2灰褐	
27	土師器	皿N	埋甕2061	9.5	1.6	—	7.5YR7/4にぶい橙	
28	土師器	皿N	埋甕2061	9.6	1.9	—	7.5YR7/4にぶい橙	
29	土師器	皿N	埋甕2061	10.1	1.8	—	7.5YR8/4浅黄橙	
30	土師器	皿N	埋甕2061	14.7	(2.5)	—	10YR8/3浅黄橙～10YR4/1褐灰	
31	土師器	皿N	埋甕2061	14.9	(2.6)	—	7.5YR7/4にぶい橙	
32	土師器	皿N	埋甕2061	15.1	3.0	—	10YR8/3浅黄橙	
33	土師器	皿N	埋甕2061	15.3	2.5	—	7.5YR7/3にぶい橙	
34	土師器	鉢	埋甕2061	6.9	3.7	—	7.5YR8/4浅黄橙	白色系
35	白色土器	皿	埋甕2061	11.1	(1.4)	—	10YR8/1灰白	
36	焼締陶器	甕	埋甕2061	—	(9.7)、 (24.0)	19.5	2.5Y1/4黄灰	常滑
37	輸入白磁	椀	埋甕2061	—	(1.7)	—	釉)2.5GY8/1灰白 胎土)N8/0灰白	口縁端部輪花状
38	輸入白磁	椀	埋甕2061	16.0	(2.9)	—	釉)5Y8/2灰白 胎土)5Y8/1灰白	口縁端部玉緑
39	輸入青白磁	皿	埋甕2061	—	(1.4)	3.0	釉)7.5GY8/1暗緑灰 胎土)N8/0灰白	平底
40	輸入青白磁	椀	埋甕2061	5.3	(2.8)	—	釉)10GY8/1明緑灰 胎土)N8/0灰白	内面に陰刻文
41	輸入褐釉	壺	埋甕2061	13.2	(4.0)	—	N7/0灰白	
42	山茶椀	椀	柱穴2293	16.0	5.1	7.0	2.5Y7/1灰白	柱列24
43	土師器	皿Ac	地下室2123	8.7	1.4	—	7.5YR7/4にぶい橙	北拡張
44	土師器	皿Ac	地下室2123	9.5	(1.3)	—	10YR7/4にぶい黄橙	上層
45	土師器	皿N	地下室2123	8.1	—	—	10YR8/4浅黄橙	上層
46	土師器	皿N	地下室2123	8.2	1.5	—	10YR8/4浅黄橙	上層
47	土師器	皿N	地下室2123	8.3	1.5	—	10YR6/3にぶい黄橙	上層

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
48	土師器	皿N	地下室2123	8.3	1.4		10YR8/4浅黄橙	上層
49	土師器	皿N	地下室2123	8.4	1.3		10YR6/3にぶい黄橙	上層
50	土師器	皿N	地下室2123	8.5	1.3		10YR7/4にぶい黄橙	上層
51	土師器	皿N	地下室2123	8.5	—		10YR7/4にぶい黄橙	上層
52	土師器	皿N	地下室2123	8.6	1.4		10YR8/4浅黄橙	上層
53	土師器	皿N	地下室2123	8.7	1.2		10YR8/4浅黄橙	上層
54	土師器	皿N	地下室2123	8.8	—		7.5YR7/4にぶい橙	上層
55	土師器	皿N	地下室2123	8.9	—		10YR8/4浅黄橙	上層
56	土師器	皿N	地下室2123	9.2	1.2		2.5Y8/3淡黄	上層
57	土師器	皿N	地下室2123	10.2	1.5		10YR8/3浅黄橙	上層
58	土師器	皿N	地下室2123	12.0	2.1		7.5YR7/4にぶい橙	上層
59	土師器	皿N	地下室2123	12.1	2.0		7.5YR7/4にぶい橙	上層
60	土師器	皿N	地下室2123	12.2	2.3		7.5YR7/4にぶい橙	上層
61	土師器	皿N	地下室2123	12.3	1.9		7.5YR7/4にぶい橙	上層
62	土師器	皿N	地下室2123	12.4	2.3		7.5YR7/4にぶい橙	上層
63	土師器	皿N	地下室2123	12.6	2.3		7.5YR7/4にぶい橙	上層
64	土師器	皿N	地下室2123	12.7	2.3		10YR7/4にぶい黄橙	上層
65	土師器	皿N	地下室2123	12.9	2.1		10YR7/4にぶい黄橙	上層
66	土師器	皿Sc	地下室2123	5.2	0.9		2.5Y8/2灰白	上層
67	土師器	皿Sc	地下室2123	5.3	0.9		2.5Y8/2灰白	上層
68	土師器	皿Sc	地下室2123	5.4	1.1		2.5Y8/2灰白	上層
69	土師器	皿Sc	地下室2123	5.9	1.1		2.5Y8/2灰白	上層
70	土師器	皿Sc	地下室2123	6.2	1.0		2.5Y8/2灰白	上層
71	土師器	皿Sc	地下室2123	6.3	0.8		2.5Y8/2灰白	上層
72	土師器	皿Sc	地下室2123	6.4	1.5		2.5Y8/2灰白	上層
73	土師器	皿Sc	地下室2123	6.5	1.2		2.5Y8/2灰白	上層
74	土師器	皿Sc	地下室2123	7.0	1.2		2.5Y8/2灰白	北拡張
75	土師器	皿Sc	地下室2123	7.1	1.3		2.5Y8/2灰白	上層
76	土師器	皿Sc	地下室2123	7.2	1.1		2.5Y8/2灰白	上層
77	土師器	皿Sc	地下室2123	7.4	1.2		2.5Y8/2灰白	上層
78	土師器	皿Sc	地下室2123	7.3	1.1		2.5Y8/1灰白	北拡張
79	土師器	皿S	地下室2123	8.2	1.5		2.5Y8/2灰白	上層 形態はNに類似
80	土師器	皿S	地下室2123	9.0	1.6		2.5Y8/2灰白	北拡張 形態はNに類似
81	土師器	皿S	地下室2123	9.0	1.5		2.5Y8/2灰白	上層 形態はNに類似
82	土師器	皿S	地下室2123	9.1	1.5		2.5Y8/2灰白	上層 形態はNに類似
83	土師器	皿S	地下室2123	7.7	1.8		2.5Y8/4淡黄	上層
84	土師器	皿S	地下室2123	8.7	2.5		2.5Y8/1灰白	上層
85	土師器	皿S	地下室2123	8.6	2.2		2.5Y8/2灰白	上層
86	土師器	皿S	地下室2123	10.1	3.0		2.5Y8/2灰白	上層
87	土師器	皿S	地下室2123	10.2	3.0		2.5Y8/2灰白	上層
88	土師器	皿S	地下室2123	10.6	2.9		2.5Y8/2灰白	上層
89	土師器	皿S	地下室2123	10.7	2.9		10YR8/2灰白	上層
90	土師器	皿S	地下室2123	10.7	2.8		2.5Y8/2灰白	上層
91	土師器	皿S	地下室2123	10.8	3.1		2.5Y8/2灰白	上層
92	土師器	皿S	地下室2123	10.9	3.0		10YR8/2灰白	上層
93	土師器	皿S	地下室2123	10.9	2.6		2.5Y8/2灰白	上層
94	土師器	皿S	地下室2123	11.0	3.3		2.5Y8/2灰白	上層
95	土師器	皿S	地下室2123	11.0	3.2		2.5Y8/2灰白	上層

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
96	土師器	皿S	地下室2123	11.1	3.3		2.5Y8/2灰白	上層
97	土師器	皿S	地下室2123	12.6	3.2		2.5Y8/2灰白	上層
98	土師器	皿S	地下室2123	13.0	3.1		2.5Y8/2灰白	上層
99	土師器	皿S	地下室2123	13.2	3.4		2.5Y8/2灰白	上層
100	土師器	鉢	地下室2123	16.2	(6.3)		10YR7/3にぶい黄橙	上層
101	土師器	鉢	地下室2123			7.0	7.5YR7/4にぶい黄橙	上層
102	土師器	鉢	地下室2123	18.6	(7.0)		10YR7/3にぶい黄橙	上層
103	土師器	鉢	地下室2123	16.6	(6.8)		7.5YR7/4にぶい黄橙	上層
104	土師器	鉢	地下室2123	18.4	(5.6)		7.5YR6/2灰褐	上層
105	須恵器	皿	地下室2123	12.0	2.7		5Y8/1灰白 口縁端部N2/0黒	上層
106	山茶碗	碗	地下室2123	—	(2.2)		2.5Y7/1灰白	上層
107	瓦器	皿	地下室2123	5.5	0.9		N4/灰	上層
108	瓦器	皿	地下室2123	—	—		N4/灰	上層
109	瓦器	皿	地下室2123	8.4	1.6		N3/暗灰	上層
110	瓦器	皿	地下室2123	10.4	(3.2)		N4/灰	上層
111	瓦器	皿	地下室2123	11.6	(3.2)		N4/灰	上層
112	瓦器	碗	地下室2123	13.5	4.5		N4/灰	上層
113	瓦器	碗	地下室2123	13.7	3.4		N4/灰	上層
114	瓦器	鉢	地下室2123	16.6	5.5		2.5Y5/1黄灰	上層
115	瓦器	小型羽釜	地下室2123	6.6	(4.4)		2.5Y7/1灰白	上層
116	瓦器	脚部	地下室2123	—	—		N5/灰	上層
117	瓦器	脚部	地下室2123	—	—		N5/灰	上層
118	瓦器	鍋	地下室2123	19.0	(7.6)		10YR5/2灰黄褐	上層
119	瓦器	鍋	地下室2123	25.2	(11.4)		2.5Y7/1灰白	上層
120	瓦器	鍋	地下室2123	25.8	(7.8)		2.5GY2/1黒	上層
121	瓦器	火鉢	地下室2123	44.2	11.2		7.5YR6/4にぶい黄橙	上層
122	瓦器	火鉢	地下室2123	46.3	10.5		7.5YR6/4にぶい黄橙	上層
123	輸入白磁	碗	地下室2123	16.0	—		釉)2.5Y7/2灰白 胎土)7.5Y8/1灰白	上層
124	輸入白磁	碗	地下室2123	16.6	—		釉)7.5Y7/2灰白 胎土)10Y7/1灰白	上層
125	輸入白磁	碗	地下室2123	16.6	—		釉)10Y8/1灰白 胎土)10Y7/1灰白	上層
126	輸入白磁	碗	地下室2123	17.2	—		釉)10Y6/2オリーブ灰 胎土)10Y7/1灰白	上層
127	輸入白磁	碗	地下室2123	—	—	7.2	釉)2.5Y7/2灰黄 胎土)2.5Y7/3浅黄	上層
128	輸入白磁	碗	地下室2123	—	(3.5)	6.6	釉)10Y8/1灰白 胎土)10Y7/1灰白	上層
129	輸入白磁	皿	地下室2123	—	—		釉)10Y7/1灰白 胎土)N8/1灰白	上層
130	輸入白磁	皿	地下室2123	—	—		釉)7.5Y8/1灰白 胎土)10Y8/1灰白	上層
131	輸入白磁	皿	地下室2123	10.8	—		釉)5Y7/3浅黄 胎土)7.5Y8/1灰白	上層
132	輸入青白磁	碗	地下室2123	19.0	—		釉)7.5GY8/0明緑 胎土)N8/0灰白	上層
133	輸入青白磁	皿	地下室2123	9.2	—		釉)5GY8/0明緑 胎土)N8/0灰白	上層
134	輸入青白磁	皿	地下室2123	10.6	—		釉)7.5GY7/1明緑 胎土)N8/0灰白	上層
135	輸入青白磁	皿	地下室2123	—	—		釉)5Y8/1灰白 胎土)7.5Y8/1灰白	上層
136	輸入青白磁	小碗	地下室2123	—	—	3.2	釉)7.5GY7/1明緑 胎土)N8/0灰白	上層
137	輸入青白磁	合子	地下室2123	—	—		釉)5GY8/0明緑 胎土)N8/0灰白	上層 裏面墨書
138	輸入青磁	碗	地下室2123	—	—		釉)5Y6/2灰オリーブ 胎土)5Y7/1灰白	上層
139	輸入青磁	碗	地下室2123	10.2	—		釉)5GY6/0オリーブ灰 胎土)5Y7/1灰白	上層
140	輸入青磁	碗	地下室2123	—	(3.5)	3.3	釉)2.5GY6/1オリーブ灰 胎土)10Y6/1灰	上層
141	輸入青磁	碗	地下室2123	—	—	3.3	釉)5GY7/1明オリーブ 胎土)10Y7/1灰白	上層
142	輸入青磁	碗	地下室2123	15.8	—		釉)7.5Y5/3灰オリーブ 胎土)5Y7/1灰白	上層
143	輸入青磁	碗	地下室2123	—	—	5.6	釉)7.5Y6/2灰オリーブ 胎土)7.5Y7/1灰白	上層

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
144	輸入青磁	皿	地下室2123	10.5	2.0		釉)10Y6/1灰 胎土)10Y7/1灰白	上層
145	輸入青磁	皿	地下室2123	9.6	1.9		釉)7.5Y6/3オリーブ黄 胎土)7.5Y7/1灰白	上層
146	輸入鉄釉	皿	地下室2123	9.4	2.9		釉)10YR3/2黒褐 胎土)10YR5/3にぶい黄褐	上層 完形
147	輸入褐釉	壺	地下室2123				釉)5Y6/3オリーブ黄 胎土)2.5Y6/1黄灰	上層
148	輸入黄釉褐彩	鉢	地下室2123	34.0	9.5		釉)5Y6/4オリーブ黄 胎土)2.5Y8/1灰白 文様)2.5Y5/4黄褐	上層
149	輸入象嵌青磁	瓶	地下室2123		(17.7)		釉)10GY7.2/1.5明緑灰 胎土)5Y6/1灰 文様)10GY7/1明緑灰	上層 高麗
150	土師器	皿N	地下室2123	8.3	1.4		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
151	土師器	皿N	地下室2123	8.4	1.5		10YR7/4にぶい黄橙	土器集中箇所(下層)
152	土師器	皿N	地下室2123	8.5	1.4		10YR7/4にぶい黄橙	土器集中箇所(下層)
153	土師器	皿N	地下室2123	8.5	1.4		10YR8/3浅黄橙	土器集中箇所(下層)
154	土師器	皿N	地下室2123	8.6	1.3		10YR8/3浅黄橙	土器集中箇所(下層)
155	土師器	皿N	地下室2123	8.6	1.5		10YR8/3浅黄橙	土器集中箇所(下層)
156	土師器	皿N	地下室2123	8.7	1.5		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
157	土師器	皿N	地下室2123	8.8	1.7		10YR7/4にぶい黄橙	土器集中箇所(下層)
158	土師器	皿N	地下室2123	12.4	2.4		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
159	土師器	皿N	地下室2123	12.5	2.3		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
160	土師器	皿N	地下室2123	12.5	2.2		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
161	土師器	皿N	地下室2123	12.6	2.5		10YR7/4にぶい黄橙	土器集中箇所(下層)
162	土師器	皿N	地下室2123	12.7	2.5		10YR7/4にぶい黄橙	土器集中箇所(下層)
163	土師器	皿N	地下室2123	12.8	2.2		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
164	土師器	皿N	地下室2123	12.8	2.3		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
165	土師器	皿N	地下室2123	12.9	2.5		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
166	土師器	皿N	地下室2123	12.9	2.4		7.5YR7/4にぶい橙	土器集中箇所(下層)
167	土師器	皿N	地下室2123	13.0	2.3		10YR8/3浅黄橙	土器集中箇所(下層)
168	土師器	皿Sc	地下室2123	7.2	1.1		10YR8/2灰白	土器集中箇所(下層)
169	土師器	皿Sc	地下室2123	7.6	1.2		10YR8/2灰白	土器集中箇所(下層)
170	土師器	皿Sc	地下室2123	7.7	1.3		10YR8/2灰白	土器集中箇所(下層)
171	土師器	皿S	地下室2123	8.9	1.5		2.5Y8/2灰白	土器集中箇所(下層)
172	土師器	皿S	地下室2123	9.2	1.6		2.5Y8/2灰白	土器集中箇所(下層)
173	土師器	皿S	地下室2123	10.7	3.1		2.5Y8/2灰白	土器集中箇所(下層)
174	土師器	皿S	地下室2123	10.8	2.8		2.5Y8/2灰白	土器集中箇所(下層)
175	土師器	皿S	地下室2123	10.6	2.9		2.5Y8/2灰白	土器集中箇所(下層)
176	瓦器	鍋	地下室2123	26.3	12.6		外面)N3/0暗灰 胎土)5Y7/1灰白	埋納か
177	瓦器	鍋	地下室2123	42.6	13.5		5YR7/4にぶい橙	176瓦器鍋付近
178	輸入白磁	皿	地下室2123	12.2	2.5		釉)7.5Y7/2灰白 胎土)10Y7/1灰白	176瓦器鍋付近
179	輸入青磁	碗	地下室2123	16.2	(4.5)		釉)10Y612灰 胎土)7.5Y6/1灰	176瓦器鍋付近
180	土師器	皿N	地下室2123	8.1	1.6		10YR7/3にぶい黄橙	下層
181	土師器	皿N	地下室2123	8.2	1.4		10YR8/3浅黄橙	下層
182	土師器	皿N	地下室2123	8.5	1.6		10YR8/4浅黄橙	下層
183	土師器	皿N	地下室2123	8.5	1.3		7.5YR7/6橙	下層
184	土師器	皿N	地下室2123	8.6	1.6		10YR7/4にぶい黄橙	下層
185	土師器	皿N	地下室2123	8.7	1.6		10YR7/4にぶい黄橙	下層
186	土師器	皿N	地下室2123	8.8	1.6		7.5YR7/4にぶい橙	下層
187	土師器	皿N	地下室2123	8.8	1.5		10YR7/4にぶい黄橙	下層
188	土師器	皿N	地下室2123	8.9	1.5		10YR7/2にぶい黄橙	下層
189	土師器	皿N	地下室2123	9.0	1.4		7.5YR7/4にぶい橙	下層
190	土師器	皿N	地下室2123	13.2	2.3		10YR7/4にぶい黄橙	下層

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
191	土師器	ⅢN	地下室2123	13.3	2.4		10YR7/4にぶい黄橙	下層
192	土師器	ⅢSc	地下室2123	7.2	1.1		2.5Y8/2灰白	下層
193	土師器	ⅢSc	地下室2123	7.4	1.4		2.5Y8/2灰白	下層
194	土師器	ⅢSc	地下室2123	7.4	1.0		2.5Y8/2灰白	下層
195	土師器	ⅢSc	地下室2123	7.3	1.3		2.5Y8/2灰白	下層
196	土師器	ⅢS	地下室2123	9.4	1.7		2.5Y8/2灰白	下層 形態はⅢNに類似
197	土師器	ⅢS	地下室2123	12.6	2.8		2.5Y8/2灰白	下層
198	土師器	ⅢS	地下室2123	12.7	(2.8)		2.5Y8/2灰白	下層
199	土師器	ⅢS	地下室2123	13.3	3.0		2.5Y8/2灰白	下層
200	瓦器	羽釜	地下室2123	13.6	8.7		2.5Y7/1灰白	下層
201	輸入白磁	椀	地下室2123	14.5	—		釉)10Y8/1灰白 胎土)10Y8/1灰白	下層
202	輸入青磁	椀	地下室2123	16.3	(4.5)		釉)7.5Y6/1灰 胎土)7.5Y5/1灰	下層
203	輸入青磁	椀	地下室2123	16.6	(5.5)		釉)10Y6/1灰 胎土)7.5Y5/1灰	下層
204	土師器	ⅢSc	土坑墓2216	6.2	0.8		10YR8/1灰白	
205	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.3	3.2		2.5Y8/2灰白	
206	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.4	2.8		2.5Y8/2灰白	
207	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.6	3.0		2.5Y8/1灰白	
208	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.6	3.1		2.5Y8/2灰白	
209	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.9	3.0		2.5Y8/2灰白	
210	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.7	3.1		2.5Y8/2灰白	
211	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.7	3.1		2.5Y8/2灰白	
212	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.7	3.1		2.5Y8/2灰白	
213	土師器	ⅢS	土坑墓2216	10.8	3.0		2.5Y8/2灰白	
214	土師器	ⅢS	土坑墓2216	11.0	3.2		2.5Y8/2灰白	
215	土師器	ⅢS	土坑墓2216	14.1	3.0		2.5Y8/1灰白	
216	土師器	ⅢAc	土坑墓2216	8.3	(1.1)		7.5YR7/4にぶい黄橙	
217	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.0	1.5		10YR7/3にぶい黄橙	
218	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.1	1.3		10YR7/3にぶい黄橙	
219	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.2	1.5		10YR8/4浅黄橙	
220	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.3	1.5		7.5YR7/4にぶい黄橙	
221	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.5	1.3		10YR7/3にぶい黄橙	
222	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.5	1.4		10YR8/3浅黄橙	
223	土師器	ⅢN	土坑墓2216	8.7	1.3		10YR8/4浅黄橙	
224	土師器	ⅢN	土坑墓2216	9.0	1.3		10YR7/3にぶい黄橙	
225	土師器	ⅢN	土坑墓2216	9.2	2.4		10YR7/3にぶい黄橙	
226	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.1	2.3		7.5YR5/4にぶい褐	
227	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.1	2.2		10YR7/3にぶい黄橙	
228	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.6	2.4		10YR7/3にぶい黄橙	
229	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.2	2.1		10YR7/3にぶい黄橙	
230	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.2	2.4		10YR7/3にぶい黄橙	
231	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.3	2.1		7.5YR7/4にぶい黄橙	
232	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.4	2.3		7.5YR7/4にぶい黄橙	
233	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.5	2.2		10YR7/3にぶい黄橙	
234	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.5	2.3		7.5YR7/6橙	
235	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.6	2.1		7.5YR7/4にぶい黄橙	
236	土師器	ⅢN	土坑墓2216	12.7	2.3		10YR7/3にぶい黄橙	
237	土師器	鉢	土坑墓2216	14.5	(9.0)		2.5Y7/3浅黄	
238	須恵器	鉢	土坑墓2216	17.4	5.6		2.5Y5/1黄灰	東播系

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
239	瓦器	羽釜	土坑墓2216	8.0	(4.0)		2.5Y6/1黄灰	
240	瓦器	羽釜	土坑墓2216	20.6	(9.8)		5Y6/1黄灰	
241	瓦器	鍋	土坑墓2216	24.5	10.8		2.5Y6/1黄灰	
242	輸入青白磁	合子蓋	土坑墓2216				釉)2.5Y7/1灰白 胎土)7.5Y7/1灰白	
243	輸入青磁	椀	土坑墓2216				釉)10Y6/1オリーブ灰 胎土)7.5Y6/1灰	
244	輸入青磁	椀	土坑墓2216				釉)7.5Y6/3オリーブ黄 胎土)2.5Y7/2灰黄	
245	土師器	皿Sh	溝1030	6.4	1.8		2.5Y8/1灰白	
246	土師器	皿Sh	溝1030	6.5	1.7		2.5Y8/2灰白	
247	土師器	皿Sh	溝1030	6.6	1.8		2.5Y8/2灰白	
248	土師器	皿Sh	溝1030	6.5	1.8		2.5Y8/2灰白	
249	土師器	皿Sh	溝1030	6.6	1.8		10YR8/2灰白	
250	土師器	皿Sh	溝1030	6.8	1.7		2.5Y8/2灰白	
251	土師器	皿Sh	溝1030	7.0	1.7		2.5Y8/2灰白	
252	土師器	皿Sh	溝1030	7.0	1.7		2.5Y8/2灰白	
253	土師器	皿S	溝1030	6.7	1.7		2.5Y8/2灰白	
254	土師器	皿S	溝1030	8.7	1.7		2.5Y8/1灰白	灯明 形態は皿Nに類似
255	土師器	皿S	溝1030	11.2	2.8		2.5Y8/2灰白	
256	土師器	皿S	溝1030	11.3	3.0		2.5Y8/2灰白	
257	土師器	皿S	溝1030	11.5	3.0		10YR8/1灰白	
258	土師器	皿S	溝1030	11.5	2.8		2.5Y8/2灰白	
259	土師器	皿S	溝1030	11.6	3.2		2.5Y8/2灰白	
260	土師器	皿S	溝1030	11.7	2.7		2.5Y8/2灰白	
261	土師器	皿S	溝1030	11.7	3.2		2.5Y8/2灰白	
262	土師器	皿S	溝1030	11.7	3.0		2.5Y8/2灰白	
263	土師器	皿S	溝1030	11.8	2.8		2.5Y8/2灰白	
264	土師器	皿S	溝1030	11.9	3.2		2.5Y8/2灰白	
265	土師器	皿N	溝1030	7.3	1.4		7.5YR8/3浅黄橙	
266	土師器	皿N	溝1030	7.7	1.5		7.5YR7/4にぶい橙	
267	土師器	皿N	溝1030	7.8	1.7		7.5YR7/4にぶい橙	
268	土師器	皿N	溝1030	7.8	1.6		10YR8/3浅黄橙	
269	土師器	皿N	溝1030	7.9	1.7		7.5YR7/4にぶい橙	
270	土師器	皿N	溝1030	7.9	1.4		7.5YR7/6橙	
271	土師器	皿N	溝1030	7.9	1.4		7.5YR7/4にぶい橙	
272	土師器	皿N	溝1030	7.9	1.7		7.5YR7/4にぶい橙	
273	土師器	皿N	溝1030	7.9	1.5		7.5YR7/4にぶい橙	
274	土師器	皿N	溝1030	8.0	1.6		10YR7/4にぶい黄橙	
275	土師器	皿N	溝1030	8.0	1.6		7.5YR7/3にぶい橙	
276	土師器	皿N	溝1030	8.1	1.3		7.5YR7/6橙	
277	土師器	皿N	溝1030	8.1	1.4		7.5YR8/3浅黄橙	
278	土師器	皿N	溝1030	8.2	1.5		10YR7/3にぶい黄橙	
279	土師器	皿N	溝1030	10.8	2.0		10YR8/3浅黄橙	
280	土師器	皿N	溝1030	10.9	2.0		10YR8/3浅黄橙	
281	土師器	皿N	溝1030	10.9	2.0		10YR7/3にぶい黄橙	
282	土師器	皿N	溝1030	11.0	2.0		10YR8/3浅黄橙	
283	土師器	皿N	溝1030	11.0	2.0		10YR8/3浅黄橙	
284	土師器	皿N	溝1030	11.1	1.8		7.5YR7/6橙	
285	土師器	皿N	溝1030	11.1	2.0		7.5YR7/6橙	
286	土師器	皿N	溝1030	11.2	1.8		10YR8/3浅黄橙	

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
287	土師器	ⅢN	溝1030	11.3	2.0		7.5YR7/4にぶい橙	
288	土師器	ⅢN	溝1030	11.4	2.2		7.5YR7/4にぶい橙	
289	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(21.5)	-	釉)5YR4/3にぶい赤褐 胎土)5YR4/2灰褐	常滑
290	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(13.8)	-	10YR2/1黒	常滑
291	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(4.3)	-	10YR3/1黒褐	常滑
292	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(4.0)	-	N7/0灰白	備前
293	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(4.9)	-	5YR5/2灰褐	備前
294	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(5.7)	-	N6/0灰	備前
295	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(5.9)	-	N5/0灰	備前
296	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(13.8)	37.6	5YR3/2暗赤褐	備前
297	焼締陶器	甕	土坑2209	-	(16.3)	37.4	7.5Y5/1灰	備前
298	土師器	ⅢN	土坑2036	7.6	1.7		7.5YR7/6橙	
299	土師器	ⅢSh	土坑2036	6.6	1.6		7.5YR8/2灰白	
300	土師器	ⅢSh	土坑2036	6.8	2.0		7.5YR8/3浅黄橙	
301	土師器	ⅢSh	土坑2036	6.9	1.8		7.5YR8/4浅黄橙	
302	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.0	1.9		10YR8/2灰白	
303	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.0	1.7		7.5YR8/4浅黄橙	
304	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.1	1.6		7.5YR8/4浅黄橙	
305	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.1	1.8		10YR8/2灰白	
306	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.2	1.9		2.5Y8/2灰白	
307	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.3	1.7		10YR8/2灰白	
308	土師器	ⅢSh	土坑2036	7.4	2.0		7.5YR8/4浅黄橙	
309	土師器	ⅢS	土坑2036	8.2	2.3		2.5Y8/2灰白	
310	土師器	ⅢS	土坑2036	8.3	2.4		2.5Y8/2灰白	
311	土師器	ⅢS	土坑2036	8.4	2.3		10YR8/2灰白	
312	土師器	ⅢS	土坑2036	8.4	2.4		7.5YR8/2浅黄橙	
313	土師器	ⅢS	土坑2036	8.5	2.3		10YR8/2灰白	
314	土師器	ⅢS	土坑2036	8.7	2.5		7.5YR8/4浅黄橙	
315	土師器	ⅢS	土坑2036	12.0	2.9		10YR8/2灰白	
316	土師器	ⅢS	土坑2036	12.1	2.9		7.5YR8/2灰白	
317	土師器	ⅢS	土坑2036	12.2	3.3		2.5Y8/1灰白	
318	土師器	ⅢS	土坑2036	12.3	2.7		10YR8/1灰白	
319	土師器	ⅢS	土坑2036	12.4	3.0		7.5YR8/3浅黄橙	
320	土師器	ⅢS	土坑2036	12.4	2.8		7.5YR8/4浅黄橙	
321	土師器	ⅢS	土坑2036	12.5	2.9		10YR8/2灰白	
322	土師器	ⅢS	土坑2036	12.5	3.0		7.5YR8/4浅黄橙	
323	土師器	ⅢS	土坑2036	12.6	2.8		7.5YR8/3浅黄橙	
324	土師器	ⅢS	土坑2036	12.7	3.0		10YR8/2灰白	
325	土師器	ⅢS	土坑2036	14.3	2.8		7.5YR8/1灰白	
326	土師器	ⅢS	土坑2036	14.5	3.3		7.5YR8/1灰白	
327	土師器	ⅢS	土坑2036	14.7	2.9		10YR8/2灰白	
328	土師器	ⅢS	土坑2036	15.6	3.2		7.5YR8/4浅黄橙	
329	土師器	ⅢS	土坑2036	15.8	3.2		10YR8/2灰白	
330	土師器	ⅢS	土坑2036	15.9	3.1		7.5YR8/4浅黄橙	
331	土師器	ⅢS	土坑2036	16.0	3.0		7.5YR8/4浅黄橙	
332	土師器	ⅢS	土坑2036	16.0	3.1		7.5YR8/3浅黄橙	
333	土師器	ⅢS	土坑2036	16.1	3.1		7.5YR8/4浅黄橙	
334	土師器	ⅢS	土坑2036	16.2	3.5		7.5YR8/3浅黄橙	

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
335	土師器	皿S	土坑2036	16.3	3.3		7.5YR8/3浅黄橙	
336	土師器	皿S	土坑2036	16.5	3.1		7.5YR8/4浅黄橙	
337	土師器	皿S	土坑2036	16.6	3.2		7.5YR8/2灰白	
338	土師器	皿S	土坑2036	19.5	(3.7)		10YR8/2灰白	
339	土師器	皿S	土坑2036	19.8	(3.8)		7.5YR8/2灰白	
340	土師器	皿S	土坑2036	19.6	3.7		7.5YR8/1灰白	
341	土師器	皿Sh	土坑2204	6.4	1.7	-	10YR8/3浅黄橙	
342	土師器	皿Sh	土坑2204	7.0	1.8	-	2.5Y8/3淡黄	
343	土師器	皿S	土坑2204	8.4	2.2	-	10YR8/3浅黄橙	
344	土師器	皿S	土坑2204	11.4	2.6	-	10YR8/3浅黄橙	
345	土師器	皿S	土坑2204	11.8	2.9	-	7.5YR8/3浅黄橙	
346	施釉陶器	皿	土坑2204	10.5	2.7	5.9	釉)7.5Y4/3暗オリーブ 胎土)5Y8/1灰白	瀬戸
347	瓦器	羽釜	土坑2204	16.3	9.9	-	2.5Y8/1灰白	内面ハケメ密
348	瓦器	羽釜	土坑2204	17.0	(10.0)	-	2.5Y4/1黄灰	内面ハケメ
349	瓦器	羽釜	土坑2204	20.0	12.1	-	2.5Y7/2灰黄	内面ハケメ密
350	瓦器	羽釜	土坑2204	23.8	(14.7)	-	内)2.5Y7/2灰黄 外)2.5Y2/1黒	内面ハケメ密
351	土師器	皿S	土坑2190	8.5	1.7	-	10YR8/2灰白	
352	土師器	皿	土坑2190	13.0	1.9	-	2.5Y8/2灰白	
353	輸入青磁	皿	土坑2190	11.0	2.3	4.0	釉)明緑色 胎土)2.5Y7/1灰白	同安窯
354	土師器	皿N	土坑1017	5.5	1.2	-	10YR7/3にぶい黄橙	
355	土師器	皿Sb	土坑1017	9.7	2.2	-	10YR8/4浅黄橙	口縁部スス付着
356	土師器	皿S	土坑1017	10.8	2.1	-	7.5YR8/4浅黄橙	口縁部スス付着
357	土師器	皿S	土坑1017	12.5	2.1	-	10YR8/3浅黄橙	
358	土師器	皿S	土坑1017	16.6	2.7	-	10YR8/3浅黄橙	
359	土師器	皿S	土坑1017	18.0	2.8	-	7.5YR8/4浅黄橙	
360	土師器	皿	土坑1017	8.5	2.5	-	2.5Y8/2灰白	片口、内面に播目
361	土師器	小壺	土坑1017	2.2	2.7	2.0	2.5Y7/2灰黄	
362	施釉陶器	皿	土坑1017	11.4	2.8	5.0	釉)5Y7/2灰白 胎土)2.5Y7/1灰白	唐津 内面に目跡
363	施釉陶器	皿	土坑1017	12.0	3.6	4.8	釉)7.5Y6/2灰オリーブ 胎土)2.5Y6/1黄灰	唐津 内面に目跡
364	施釉陶器	皿	土坑1017	12.3	3.8	5.4	釉)5Y6/2灰オリーブ 胎土)10Y8/4浅黄橙	唐津 内面に目跡
365	施釉陶器	皿	土坑1017	13.0	4.1	4.5	釉)5Y7/2灰白 胎土)5Y8/1灰白	唐津 内面に目跡
366	施釉陶器	皿	土坑1017	-	(2.2)	4.9	釉)10YR6/2灰黄褐 胎土)10YR7/3にぶい黄橙	絵唐津 草花文
367	施釉陶器	天目椀	土坑1017	10.8	6.6	4.0	釉)10YR2/1黒 胎土)2.5Y8/1灰白	美濃
368	施釉陶器	椀	土坑1017	10.9	6.3	3.7	釉)10YR3/2黒褐 胎土)2.5Y6/2灰黄	美濃
369	施釉陶器	椀	土坑1017	11.2	8.2	3.9	釉)2.5Y3/2黒褐 胎土)2.5Y8/2灰白	美濃
370	施釉陶器	壺	土坑1017	-	(4.0)、 (12.7)	-	釉)文様10YR5/1褐灰、全体透明、上方:緑胎土)2.5Y8/3淡黄	織部?
371	土師器	皿	土坑2084	5.0	1.1	-	10YR8/3浅黄橙	
372	土師器	皿S	土坑2084	10.8	2.0	-	7.5YR7/4にぶい橙	
373	土師器	皿S	土坑2084	10.9	1.9	-	7.5YR8/4浅黄橙	
374	土師器	皿	土坑2084	10.9	2.1	-	7.5YR8/3浅黄橙	灯明皿
375	土師器	皿S	土坑2084	11.2	2.1	-	7.5YR8/4浅黄橙	
376	土師器	鉢	土坑2084	10.8	3.6	-	10YR8/3浅黄橙	丸底
377	施釉陶器	皿	土坑2084	10.7	2.8	4.1	釉)7.5Y8/1灰白 胎土)2.5Y6/4にぶい橙	唐津
378	施釉陶器	椀	土坑2084	9.9	6.5	4.5	釉)7.5Y3/2オリーブ黒 胎土)5YR6/4にぶい橙	唐津
379	施釉陶器	天目椀	土坑2084	10.8	6.0	4.2	釉)10BG青黒 胎土)2.5Y8/1灰白	美濃
380	焼締陶器	建水	土坑2084	15.0	9.2	16.6	5YR6/3にぶい橙	備前
381	土師器	皿N	土坑2085	5.3	1.1	-	10YR8/3浅黄橙	

No.	器種	器形	遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
382	土師器	皿N	土坑2085	5.6	1.1	—	7.5YR7/4にぶい橙	
383	土師器	皿S	土坑2085	11.0	2.3	—	10YR8/2灰白	内外面被熱 内面スス付着
384	土師器	塩壺	土坑2085	3.5	7.3	4.0	7.5YR7/4にぶい橙	
385	施釉陶器	甕	土坑2085	13.5	19.8	14.0	釉)10YR3/1黒褐 胎土)5Y8/1灰白	内面鉄釉
386	焼締陶器	播鉢	土坑2085	35.0	14.0	13.4	5YR3/3暗赤褐	丹波 自然釉付着 播目6本
387	焼締陶器	播鉢	土坑2085	33.6	14.4	14.3	5YR4/3にぶい赤褐	備前 片口、播目6本
388	土師器	皿N	土坑1001	5.1	1.0		5YR6/6橙	灯明皿
389	土師器	皿N	土坑1001	5.2	1.3		7.5YR7/4にぶい橙	
390	土師器	皿N	土坑1001	5.4	1.4		10YR87/4にぶい黄橙	灯明皿
391	土師器	皿N	土坑1001	5.5	1.2		10YR87/4にぶい黄橙	灯明皿
392	土師器	皿N	土坑1001	5.9	0.8		10YR8/3浅黄橙	
393	土師器	皿N	土坑1001	6.0	1.1		5YR6/6橙	
394	土師器	皿N	土坑1001	4.2	1.1		5YR6/6橙	
395	土師器	皿Sb	土坑1001	7.6	1.5		7.5YR8/4浅黄橙	
396	土師器	皿Sb	土坑1001	8.0	1.6		7.5YR8/4浅黄橙	灯明皿
397	土師器	皿Sb	土坑1001	8.1	1.5		10YR8/3浅黄橙	灯明皿
398	土師器	皿Sb	土坑1001	8.2	1.5		7.5YR8/4浅黄橙	灯明皿
399	土師器	皿S	土坑1001	9.4	1.7		10YR8/1灰白	
400	土師器	皿S	土坑1001	9.5	1.7		5YR7/6橙	
401	土師器	皿S	土坑1001	9.6	2.0		7.5YR8/3浅黄橙	
402	土師器	皿S	土坑1001	10.0	1.9		7.5YR8/4浅黄橙	
403	土師器	皿S	土坑1001	10.1	1.9		10YR8/3浅黄橙	
404	土師器	皿S	土坑1001	10.2	2.0		10YR8/3浅黄橙	
405	土師器	皿S	土坑1001	10.3	1.8		7.5YR8/4浅黄橙	灯明皿
406	土師器	皿S	土坑1001	10.4	1.9		10YR8/3浅黄橙	灯明皿
407	土師器	皿S	土坑1001	10.5	2.0		7.5YR8/3灰白	
408	土師器	皿S	土坑1001	10.6	1.9		10YR8/3浅黄橙	灯明皿
409	土師器	皿S	土坑1001	10.7	2.0		2.5Y8/2灰白	
410	土師器	皿S	土坑1001	12.2	2.0		7.5YR8/2灰白	
411	土師器	塩壺	土坑1001	5.3	7.4	5.5	5YR7/6橙	
412	施釉陶器	灯明皿受	土坑1001	9.0	1.3	—	釉)2.5Y8/3淡黄 胎土)10YR8/2灰白	
413	施釉陶器	灯明皿受	土坑1001	11.8	2.1	—	釉)5YR4/8赤褐 胎土)7.5YR6/3にぶい褐	被熱により釉剥離 軟質
414	施釉陶器	灯火具	土坑1001	3.5	4.3	2.6	釉)5YR4/8赤褐 胎土)5YR7/4にぶい橙	内面付着物(灰か) 軟質
415	施釉陶器	灯火具	土坑1001	5.8	6.4	4.0	釉)5YR4/8赤褐 胎土)5YR6/4にぶい橙	軟質
464	染付	椀	土坑2097	12.1	5.0	4.4	胎土)N8/0灰白	肥前 蛇ノ目釉剥ぎ 見込に五花卉
465	染付	小杯	土坑2097	7.0	5.0	3.4	胎土)N8/0灰白	肥前 筒型
466	染付	椀	土坑2097	6.8	5.4	3.3	胎土)N8/0灰白	肥前 筒型
467	染付	椀	土坑2097	7.8	6.0	4.0	胎土)N8/0灰白	肥前 筒型菊文
468	施釉陶器	灯明皿	土坑2097	11.4	2.2	4.6	釉)7.5Y7/2灰白 胎土)N8/0灰白	京、信楽
469	施釉陶器	椀	土坑2097	9.6	6.2	4.3	釉)5Y8/2灰白 胎土)5Y8/1灰白	京、信楽
470	施釉陶器	片口鉢	土坑2097	22.0	10.5	13.7	釉)2.5Y8/2灰白 胎土)2.5Y8/2灰白	京、信楽 外面にススの付着がないため鉢とした
471	施釉陶器	土瓶	土坑2097	10.5	15.5	10.1	釉)7.5YR2/2黒褐 胎土)5YR5/6明赤褐	京、信楽 刻印あり 鉄釉
472	焼締陶器	鉢	土坑2097	10.9	6.5	11.3	5YR4/3にぶい赤褐	備前 匣鉢形

表4 土製品一覧表

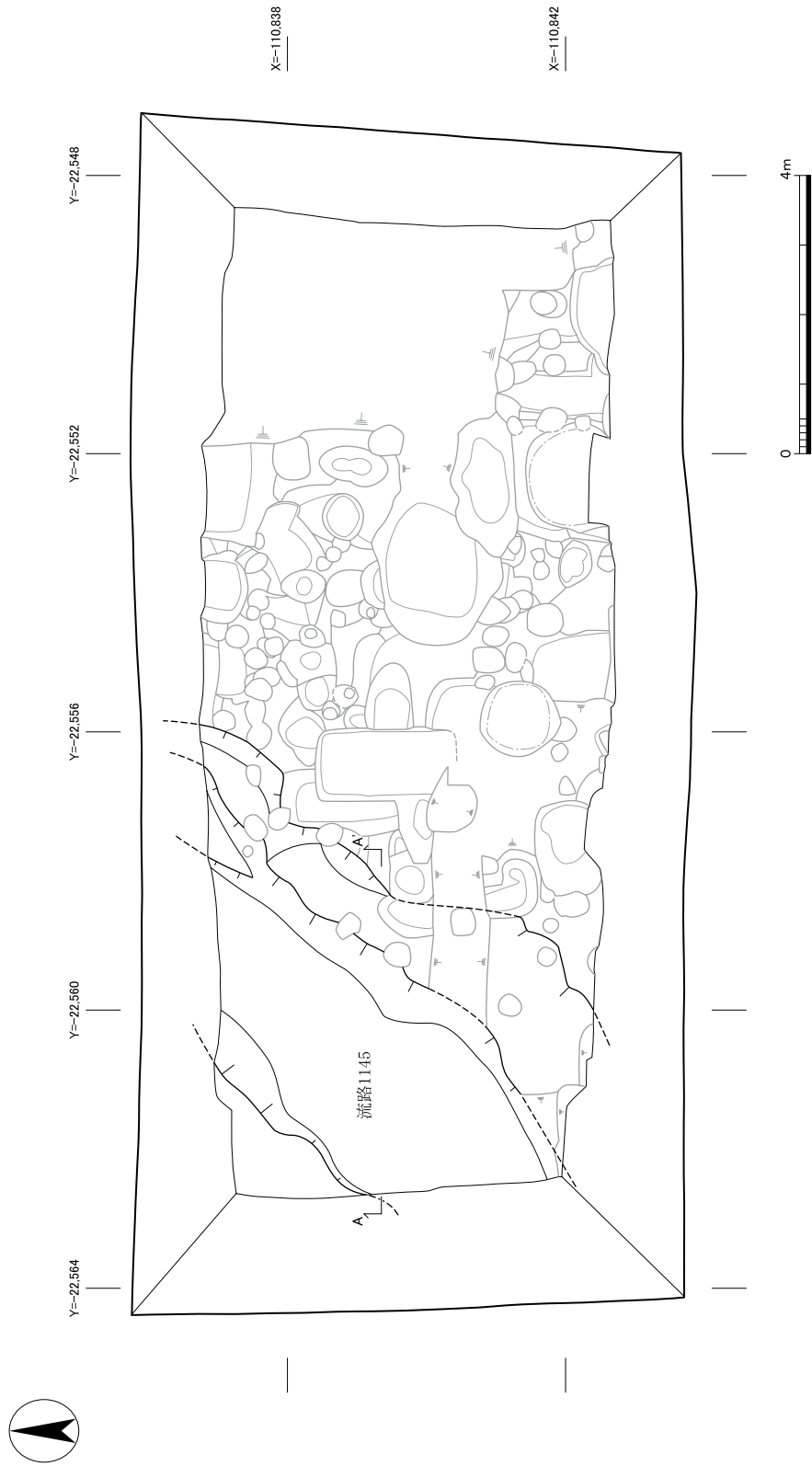
No.	名称	形態	遺構	幅(cm)	高さ(cm)	奥行(cm)	色調	形態	備考
416	土鈴		土坑1001	2.9	3.2	2.8	10YR8/2灰白		銅線付き
417	土鈴		土坑1001	3.0	3.3	2.9	10YR8/3浅黄橙		赤色顔料付着
418	土鈴		土坑1001	5.5	4.7	5.4	2.5Y8/3淡黄		赤色顔料・墨で着色 緑色残る(金属のサビか)
419	土鈴		土坑1001	5.6	5.0	5.6	10YR8/2灰白		赤色顔料・墨で着色
420	土人形	ネズミと俵	土坑1001	3.3	3.3	2.7	10YR8/3浅黄橙	型・中実	
421	土人形	大黒様	土坑1001	(4.3)	(6.1)	(3.2)	10YR7/2にぶい黄橙	型・中実	
422	土人形	大黒様	土坑1001	3.6	(4.9)	2.9	7.5YR8/4浅黄橙	型・中実	
423	土人形	御内裏様	土坑1001	3.8	2.1	4.4	5Y8/1灰白	型・中実	釉)7.5Y8/3淡黄 明緑色 施釉
424	土人形	狐	土坑1001	(2.6)	(3.4)	(0.8)	7.5YR7/4にぶい黄橙	型・中実	朱で彩色 尾先宝珠 左向き 大きさは最小
425	土人形	狐	土坑1001	(4.4)	(7.7)	(2.8)	2.5Y7/2灰黄	型・中実	白色 台座に墨「山形」
426	土人形	狐	土坑1001	(5.2)	(6.1)	(2.9)	10YR8/3浅黄橙	型・中実	頭・尾の先端を欠く 白色 台座に墨「山形」
427	土人形	狐	土坑1001	5.3	8.6	3.6	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	全体にハナレ砂(雲母)付着 巻物をくわえる 右向き
428	土人形	狐	土坑1001	5.9	9.7	3.6	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	耳の内側白で彩色 右向き
429	土人形	狐	土坑1001	5.6	9.3	3.4	7.5YR6/4にぶい橙	型・中空	尾先白で彩色 台座に墨で「山形」 左向き
430	土人形	狐	土坑1001	(8.0)	(13.5)	(5.0)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	眉を墨書 巻物(中心の穴が貫通) 右向き
431	土人形	狐	土坑1001	8.0	13.8	5.6	7.5YR6/4にぶい橙	型・中空	白色 玉をくわえる 左向き
432	土人形	狐	土坑1001	(8.5)	15.0	(5.9)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	白色 台座に墨 玉をくわえる 右向き
433	土人形	狐	土坑1001	(8.5)	15.3	(6.1)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	狐赤く彩色か? 台座に墨 口開く 左向き
434	土人形	狐	土坑1001	9.5	16.1	6.0	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	朱で彩色 尾先宝珠 台座四面墨 左向き
435	土人形	狐	土坑1001	(10.7)	18.9	(6.4)	2.5YR6/4にぶい橙	型・中空	台座全体に墨 左向き
436	土人形	狐	土坑1001	(12.9)	(15.2)	(6.1)	5YR7/4にぶい橙	型・中空	朱で彩色 首振れない 巻物をくわえる
437	土人形	狐	土坑1001	(7.8)	(10.2)	(4.7)	10YR8/2灰白	型・中空	台座に墨 胡粉で彩色
438	土人形	狐	土坑1001	(8.5)	(11.1)	(5.3)	5YR6/6橙	型・中空	全体を白く彩色 台座に墨で彩色か?
439	土人形	狐	土坑1001	(8.5)	(11.8)	(6.8)	7.5YR7/2明褐灰	型・中空	胡粉で彩色 玉をくわえる 型合わせは胴部上下 左向き
440	土人形	狐	土坑1001	(15.3)	(17.0)	(7.7)	7YR8/4浅黄橙	型・中空	胡粉で彩色 尾先宝珠 型合わせは胴部上下
441	土人形	狐	土坑1001	6.7	(8.2)	6.6	7.5YR6/4にぶい橙	型・中空	頭部を欠く 台座四脚、墨書あり 尾に毛先を表現
442	土人形	狐	土坑1001	(3.6)	(4.7)	(4.1)	5YR6/4にぶい橙	型・中実	朱で彩色 鍵(銅線)をくわえる
443	土人形	狐	土坑1001	(5.5)	(12.4)	(6.9)	7.5YR7/3にぶい橙	型・中空	白色 鍵(銅線)をくわえる
444	土人形	狐	土坑1001	10.9	19.8	6.4	7.5YR7/3にぶい黄橙	型・中空	白色 尾先 頭部宝珠
445	土人形	狐	土坑1001	11.4	19.6	6.0	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	尾先 頭部宝珠 胡粉で彩色 台座側面に、白で縦線 右向き
446	土人形	狐	土坑1001	(15.1)	(25.2)	(9.5)	5YR6/4にぶい橙	型・中空	胡粉で彩色 玉をくわえる 台座に墨で「山形」 右向き
447	土人形	狐	土坑1001	15.7	(26.0)	9.8	10YR7/4にぶい黄橙	型・中空	胡粉で彩色 玉をくわえる 左向き

No.	名称	形態	遺構	幅(cm)	高さ(cm)	奥行(cm)	色調	形態	備考
448	土人形	狐	土坑1001	(10.1)	(14.5)	(9.0)	7.5YR6/4にぶい橙	型・中空	ハナレ砂(雲母粉)付着 尾先宝珠 台座なし
449	土人形	狐	土坑1001	(19.0)	(29.6)	(9.0)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	頭部宝珠、朱で彩色 胸に朱で宝珠
450	土人形	狐	土坑1001	(14.5)	(16.2)	(6.1)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	台座側面に「桜・菊・梅・菊水文」
451	土人形	狐(台座)	土坑1001	(15.2)	(3.1)	9.4	7.5YR7/4にぶい橙		底部のみ 小判型
452	土人形	狐(台座)	土坑1001	(8.8)	(4.9)	(9.1)	7.5YR8/4浅黄橙		底部のみ 隅丸方形
453	土人形	狐(台座)	土坑1001	14.8	(6.5)	9.2	7.5YR8/3浅黄橙		ハナレ砂(雲母)付着
454	土人形	狐(台座)	土坑1001	11.25	(5.1)	7.8	7.5YR8/4浅黄橙		
455	土人形	大黒様	土坑1002	3.2	4.5	2.1	7.5YR8/2灰白	型・中実	
456	土鈴		土坑1002	5.7	6.5	5.4	7.5YR8/3浅黄橙		
457	土人形	狐	土坑1002	7.2	(12.1)	4.5	5YR7/6橙	型・中空	雲母粉付着 2.5YR4/81赤褐で彩色
458	土人形	狐	土坑1002	8.2	(12.5)	5.0	10YR8/2灰白	型・中空	玉をくわえる 白色 やや右向き 台座に墨
459	土人形	狐	土坑1002	6.9	13.0	5.3	10YR8/4浅黄橙	型・中空	玉をくわえる 白色 台座に墨で「山形」 右向き
460	土人形	狐	土坑1002	9.7	15.4	6.4	10YR7/3にぶい黄橙	型・中空	10R5/8赤で着色 玉をくわえる 左向き
461	土人形	狐	土坑1002	(4.1)	(5.7)	(7.4)	10YR8/3浅黄橙	型・中空	頭部のみ 10YR6/6赤橙で彩色 歯を表現
462	土人形	狐	土坑1002	(4.3)	(9.0)	(6.3)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	頭部のみ 白色 宝珠をくわえる
463	土人形	狐	土坑1002	(7.4)	(10.9)	(9.6)	7.5YR7/4にぶい橙	型・中空	頭部のみ 10YR6/8赤橙で彩色 頭部に宝珠

表5 金属製品・石製品一覧表

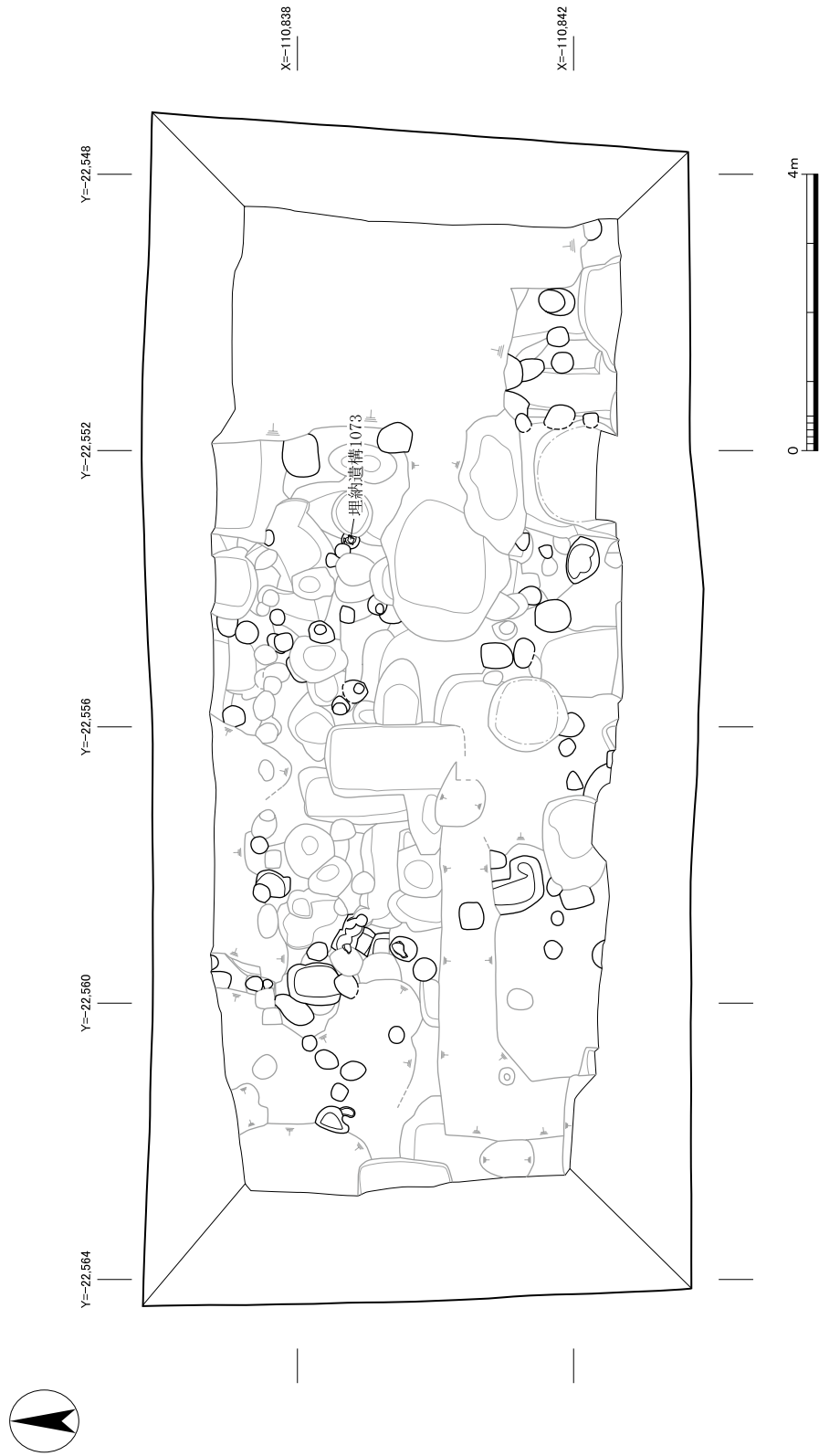
No.	種類	名称	遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
金1	金属製品	刀子	埋納遺構2428	(19.4)	1.6		
金2	金属製品	刀子	地下室2123 下層	20.8	2.1		
石1	石製品	硯	2区第5期 遺構検出中	(6.5)	5.0	1.5	粘板岩製
石2	石製品	硯	土坑2084	(10.4)	6.7	1.1	粘板岩製

圖 版

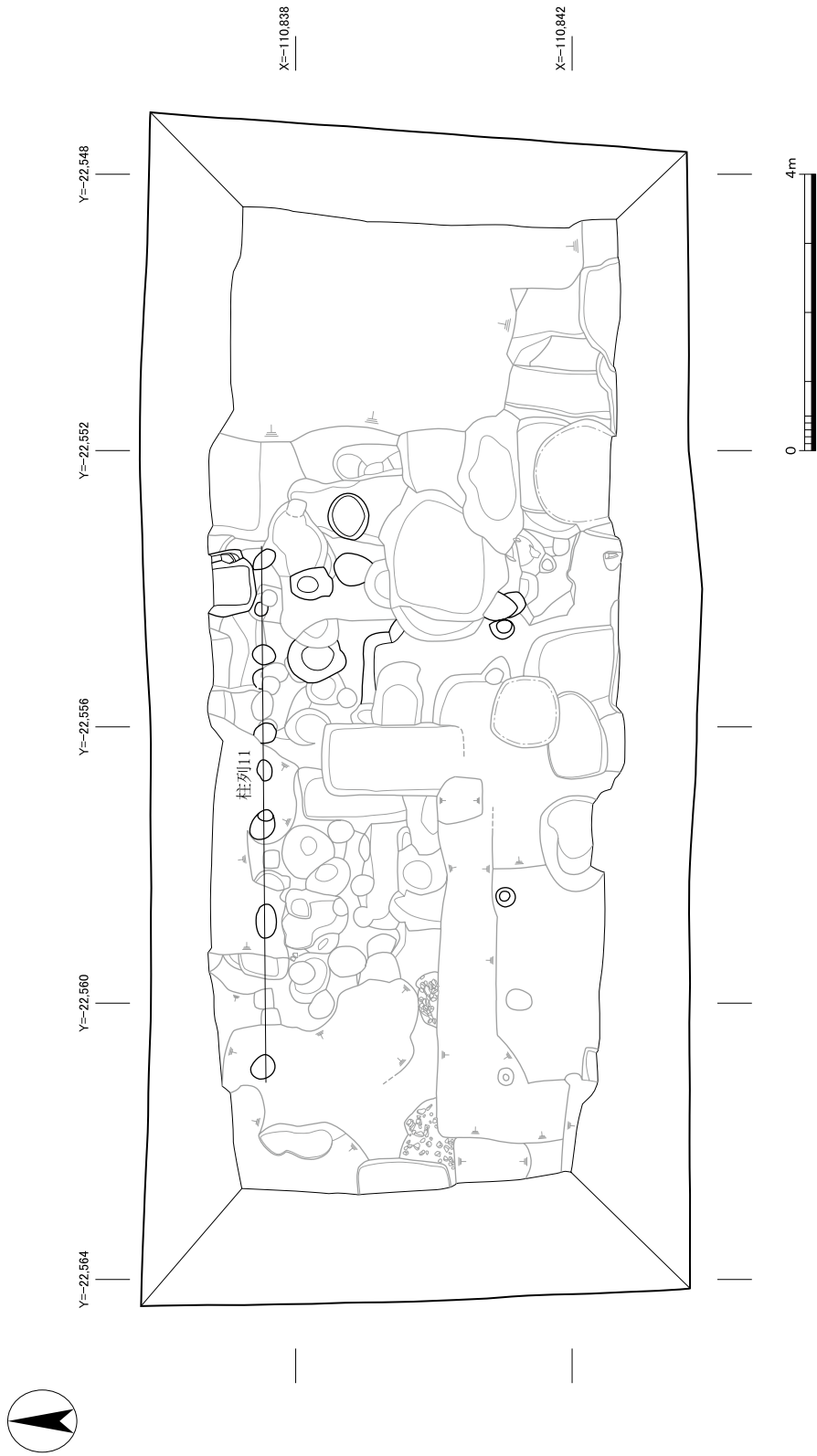


1区第1期平面图 (1:100)

図版2
遺構

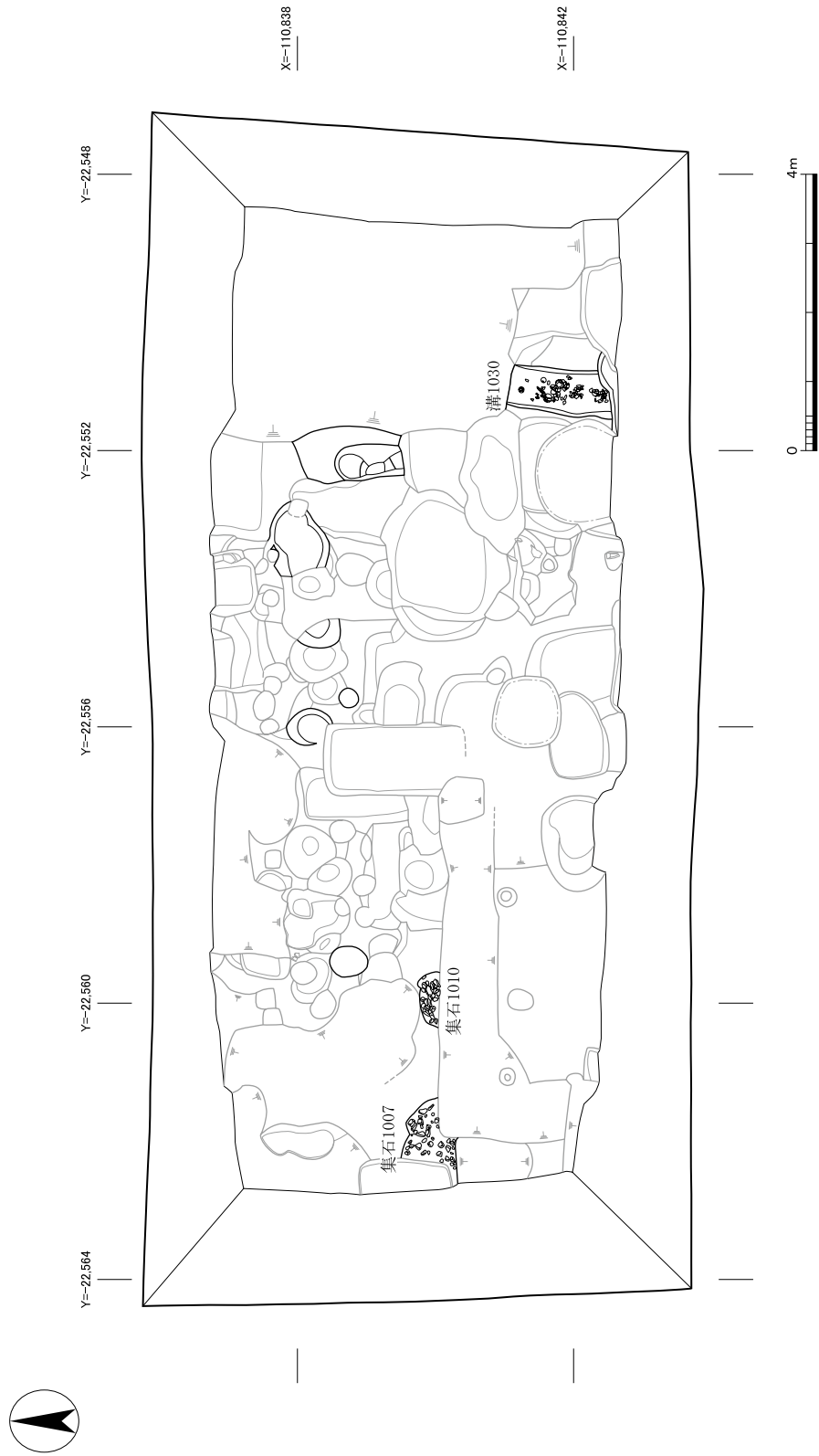


1区第2期平面図 (1 : 100)

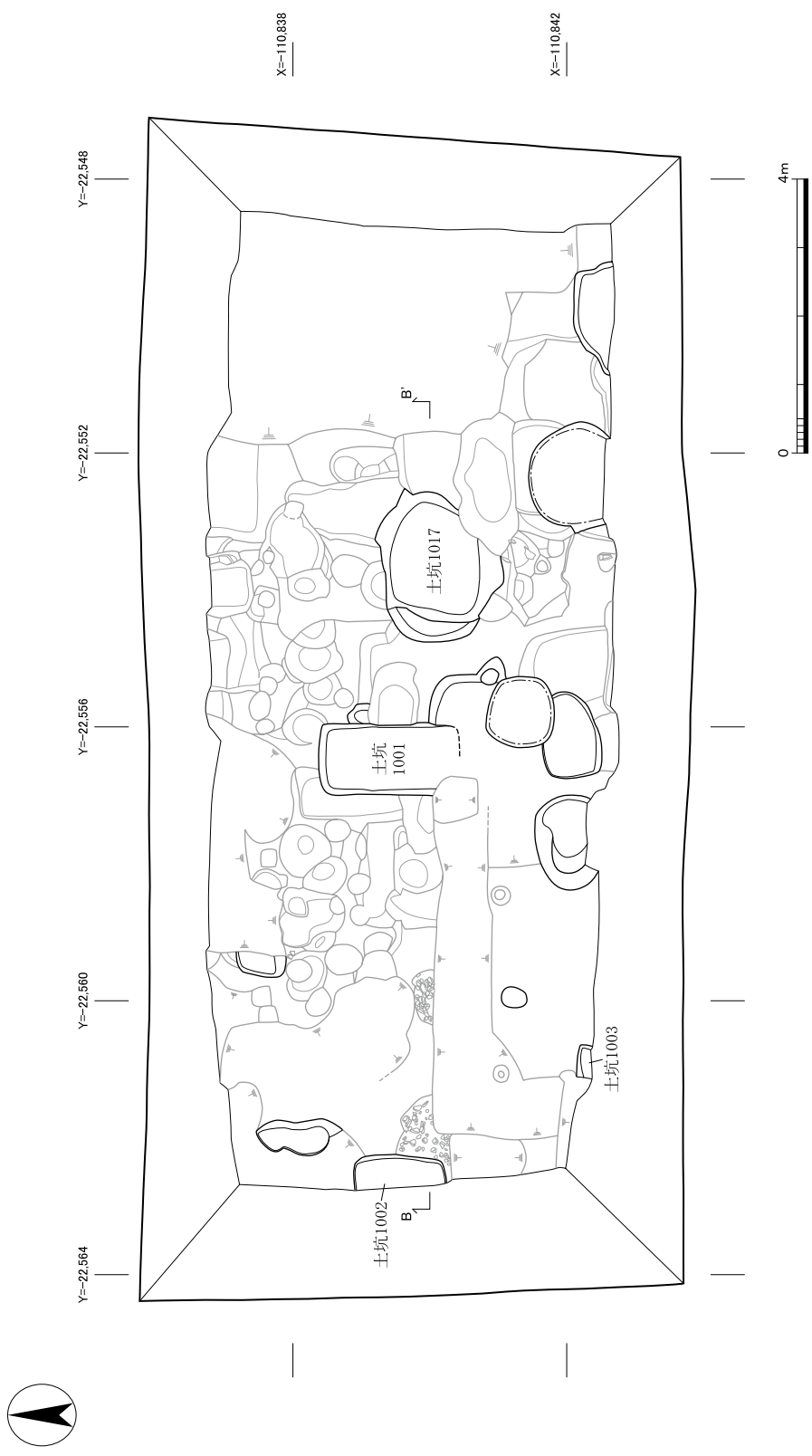


1区第3期平面图 (1 : 100)

図版4
遺構

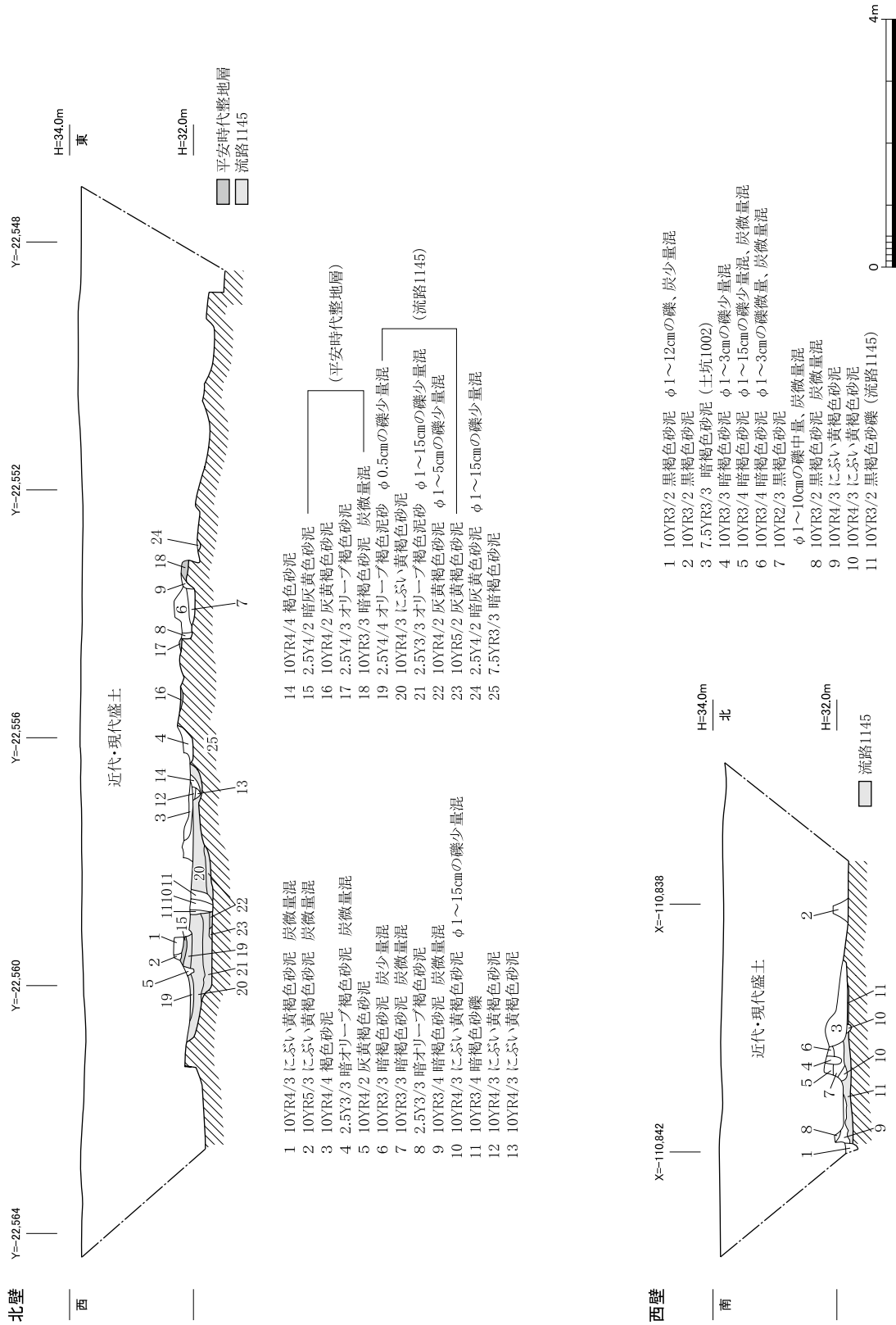


1区第4期平面図(1:100)

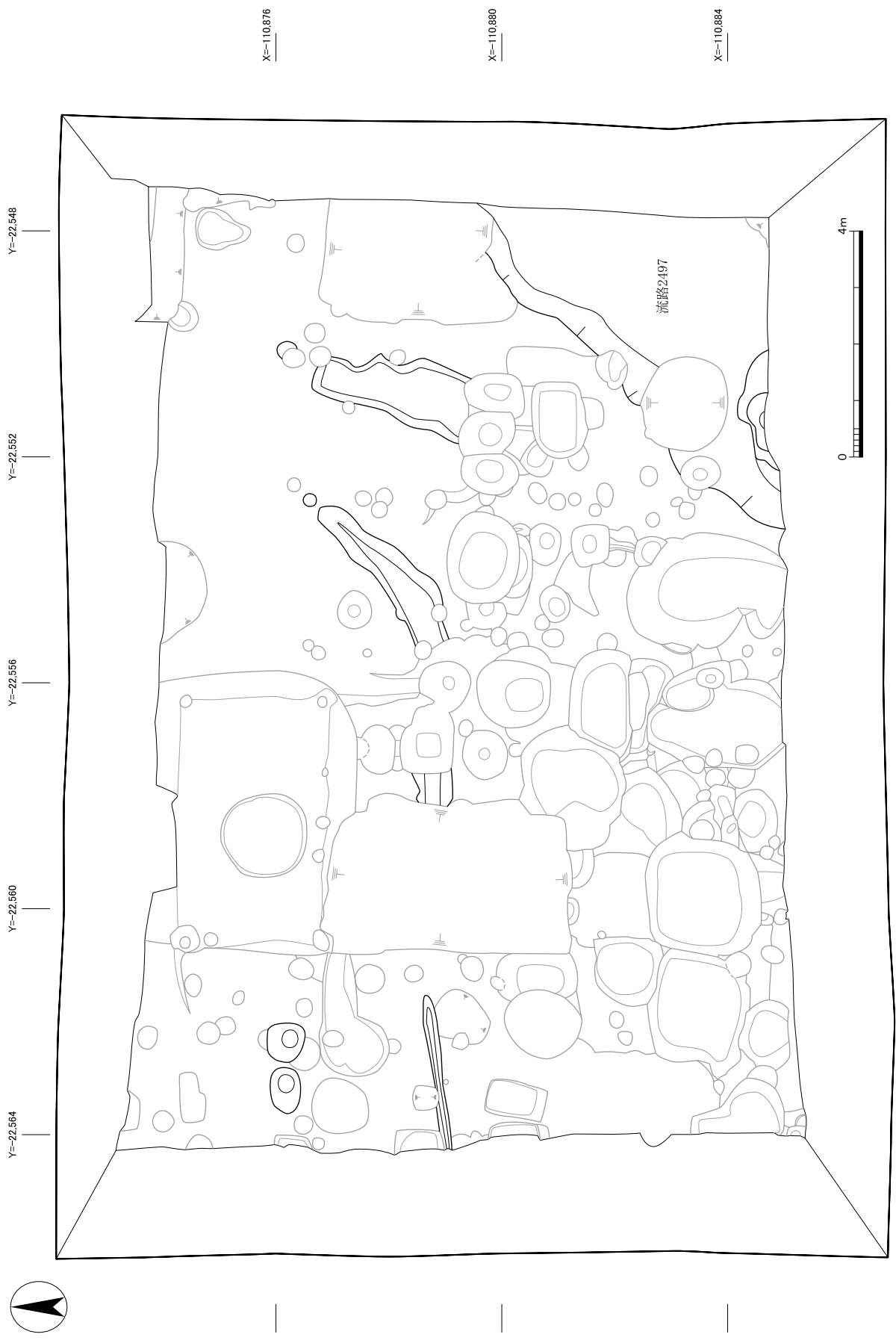


1区第5期平面图 (1:100)

図版6
遺構

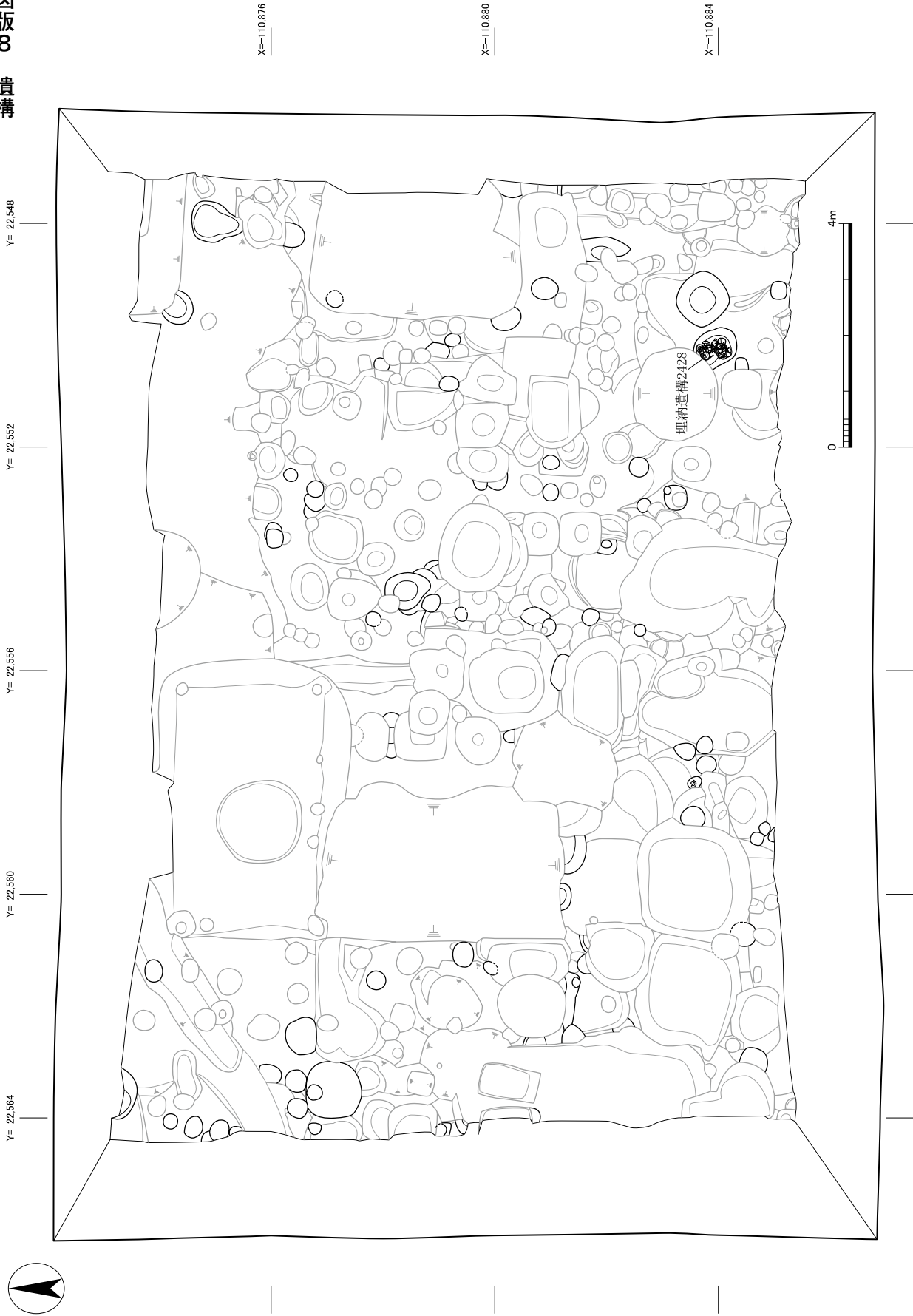


1区北壁・西壁断面図(1:100)

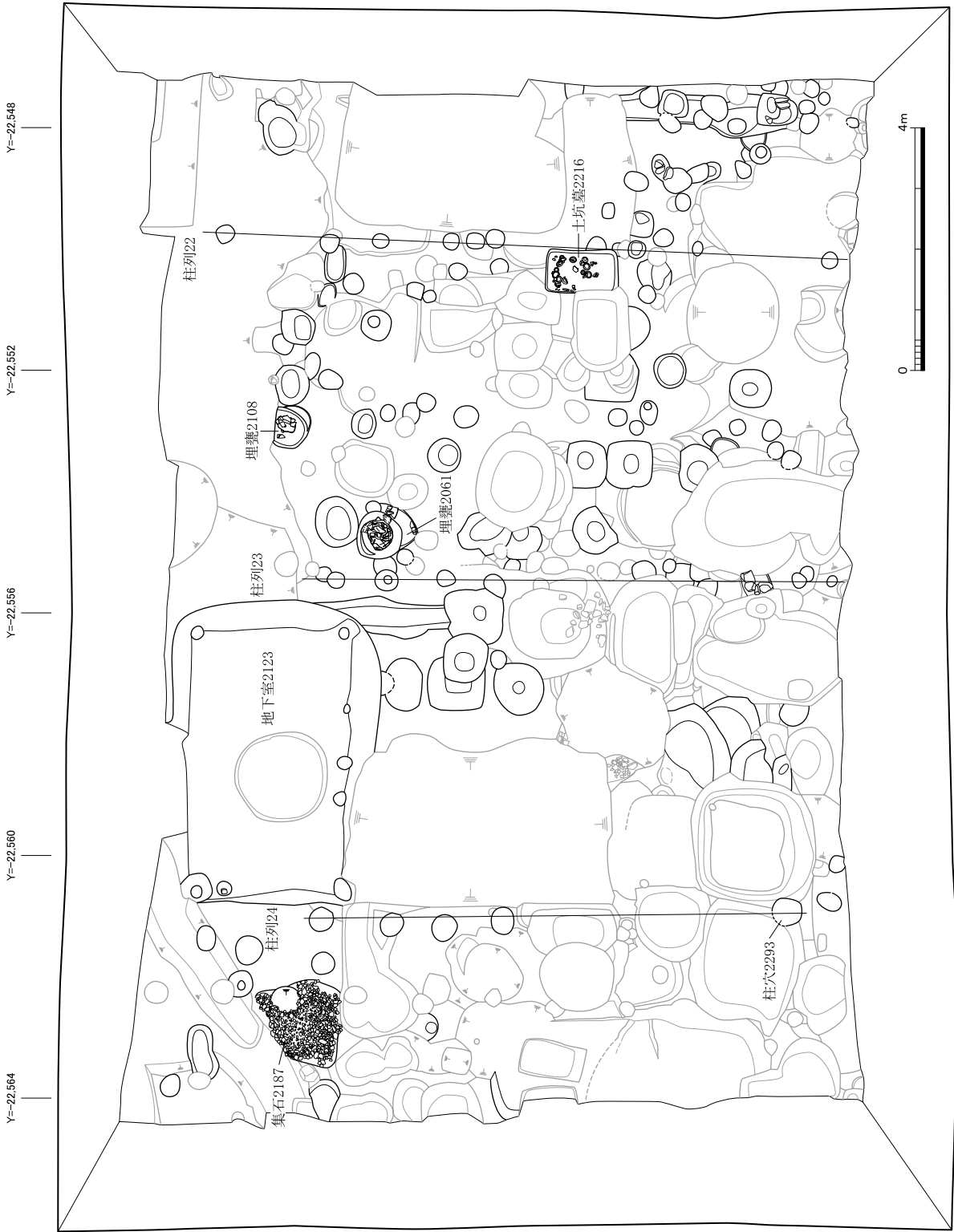


2区第1期平面图 (1 : 100)

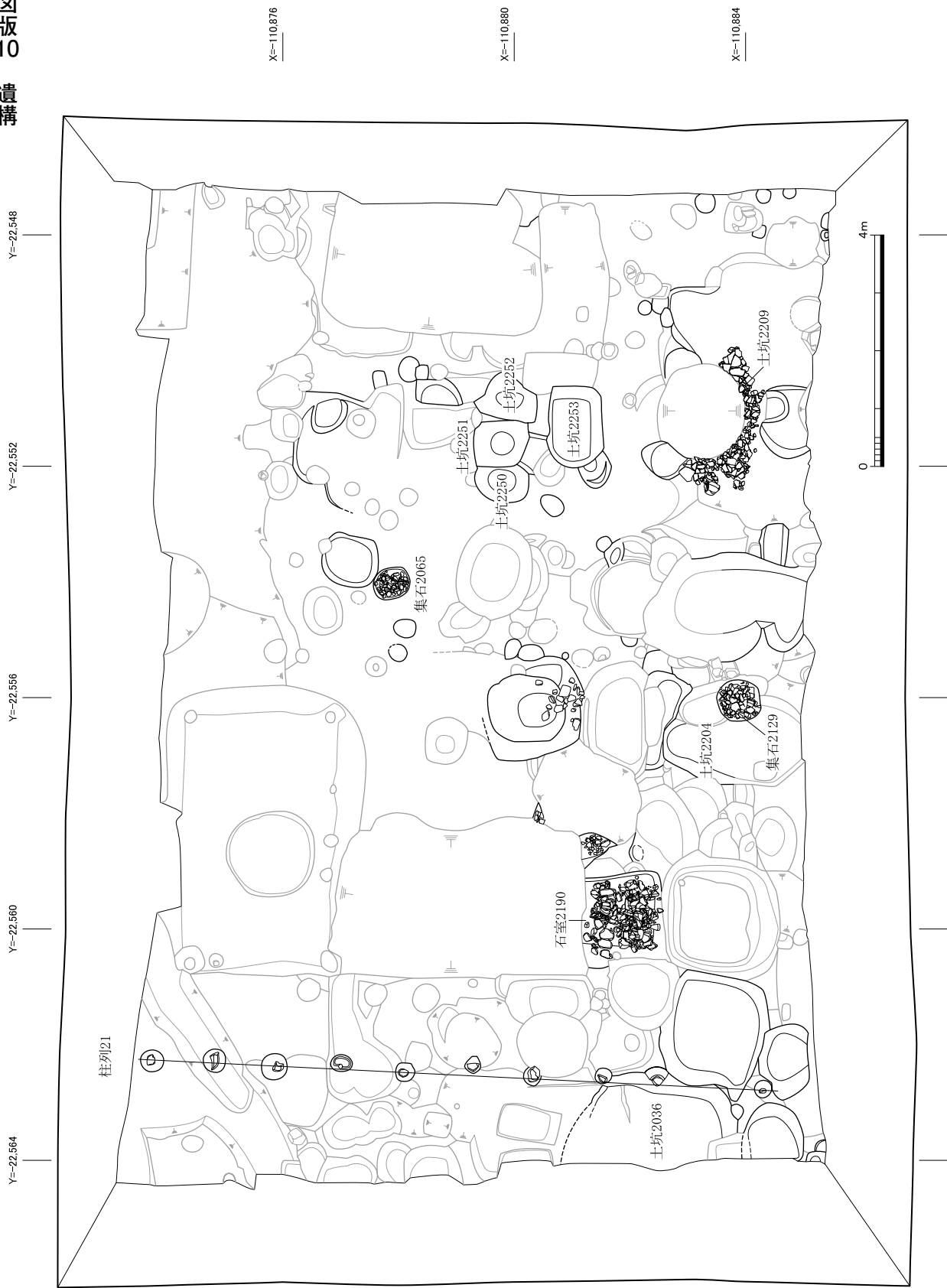
図版 8
遺構



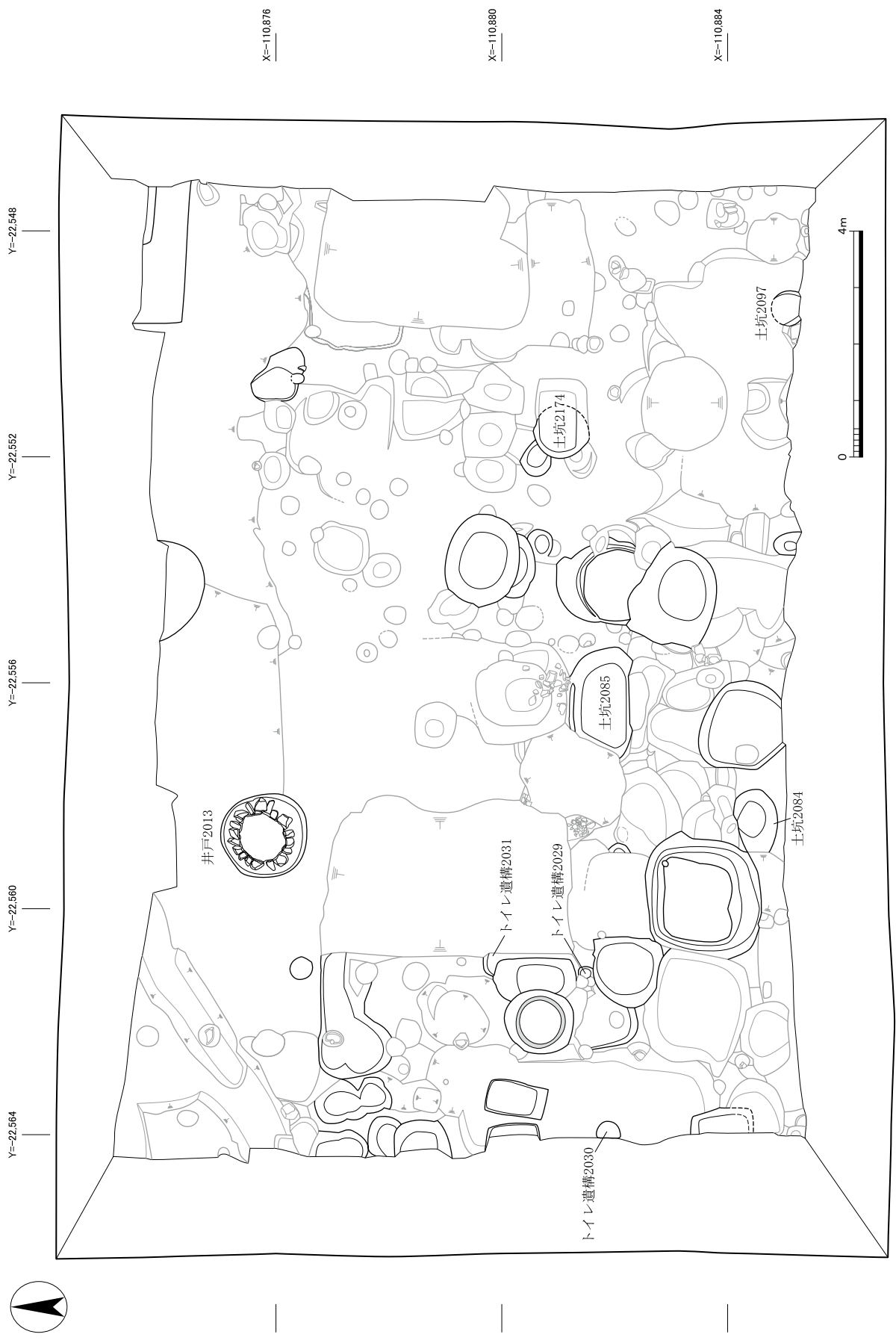
2区第2期平面図 (1 : 100)



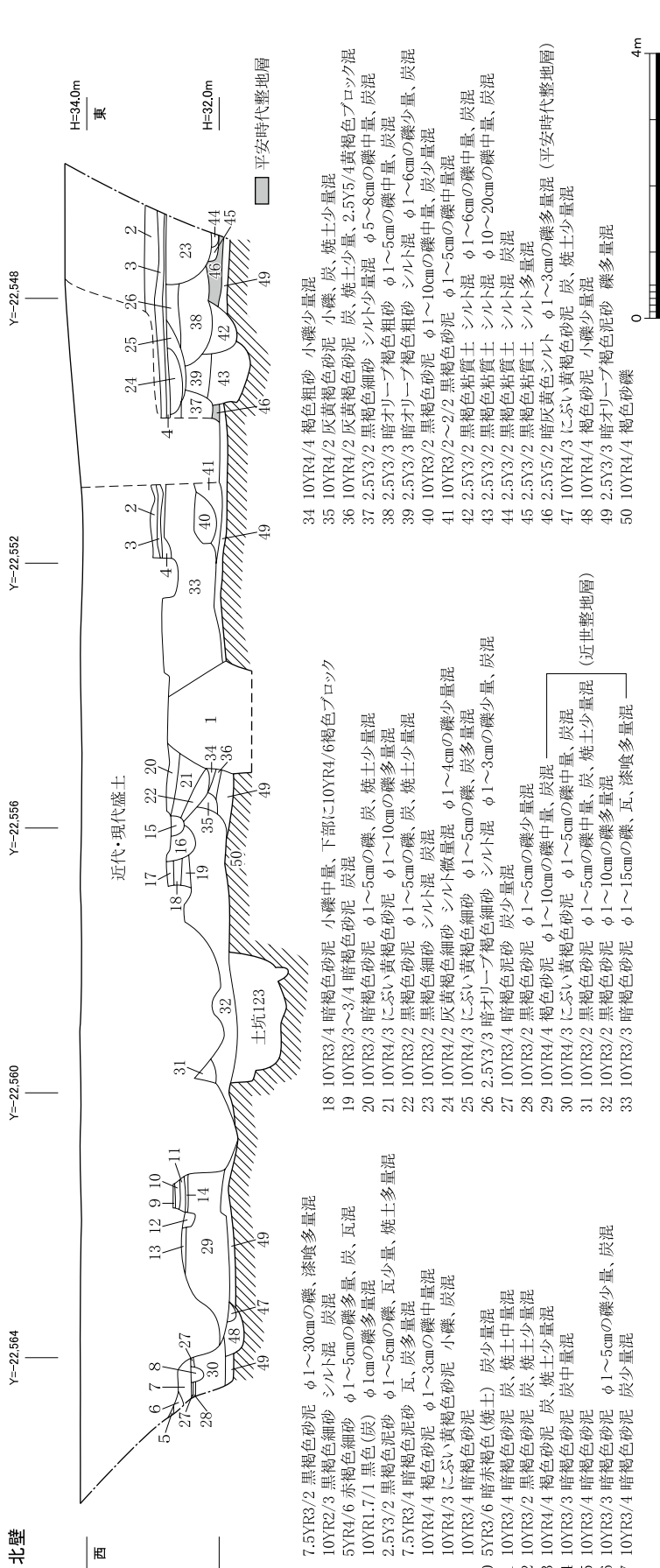
2区第3期平面图 (1 : 100)



2区第4期平面图 (1 : 100)



2区第5期平面图 (1 : 100)

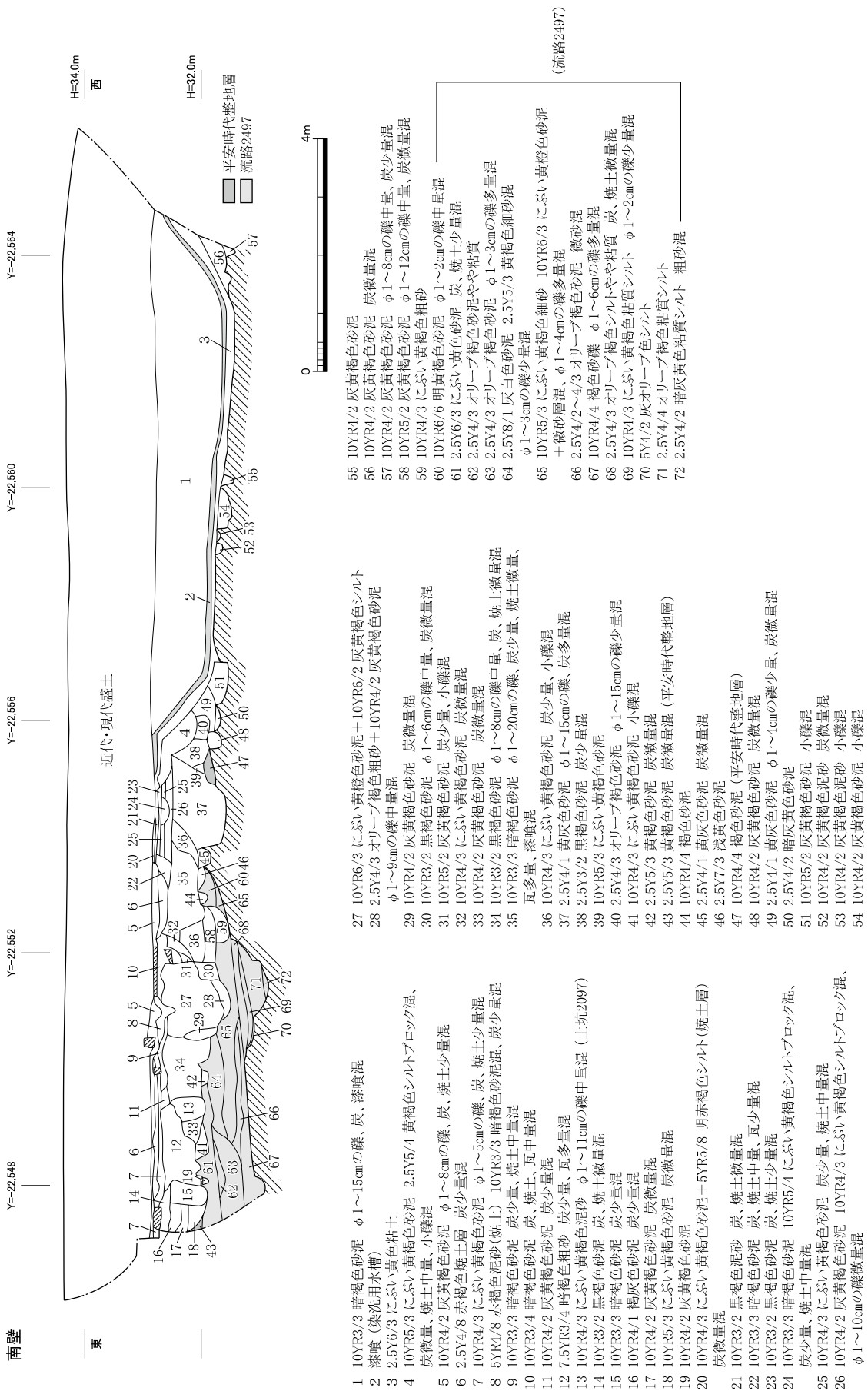


北壁

東壁

- 近代・現代盛土
- 平安時代整地層
- 流路2497
- 0 4m
- H=34.0m 南
- H=32.0m
- 近代・現代盛土
- 1 7.5YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~30cmの礫、漆喰多量混
- 2 10YR2/3 黒褐色細砂 シルト混 炭混
- 3 5YR4/6 赤褐色細砂 φ1~5cmの礫多量、炭、瓦混
- 4 10YR1.7/1 黒色(炭) φ1cmの礫多量混
- 5 2.5Y3/2 黒褐色細砂 φ1~5cmの礫、瓦少量、焼土多量混
- 6 7.5YR3/4 暗褐色細砂 瓦、炭多量混
- 7 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~3cmの礫中量混
- 8 10YR4/3 赤褐色(焼土) 炭少量混
- 9 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 10 5YR3/6 暗赤褐色(焼土) 炭少量混
- 11 10YR3/4 黒褐色砂泥 炭、焼土中量混
- 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 13 10YR4/4 褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 14 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭中量混
- 15 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 16 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~5cmの礫少量、炭混
- 17 10YR3/4 暗褐色砂泥 炭少量混
- 18 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~8cmの礫、炭少量混
- 19 2.5Y6/2 灰黄色砂泥 炭少量、小礫混
- 20 2.5YR5/3 黄褐色砂泥 炭少量、小礫混
- 21 10YR5/2 灰黄色砂泥 φ1~4cmの礫少量、炭微量混
- 22 2.5Y7/3 黄褐色砂泥
- 23 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量、小礫混
- 24 2.5YR5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 25 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 26 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 27 2.5YR5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 28 2.5Y6/3 黄褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 29 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂 φ1~2cmの礫多量混
- 30 2.5Y6/2 灰黄色シルト
- 31 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 φ1~3cmの礫多量混
- 32 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 上部に2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂混
- 33 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 φ1~5cmの礫多量混
- 34 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~6cmの礫多量混
- 18 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~20cmの礫、焼土、瓦多量、漆喰混
- 2 10YR5/4 赤褐色砂泥 炭、焼土中量混
- 3 10YR4/3 赤褐色砂泥 φ1~5cmの礫、炭少量混
- 4 10YR4/3 赤褐色砂泥 φ1~4cmの礫少量、炭微量混
- 5 10YR4/3 赤褐色砂泥 φ1~8cmの礫、炭少量、10YR6/3 赤褐色砂泥 炭微量混
- 6 10YR4/2 灰黄色砂泥 炭微量混
- 7 10YR4/1 灰黄色砂泥 φ1~15cmの礫、瓦少量、炭中量混
- 8 10YR5/2 灰黄色砂泥 φ1~5cmの礫、炭混
- 9 10YR4/2 灰黄色砂泥 炭混
- 10 10YR6/1 灰黄色砂泥 φ1~5cmの礫少量、炭微量混
- 11 10YR4/2 灰黄色砂泥 炭微量、小礫混
- 12 10YR4/3 赤褐色砂泥 炭微量混
- 13 10YR5/1 灰黄色砂泥 φ1~4cmの礫少量、炭微量混
- 14 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ1~15cmの礫少量、炭微量混
- 15 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥 炭中量混
- 16 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 炭微量混
- 17 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 34 10YR4/4 褐色粗砂 小礫少量混
- 35 10YR4/2 灰黄色砂泥 小礫、炭、焼土少量混
- 36 10YR4/2 灰黄色砂泥 炭、焼土少量、2.5Y5/4 黄褐色砂泥、炭混
- 37 2.5Y3/2 黒褐色細砂 シルト少量混 φ5~8cmの礫中量、炭混
- 38 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂 φ1~5cmの礫中量、炭混
- 39 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粗砂 シルト混 φ1~6cmの礫少量、炭混
- 40 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~10cmの礫中量、炭少量混
- 41 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~5cmの礫中量混
- 42 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 シルト混 φ1~6cmの礫中量、炭混
- 43 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 シルト混 φ10~20cmの礫中量、炭混
- 44 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 シルト混 炭混
- 45 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 シルト多量混
- 46 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト φ1~3cmの礫多量混 (平安時代整地層)
- 47 10YR4/3 赤褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 48 10YR4/4 褐色砂泥 炭少量混
- 49 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 礫多量混
- 50 10YR4/4 褐色砂泥

2区北壁・東壁断面図 (1:100)



2区南壁断面図 (1:100)

- 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~15cmの礫、炭、漆喰混
- 2 漆喰 (染洗用水槽)
- 3 2.5Y6/3 にぶい、黄褐色粘土
- 4 10YR5/3 にぶい、黄褐色砂泥 2.5Y5/4 黄褐色シルトブロック混、炭微量、焼土中量、小礫混
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1~8cmの礫、炭、焼土少量混
- 6 2.5Y4/8 赤褐色焼土層 炭少量混
- 7 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 φ1~5cmの礫、炭、焼土少量混
- 8 5YR4/8 赤褐色砂泥 (焼土) 10YR3/3 暗褐色砂泥混、炭少量混
- 9 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭少量、焼土中量混
- 10 10YR3/4 暗褐色砂泥 炭、焼土、瓦中量混
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭少量混
- 12 7.5YR3/4 暗褐色砂泥 炭少量、瓦多量混
- 13 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 φ1~11cmの礫中量混 (土坑2097)
- 14 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、焼土微量混
- 15 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭少量混
- 16 10YR4/1 褐色砂泥 炭少量混
- 17 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 18 10YR5/3 にぶい、黄褐色砂泥 炭微量混
- 19 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 20 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥+5YR5/8 明赤褐色シルト(焼土層) 炭微量混
- 21 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、焼土微量混
- 22 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭、焼土中量、瓦少量混
- 23 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 24 10YR3/3 暗褐色砂泥 10YR5/4 にぶい、黄褐色シルトブロック混、炭少量、焼土中量混
- 25 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 炭少量、焼土中量混
- 26 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 10YR4/3 にぶい、黄褐色シルトブロック混、φ1~10cmの礫微量混
- 27 10YR6/3 にぶい、黄褐色砂泥+10YR6/2 灰黄褐色シルト φ1~9cmの礫中量混
- 28 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂+10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 29 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 30 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~6cmの礫中量、炭微量混
- 31 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 炭少量、小礫混
- 32 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 炭微量混
- 33 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 34 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~20cmの礫中量、炭、焼土微量混
- 35 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ1~20cmの礫、炭少量、焼土微量、瓦多量、漆喰混
- 36 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 炭少量、小礫混
- 37 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 φ1~15cmの礫、炭多量混
- 38 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 炭少量混
- 39 10YR5/3 にぶい、黄褐色砂泥
- 40 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 φ1~15cmの礫少量混
- 41 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂泥 小礫混
- 42 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量混
- 43 2.5Y5/3 黄褐色砂泥 炭微量混 (平安時代整地層)
- 44 10YR4/4 褐色砂泥 炭微量混
- 45 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 炭微量混
- 46 2.5Y7/3 浅黄色砂泥
- 47 10YR4/4 褐色砂泥 (平安時代整地層)
- 48 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 49 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 φ1~4cmの礫少量、炭微量混
- 50 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 51 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 小礫混
- 52 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 53 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 小礫混
- 54 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 55 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭微量混
- 56 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 φ1~8cmの礫中量、炭少量混
- 57 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 φ1~12cmの礫中量、炭微量混
- 58 10YR4/3 にぶい、黄褐色粗砂
- 59 10YR6/6 明黄褐色砂泥 φ1~2cmの礫中量混
- 60 10YR6/3 にぶい、黄褐色砂泥 炭、焼土少量混
- 61 2.5Y6/3 オリーブ褐色砂泥 やや粘質
- 62 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 やや粘質
- 63 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥 φ1~3cmの礫多量混
- 64 2.5Y8/1 灰白色砂泥 2.5Y5/3 黄褐色細砂泥 φ1~3cmの礫少量混
- 65 10YR5/3 にぶい、黄褐色細砂 10YR6/3 にぶい、黄褐色砂泥 + 微砂層混、φ1~4cmの礫多量混
- 66 2.5Y4/2~4/3 オリーブ褐色砂泥 微砂混
- 67 10YR4/4 褐色砂泥 φ1~6cmの礫多量混
- 68 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルトやや粘質 炭、焼土微量混
- 69 10YR4/3 にぶい、黄褐色粘質シルト φ1~2cmの礫少量混
- 70 5Y4/2 灰オリーブ色シルト
- 71 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルト
- 72 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト 粗砂混 (流路2497)

2区南壁断面図 (1:100)



1 1区第1期全景 [弥生時代] (東から)



2 1区第2・3期全景 [平安時代から鎌倉時代前半] (東から)



1 1区第4・5期全景 [鎌倉時代後半から江戸時代] (東から)



2 溝1030 (北から)



3 土坑1001 (南西から)



1 2区第1期全景 [弥生時代] (東から)



2 2区第2・3期全景 [平安時代から鎌倉時代前半] (東から)



1 埋納遺構2428（北から）



2 埋甕2061（西から）



3 土坑墓2216（北から）



1 地下室2123 (北東から)



2 地下室2123集石検出状況 (南東から)



3 地下室2123土器出土状況 (南から)



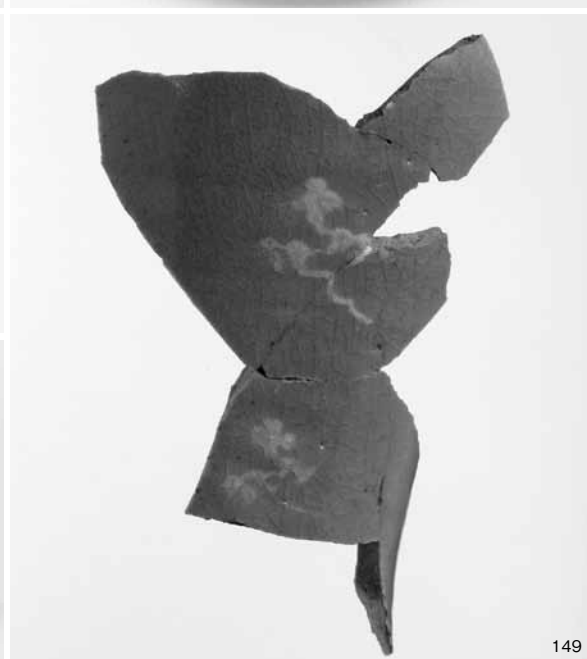
1 2区第4・5期全景〔鎌倉時代後半から江戸時代〕（東から）



2 土坑2209（北から）



3 柱列21（北から）



地下室2123出土土器 1





土坑1001・1002出土土製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうごじょうにぼうじゅういっちょうあと・からすまあやのこうじいせき							
書名	平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2016-8							
編著者名	近藤 章子							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうととししちぎょうく 京都市下京区	26100	1	35度	135度	2016年5月	423㎡	整備工事
からすまあやのこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	たかつじどおりほりかわひがしいる 高辻通堀川東入 にしたかつじちよう 西高辻町602 もときょうとしりつかくち 元京都市立格致 しょうがっこうない 小学校内		712	00分 02秒	45分 10秒	2016年5月 17日～2016 年9月8日		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	弥生時代	流路	弥生土器		弥生時代の流路を検出した。 平安時代中期から近世までの土地利用の変遷が明らかとなった。 稲荷社に関連する土坑から多数の土人形(キツネ)が出土した。		
烏丸綾小路遺跡	集落跡	平安時代	柱穴、埋納遺構	土師器、黒色土器、白色土器、焼締陶器、山茶碗、輸入陶磁器、金属製品				
		平安時代後期～鎌倉時代前半	埋甕、地下室、土坑墓、集石、柱列	土師器、須恵器、瓦器、山茶碗、輸入陶磁器、金属製品				
		鎌倉時代後半～室町時代	溝、集石、土坑、石室、柱列	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器				
		安土桃山時代～江戸時代	土坑、井戸	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、土製品、金属製品、石製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-8
平安京左京五条二坊十一町跡・
烏丸綾小路遺跡

発行日 2017年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961